

向  
矢  
部  
遺  
跡

埋蔵文化財発掘調査報告書  
国道122号道路改築事業に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書第2集

二〇〇七

財団法人群馬県太田土木事業団



向 矢 部 遺 跡

国道122号道路改築事業に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書第2集

2007

群馬県太田土木事務所  
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書 第417集

# 向 矢 部 遺 跡

国道122号道路改築事業に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書第2集

2 0 0 7

群 馬 県 太 田 土 木 事 務 所  
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団



## 序

国道122号道路改築事業は、現在建設工事が進められている北関東自動車道へのアクセス道路として計画されたもので、それに伴う埋蔵文化財の発掘調査は平成15年4月から当事業団が実施してまいりました。本書はその発掘調査報告書の第2集です。この事業の用地内には、東今泉鹿島遺跡、向矢部遺跡、矢部遺跡の3遺跡があり、本書には向矢部遺跡の調査成果を収めています。

本遺跡の周囲には数多くの遺跡が知られていますが、そのうちのいくつかについてはこの度の北関東自動車道・国道122号線の工事に伴って当事業団が発掘調査を行い、多大な成果を得ることができました。本遺跡は調査面積が狭いですが、古墳時代末から平安時代初期の竪穴住居等を調査できました。特に掘立柱建物には大型のものがあり、注目されます。近傍には古代山田郡衙が推定されているため、この周辺の遺跡はそれと密接に関わっていると考えられ、同時期の集落が広がっていることが判明してきました。本遺跡はその一部をなすもので、この調査の成果は本地域の歴史を考える上で貴重な資料になるものと思います。

最後になりましたが、群馬県太田土木事務所、群馬県教育委員会、太田市教育委員会、地元関係者の皆様には、発掘調査から本報告書刊行に至るまで多大なご指導・ご協力を賜りました。本書の刊行に際し、心から感謝申し上げますと共に、本書が歴史研究の資料として広く活用されることを願い、序といたします。

平成19年11月

財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団  
理事長 高橋 勇 夫





## 例 言

- 1 本書は国道122号道路改築事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書の第2集であり、向矢部遺跡の調査成果を取めた。
- 2 向矢部遺跡は太田市只上町に所在する。
- 3 発掘調査は、太田土木事務所の委託を受け、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が実施した。発掘調査期間、発掘調査組織は下記のとおりである。この期間中には向矢部遺跡と共に同事業の東今泉鹿島遺跡の調査を実施している。

第一次発掘調査 期間 平成15年4月1日～平成16年3月31日

組織	理事長 小野宇三郎	常務理事 住谷永市
	事業局長 神保佑史	東毛事務所長 平野進一
	東毛事務所調査研究部長 真下高幸	東毛事務所第3課長 中沢悟
	東毛事務所庶務係長 笠原秀樹	
	東毛事務所事務担当 柳岡良宏 北野勝美	
	調査担当 井川達雄（7月31日まで）	洞口正史（8月1日から） 長沼孝則

第二次発掘調査 期間 平成16年4月1日～平成17年3月31日

組織	理事長 小野宇三郎	常務理事 住谷永市
	事業局長 神保佑史	東毛事務所長 平野進一
	東毛事務所調査研究部長 真下高幸	東毛事務所第3課長 中沢悟
	東毛事務所庶務課長 笠原秀樹	
	東毛事務所事務担当 柳岡良宏 今泉大作 清水秀紀	
	調査担当 橋本淳 深澤慶一	

第三次発掘調査 期間 平成17年4月1日～平成17年5月31日

組織	理事長 小野宇三郎	常務理事 木村裕紀
	事業局長 津金澤吉茂	東毛事務所長 平野進一
	東毛事務所調査研究部長 真下高幸	東毛事務所庶務課長 笠原秀樹
	東毛事務所事務担当 柳岡良宏	
	調査担当 友廣哲也 柿沼弘之	

- 4 整理作業は、太田土木事務所の委託を受け、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が実施した。整理期間、整理組織は下記の通りである。

整理期間 平成17年4月1日～平成18年3月31日（東今泉鹿島遺跡と共に実施）

整理組織	理事長 小野宇三郎・高橋勇夫	常務理事 木村裕紀
	事業局長 津金澤吉茂	管理部長 矢崎俊夫
	資料整理部長 中東耕志	総務課長 宮前結城雄
	総務係 係長竹内宏 須田朋子 今泉大作 栗原幸代	
	経理係 係長石井清 吉田有光 清水秀紀 佐藤聖行	
	資料整理第2課長 相京建史	
	整理担当 井川達雄	

	整理補助員	伊藤淳子	小林恵美子	阿久津久子	町田礼子	福島瑞希	吉邑玲子
整理期間	平成18年4月1日～平成19年3月31日（東今泉鹿島遺跡と共に実施）						
整理組織	理事長	高橋勇夫			常務理事	木村裕紀	
	事業局長	津金澤吉茂			総務部長	萩原勉	
	資料整理部長	中東耕志					
	総務G	GL笠原秀樹	須田朋子	今泉大作	栗原幸代		
	経理G	GL石井清	齊藤恵利子	柳岡良宏	佐藤聖行		
	資料整理第2GL	関晴彦					
	整理担当	井川達雄					
	整理補助員	伊藤淳子	小林恵美子	阿久津久子	町田礼子	林陽子	吉邑玲子
整理期間	平成19年4月1日～平成19年9月30日						
整理組織	理事長	高橋勇夫			常務理事	木村裕紀	
	事業局長	津金澤吉茂			総務部長	萩原勉	
	資料整理部長	佐藤明人					
	総務G	GL笠原秀樹	須田朋子	齋藤洋子	矢島一美		
	経理G	GL石井清	齊藤恵利子	柳岡良宏			
	資料整理第2GL	大木神一郎					
	整理担当	高井佳弘					
	整理補助員	千代谷和子	小林恵美子	阿久津久子	笛木広美	町田礼子	

- 向矢部遺跡の調査面積は6.183㎡ある。
- 遺構写真については各担当者が、遺物写真については当事業団主幹佐藤元彦が担当した。
- 石製品・石器の石材については飯島静雄氏（群馬地質研究会）に鑑定を依頼した。また、土器の観察等には坂口一（当事業団主任専門員）の教示を受けた。
- 本書の編集、執筆分担は下記の通りである。  
編集 井川達雄・高井佳弘  
本文執筆 第1章第1節 中沢悟 第1章第2節・第2章 井川達雄 その他 高井佳弘  
遺物観察表 井川達雄 高井佳弘 橋本淳（縄文土器）
- また、本書の作成に当たっては、群馬県教育委員会、太田市教育委員会、群馬県土木部はじめ各方面から多大な協力を得た。また、発掘調査に際しては現場で働いていただいた多くの方々をはじめ、東今泉町・只上町をはじめ遺跡周辺の方々から多大なるご支援をいただいた。記して感謝の意を表する次第である。
- 当遺跡出土の遺物・実測図・写真等の資料は、群馬県埋蔵文化財調査センターに保管してある。

## 凡 例

- 1 遺構番号は、発掘調査時に付した番号をそのまま使用している。従って、整理段階で遺構から外したものは欠番となっている。
- 2 各遺構図の縮尺は下記の通りである。  
住居跡 1:60 竈 1:30 掘立柱建物・柱穴列 1:60 溝平面 1:100  
溝セクション 1:50 井戸 1:40 土坑・ピット 1:40 全体図(付図) 1:250  
遺構毎にスケールと縮尺率が記入してある。
- 4 遺物図の縮尺は1:3であるが、それ以外の縮尺もあるので各図のスケールを参照していただきたい。  
遺物写真の縮尺は基本的に約1:4であるが、一部異なるものもある。
- 5 遺物図に使用しているスクリーントーンの意味は、下記の通りである。



内黒

- 6 本書の北は、座標上の北である。座標系は、日本測地系の座標系第IX系(旧座標系)を使用している。
- 7 住居跡の主軸は竈の持つ壁を規準とし、竈を持つ壁と直行する軸(竈の向きにはほぼ一致)と真北との角度である。竈を持たない住居跡・掘立柱の主軸は、棟行方向とした。
- 8 遺物観察表の( )は推定値または残存値である。また、色調については、農林水産省農林水産技術会議事務局・財団法人日本色彩研究所監修「標準土色帖」を使用した。

# 目 次

序

例言

凡例

目次

第1章 調査の経緯・方法・経過	1
第1節 発掘調査に至る経緯	1
第2節 発掘調査の経過と方法	2
第2章 遺跡をとりまく環境	5
第1節 立地と自然環境	5
第2節 歴史的環境	5
第3章 調査の成果	9
第1節 遺跡と調査の概要	9
第2節 堅穴住居跡	10
第3節 掘立柱建物・柱穴列	41
第4節 井戸	51
第5節 溝・道	55
第6節 土坑	72
第7節 ビット	84
第8節 土器集中部	103
第9節 旧石器時代の確認調査	106
第10節 遺構外出土の遺物	108
第11節 東今泉鹿島遺跡の縄文時代の遺物	109
遺物観察表	116
第4章 まとめ	126

抄録

写真図版

付図 向矢部遺跡全体図 (1/250)

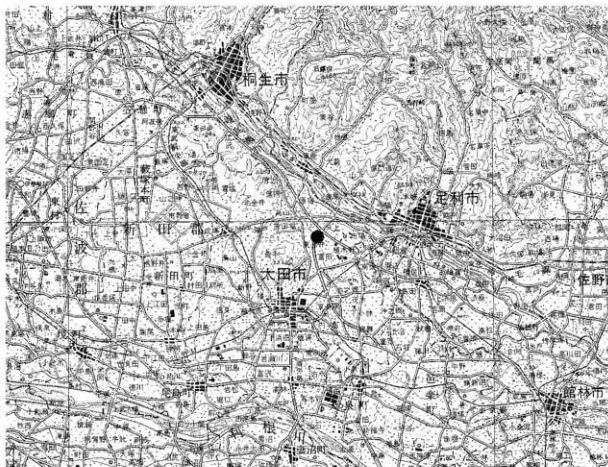
## 第1章 調査の経緯・方法・経過

### 第1節 発掘調査に至る経緯

東今泉鹿島遺跡と向矢部遺跡は、平成19年現在、工事が進んでいる北関東自動車道太田インターチェンジの南東約300mに位置する。北関東自動車道が完成すると太田インターチェンジと(国)122号道路は連結され、北関東自動車道への車の出入りは(国)122号を經由することになる。この工事計画にもとづき、群馬県教育委員会文化課と太田土木事務所との間で埋蔵文化財の取り扱いについて協議が行われた。

工事区域北側は向矢部遺跡の包蔵地にかかっているため、埋蔵文化財発掘調査対象地である。しかし南側の事業地の多くは現在水田耕作されている低地

となっており、埋蔵文化財包蔵地からは外れていた。事業地全体は、高い西北方面の矢田掘町方面から東南方向へ向かうならかな傾斜面をなしている。以前に土地改良事業が実施されており、表土の一部は入れ替え等が実施されている。土地改良前の地形図では、(国)122号西側に休泊堀に注ぎ込む小河川が認められ、西北に隣接する道路公園事業地から当該事業地にかけては、舌状の微高地形であった。また現存はしていないが、土地改良前には、この舌状の微高地中央付近、現在の北関東事業地から今回の調査区にかけてのいずれかの場所に、かつて鹿島社が



第1図 向矢部遺跡位置図(1/200,000)

国土地理院20万分の1  
地形図「宇都宮」使用

鎮座していたことのある土地でもある。このように、遺跡存在の可能性の高い事業地である。

協議の結果、調査対象地内の遺跡の有無と遺跡の範囲を確認するために、試掘調査を行うことが決まり、平成15年2月に群馬県教育委員会文化課が試掘調査を実施した。調査対象地は国道50号線以南であり、以北は今後の試掘対象とした。調査区は(国)122号の西側を西調査区、東側を東調査区、北側を北調査区とした。試掘調査の結果、西調査区では縄文時代・古墳時代前期・平安時代の住居が所々で重複して確認された。この地区の遺構密度は高かった。(発掘調査によっても多くの住居が確認された。また試掘調査では確認出来なかった奈良時代の水田や南の部分からは多くの奈良時代の掘立柱建物跡も調査された。)東調査区では、西調査区に近い部分で古墳・平安時代の住居が確認されたが、休泊堀に近い東側の遺構密度は低かった。(発掘調査では西調査区に近い部分で、発掘例の少ない古墳時代中期前半の住居が調査されている。)北調査区では、溝が多く確認さ

## 第2節 発掘調査の経過と方法

北関東自動車道は、群馬県の高崎市を通る関越自動車道から、栃木県の東北自動車道を通り、茨城県の常磐自動車道・那珂湊に通じる北関東の大動脈として、東日本高速道路株式会社(旧日本道路公団)により建設が進められている。太田市東今泉町には北関東自動車道の太田インターチェンジが建設されることとなり、そのインターチェンジへのアクセス道路として国道122号線の道路改築工事が、太田土木事務所により実施されることとなった。

太田インターチェンジへのアクセス道路としての国道122号線の道路改築事業は、東今泉町から国道50号線北の只上町に至る約1.5kmの範囲の区間である。この区間は、埋蔵文化財の遺跡としては、南から東今泉鹿島遺跡、向矢部遺跡、矢部遺跡にまたがっている。これらの遺跡の範囲は、東今泉鹿島遺跡が、調査予定地南端から休泊川まで、向矢部遺跡が休泊川から国道50号線まで、矢部遺跡が国道50号線以北

れた。(発掘調査ではこの溝の他に住居が多く調査されている。)このように、試掘調査によって場所による遺構の濃淡はあるが、ほぼ全面にわたり縄文時代・古墳時代前期・平安時代の集落や溝跡等、並びに古代の水田跡等の存在が確認された。(調査対象面積38,260m<sup>2</sup>)

試掘調査の結果をうけて群馬県教育委員会文化課と太田土木事務所との間で埋蔵文化財の取り扱いについて協議が行われ、平成15年4月から財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が発掘調査を開始した。一部設計変更による調査場所や調査対象面積の変更はあったが、発掘調査は平成17年5月で終了した。初年度の発掘調査は太田インターチェンジとの接合部分を優先し、2年目は(国)122号の拡張部分を中心に実施した。3年目の発掘調査は、土地買収の遅れた場所である。

なお、国道50号以北は、群馬県教育委員会文化課の試掘調査により遺構の無いことが確認された。

である。

遺跡の発掘調査は、太田土木事務所の用地買収状況、工事予定等の状況により、東今泉遺跡と向矢部遺跡を合わせて実施したため、調査地区番号、遺構番号はこの二遺跡を通して付した。

調査範囲は、この地区を南北に貫く国道122号線の両側にまたがっている。また、この区間の調査対象地は、国道122号線に出る市道で細かく区切られており、その区切りにあわせて調査区を設定した。調査地区番号は、国道122号線の西が、南から1区から15区、国道122号線の東が、南から16区から26区とした。このうち、1区から6区、16区から20区が東今泉鹿島遺跡、7区から12区が向矢部遺跡、13区から15区、23区から26区が矢部遺跡である。なお、矢部遺跡については、群馬県教育委員会文化課による発掘調査開始後の試掘調査により、遺構が検出されなかったため、調査対象地から除外された。従っ

て、遺構番号は付されていない。

調査は平成15年4月1日より実施された。調査地区は、太田土木事務所への要請による優先地区として、東今泉遺跡の3区・4区・5区・6区より実施された。続いて向矢部遺跡の7区北半部・8区、東今泉鹿島遺跡の19区・20区、1区・2区と実施した。なお、向矢部遺跡の7区南半部については、9月に南北方向のトレンチを3本掘削して遺構の有無を確認したところ、遺構が全く存在しないことを確認した。そのため、この部分については本調査を行っていない。

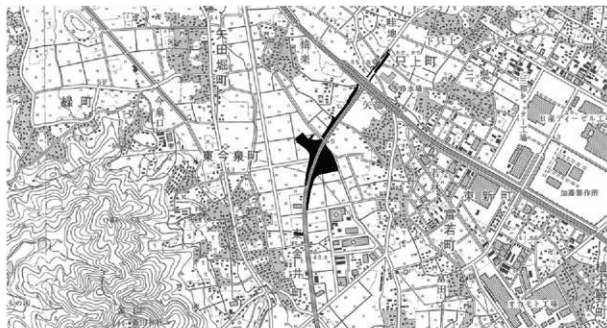
調査は、各調査区に国家座標、水準を設定した。各調査区の座標杭は10mを基本とし、一部5m杭を設定し、グリッドを設定した。

この地区は足尾銅毒汚染の耕地として、圃場整備が実施され、耕土が入れ替えられている。この圃場整備による耕土入れ替えは、大部分の地点で遺構面に達しており、この部分の表土掘削はバックホーを用いて実施した。また、遺構面に耕土入れ替えが達していない部分については、遺構が無いと判断された、浅間B軽石層・浅間B軽石混泥土層上面までは、バックホーを用いて実施した。

4月は、調査の準備、表土掘削等で、作業員が遺構確認をはじめたのは、4月25日であり、事務所近接の東今泉鹿島遺跡4区より開始した。調査は、4月・5月は順調に推移したが、周囲の水田に水の入る6月からは、調査区も水に浸かり、排水工事を余儀なくされた。一部の遺構は、排水路確保のため破壊されている部分がある。東今泉鹿島遺跡3区・5区・6区・20区、向矢部遺跡の7区・8区を調査し、秋には多くの住居跡及び洪水層下水田が確認できた東今泉鹿島遺跡19区、5区の半分、4区の事務所下部分、1区を発掘調査し、3月26日に平成15年度の発掘調査を終了した。

平成16年度は18区より発掘調査を開始し、東今泉鹿島遺跡21区・22区、向矢部遺跡9区・10区、16区、向矢部遺跡12区、17区、向矢部遺跡11区と発掘調査を続け、最後に3区の半部を調査し、3月25日に平成16年度の発掘調査を終了した。

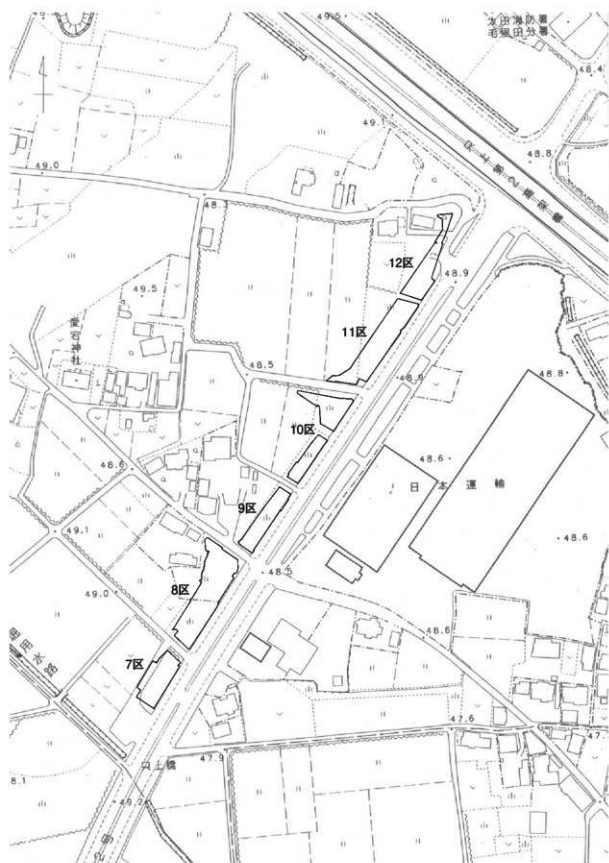
平成17年度は、4月より未買収地であった、向矢部遺跡8区と10区の一部を調査し、5月31日に東今泉鹿島遺跡、向矢部遺跡の全発掘調査を終了した。



第2図 東今泉鹿島・向矢部・矢部遺跡位置図(1/25,000)

国土地理院2万5千分の1  
地形図「足利南部」使用





第3図 調査区位置図(1/2,500)

太田市発行1/2,500地形図  
29(2006)使用

## 第2章 遺跡をとりまく環境

### 第1節 立地と自然環境

向矢部遺跡は、太田市只上町に所在する。本遺跡は、太田市の玄関である東武伊勢崎線太田駅の北北東約4km、太田市のシンボルであり、太田市民の憩いの場でもある金山城の北東約2kmに位置する。本遺跡の発掘調査は南に隣接する東今泉鹿島遺跡と共に、北関東自動車道太田インターチェンジに接続する国道122号線の道路改築工事に伴うものである。また、この国道122号線は遺跡の北端部で国道50号線と合流し、現代の交通の要所となっている。古代においてもこの付近を東山道が通っており、交通の要所であったことが窺える。

遺跡の立地する東今泉町・只上町周辺の自然地形は、北東方向から尾尾山地が連なり、南西方向には金山丘陵がのび、その間隙を、尾尾山地を源流とする渡良瀬川が流れている。遺跡は、この渡良瀬川が形成した河川堆積物による平地上に立地している。

### 第2節 歴史的環境

金山と渡良瀬川に挟まれた平地とその周辺は、旧石器時代から人間の生活が営まれ、その跡が遺跡として確認されている。旧石器時代の遺物は、太田市教育委員会の調査で、小丸山遺跡・金井口遺跡・焼山遺跡から発見されており、埋文事業団が実施した八ヶ入遺跡からは、細石刃約370点を含む、約2000点以上の旧石器が発見されている。また、峯山遺跡からは、多くの旧石器が発見されている。

縄文時代の遺跡は、太田市教育委員会調査の下宿遺跡・細田遺跡から発見されている。埋文事業団の調査では、二の宮遺跡から縄文時代中期後半から後期の住居跡が1軒、大道東遺跡からは縄文時代中期後半から後期の住居跡が5軒、楽前遺跡から縄文時代中期後半の住居跡が2軒発見されている。東今泉鹿島遺跡からも、縄文時代早期の押型土器から、前期の黒浜式・

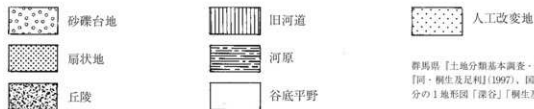
渡良瀬川は、何度も氾濫し、河道も変えながら扇状地や後背湿地を形成し、平地を形成していったことが確かめられている。向矢部遺跡は、この渡良瀬川が更新世後期に形成した、扇状地の上に形成された平地上に営まれている。遺跡調査の土層からも、基盤層である扇状地の砂礫層の上に、数多くの洪水層が確認できた。

渡良瀬川の氾濫は、遺跡の覆土からも確認でき、隣接する東今泉鹿島遺跡では、縄文包含層・古墳時代前期集落・古墳時代後期から7世紀と推定される水田等は洪水による砂層やシルト層によって埋没しており、水田を覆った洪水層の上に奈良時代から平安時代の集落が立地している。向矢部遺跡では調査範囲が狭いためもあり、これほど多様な遺構は見つかっていないが、洪水層と遺構との関係は同様であり、そのため多面調査が必要となった部分もある。

諸磯式・浮島式、中期の勝飯式・加曾利E式、後期の称名寺式・堀之内式・加曾利B式など各時期の土器が出土しているが、遺構は土坑が検出できただけであった。向矢部遺跡ではごく少数の遺物が出土しているのみである。

弥生時代の遺跡は発見例が少ないが、太田市教育委員会調査の焼山遺跡から弥生時代中期から後期の土器片が出土している。埋文事業団の調査でも、矢部遺跡から弥生時代中期須和式土器が出土しているが、遺構は確認されていない。

古墳時代になると、周辺の遺跡からも集落の発見が多くなる。太田市教育委員会が調査した二の宮遺跡・丸山北遺跡、埋文事業団が発掘調査した八ヶ入遺跡・大道西遺跡・大道東遺跡・楽前遺跡から古墳時代中期から後期の住居跡が発見されている。東今



群馬県『土地分類基本調査・深谷』(1991)、  
『同・桐生及足利』(1997)、国土地理院5万  
分の1地形図「深谷」「桐生及足利」使用

第4図 周辺地形分類図(1/50,000)

泉鹿島遺跡からも古墳時代中期前半の住居跡がまわって発見されているが、本遺跡の調査区からはその時期のものはない。遺跡の南約4kmには、国の史跡である太田天神山古墳、女体山古墳が存在する。

古墳時代後期から飛鳥時代には、周辺には集落とともに古墳や、生産跡の遺構も発見されている。菅ノ沢古墳群・七日市古墳群・矢田堀古墳群・猿楽古墳群・市場古墳群・内並木古墳群・寺ヶ入古墳群等、多くの古墳群が形成されている。矢田堀古墳群に属する巖穴山古墳は巨石石室をもつ、東毛唯一の方墳である。本遺跡の堅穴住居はこの時期以降のものが見ついている。

生産跡としても、古墳時代後期から古代の窯跡などが発見されている。亀山窯跡・金井口埴輪窯跡・母衣窯跡・菅ノ沢須恵器窯跡・諏訪ヶ入須恵器窯跡・強戸口須恵器窯跡・丸山北窯跡・萩原窯跡など須恵器・瓦・埴輪生産の窯跡が点在する。また、製鉄遺構では太田市教育委員会が調査した菅ノ沢遺跡や埋文事業団が発掘調査した峯山遺跡がある。東今泉鹿島遺跡では、古墳時代後半から飛鳥時代と推定される水田が発見できたが、本遺跡では明確な水田は見つっていない。

奈良・平安時代になると、遺跡周辺の集落は爆発的に増える。二の宮遺跡・八ヶ入遺跡・大道東遺跡・楽前遺跡・鹿島浦遺跡など、すべて大きな集落遺跡である。向矢部遺跡・東今泉鹿島遺跡も、多くの住居跡はこの時期の所産である。奈良・平安時代の本遺跡周辺は、古代の山田郡の中心地であり、郡家もこの付近に存在したと推定されている。また、八ヶ入遺跡・大道西遺跡・大道東遺跡・鹿島浦遺跡からは、古代の主要道路である東山道と推定される遺構が発見されている。

中世においても多くの城・館・砦が存在した。太田市のシンボルでもある金山城を盟主として、矢部城・富田館・狸ヶ入館・丸屋敷の砦・矢田堀城・丸山の砦などがある。

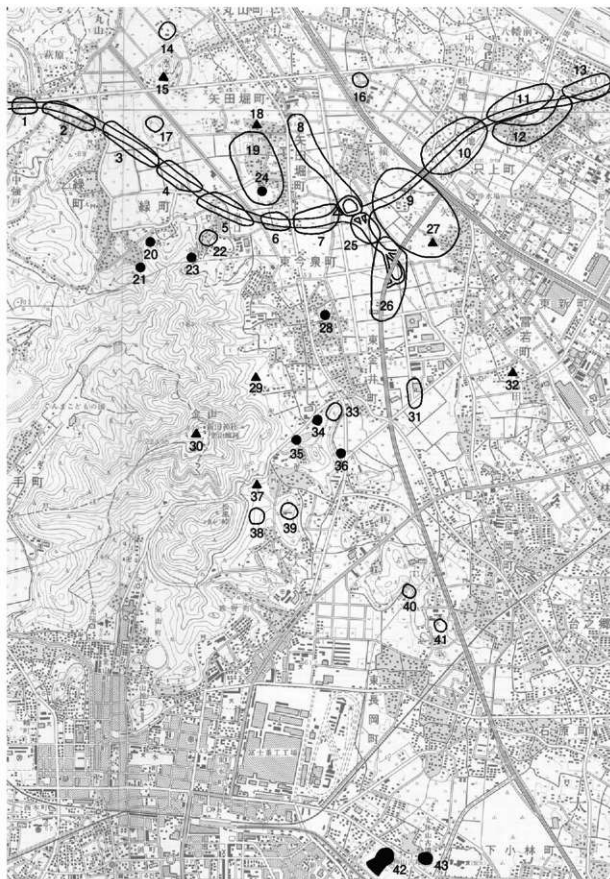
近世の遺跡は確認されていないが、各遺跡から陶磁器や軟質陶器の破片が出土しており、遺跡があ

ったことが窺える。また、曹源寺さざえ堂は、県指定の重要文化財に指定されている。

向矢部・東今泉鹿島遺跡周辺は、旧石器時代から近代に至る遺跡が密集している地域である。

#### 第5図 周辺遺跡分布図の遺跡名

- |              |             |            |
|--------------|-------------|------------|
| 1 峯山遺跡       | 2 萩原遺跡      | 3 古永条里水田遺跡 |
| 4 二の宮遺跡      | 5 八ヶ入遺跡     | 6 大道東遺跡    |
| 7 大道西遺跡      | 8 楽前遺跡      | 9 向矢部遺跡    |
| 10 矢部遺跡      | 11 只上深町遺跡   | 12 新島遺跡    |
| 13 道原遺跡      | 14 丸山北遺跡    | 15 丸山の砦    |
| 16 猿楽古墳群     | 17 小丸山遺跡    | 18 矢田堀城    |
| 19 矢田堀古墳群    | 20 強戸口須恵器窯跡 |            |
| 22 諏訪ヶ入須恵器窯跡 | 23 菅ノ沢古墳群   |            |
| 24 巖穴山古墳     | 25 鹿島浦遺跡    | 26 東今泉鹿島遺跡 |
| 27 矢部城       | 28 曹源寺さざえ堂  | 29 狸ヶ入館跡   |
| 30 金山城       | 31 下宿遺跡     | 32 富田館跡    |
| 33 金井口遺跡     | 34 金井口埴輪窯跡  |            |
| 35 母衣埴輪窯跡    | 36 亀山窯跡     | 37 丸屋敷の砦   |
| 38 寺ヶ入古墳群    | 39 内並木古墳群   | 40 焼山遺跡    |
| 41 細田遺跡      | 42 天神山古墳    | 43 女体山古墳   |



第5図 周辺遺跡分布図(1/25,000)

国土地理院2万5千分の1地形図  
「足利南部」「足利北部」「上野境」(復元)使用

### 第3章 調査の成果

#### 第1節 遺跡と調査の概要

向矢部遺跡は8ページの第5図に見るように、かなり広い範囲が想定される遺跡であり、今回の調査区はその想定範囲を横断するような位置にある。国道122号線の工事範囲は、東今泉鹿島遺跡の部分(第1集で報告)では太田インターに接続する道路であり、ほとんど道路新設に近いために非常に広い面積となっており、調査面積も大きかったが、向矢部遺跡の部分では道路幅の形となっている(第2図・第3図参照)ので、調査範囲は細長くなり、面積はかなり狭くなっている。そのため、調査できた遺構の数はあまり多くなかった。

以上のように、向矢部遺跡の調査区は現国道122号線の西側に沿った部分で、幅10~20m程度の狭く長い範囲である。この範囲には比較的狭い間隔で現道や用水路などが横断するため、個々の調査区はかなり細かく分割されることになった(第3図参照)。また、用地買収等の関係から、それらの調査は平成15年度から3ヶ年度にまたがって断続的に行われることになった。

本遺跡の調査は第1章第2節で述べたとおり東今泉鹿島遺跡と同時にに行ったため、調査区や遺構番号などは同事業の東今泉鹿島遺跡、向矢部遺跡、矢部遺跡を通して付けることとした。調査区の番号の付け方については同じく第1章第2節で述べたとおりで、本遺跡には7区から12区の番号を、南から割り当てることにした。遺構番号は調査の都合上発見順に付けたが、実際の調査は工事工程や用地買収などの関係から、各調査区を順番に調査することはできなかったため、結果的に遺構番号はかなり飛び飛びに付けざるを得ないこととなった。付図の遺構全体図を見ると、遺構番号がかなり断続的に付いているのはそうした理由による。また、本書にはない番号は、基本的に東今泉鹿島遺跡に付されているもので

ある。矢部遺跡は試掘調査で遺構が確認できなかったため本調査を行っていない。そのため、矢部遺跡には遺構番号は全く割り当てていない。

向矢部遺跡全域で調査した遺構は、竪穴住居11軒、掘立柱建物4棟、柱穴1条、溝23条、井戸6基、土坑64基、ピット175基、道跡1条等である。調査の意義については第4章でまとめるが、ここではその概要を述べておく。

竪穴住居は、8区北部に5軒、それに隣接する9区南部に3軒、さらに北の10区南部に1軒、12区南部に2軒とかなり散在する。竪穴住居同士の重複も8区の一か所(114号・115号)だけである。

掘立柱建物と柱穴列は、8区と9区北部とにある。4棟の掘立柱建物のうち3棟は、調査区の境付近にあるのでごく一部の調査にとどまり、全体を調査できたものは8区北部にある25号掘立柱建物だけである。この建物は7間×4間と大型で、4面に庇をもつ。柱穴が小さいため、上部構造はさほど立派なものとは思えないし、瓦も出土しないが、きわめて大きい建物であったことは間違いなく、その性格も含めて注目される建物である。

溝には古代~中・近世のものが含まれるが、遺物の出土は多くなく、時期を特定することができないものが大部分である。26、31、81、83、91、108号溝など、比較的幅が広く直線的に伸びるものがあるのが注目される。

井戸は6基あり、8区に3基、9区に1基、10区南部に2基である。その他、土坑・ピットは数多く見られるが、やはり時期・性格を特定するのが困難なものが多い。

道跡は約1.6m離れて並行する2本の溝である。中近世以降のものと思われるが、わずかな長さの調査であり、性格不明である。

## 第2節 竪穴住居跡

### 92号住居 (第6~8図, P.L. 6・31)

9区南端部にあり、南西隅が調査区外となるが、ほぼ全形が判明する。

**位置** 9区 X=39218~223, Y=-36315~321

**重複遺構** 複数の攪乱と重複し、壁と床面の一部がそれによって壊されているが、遺構との重複はない。

**形態** 南西隅が調査区外となるが、それはわずかな部分であり、全体としては東西方向に長い長方形である。

**方位** N-2°-W

**規模** 3.98×4.85m

**面積** (15.64)㎡

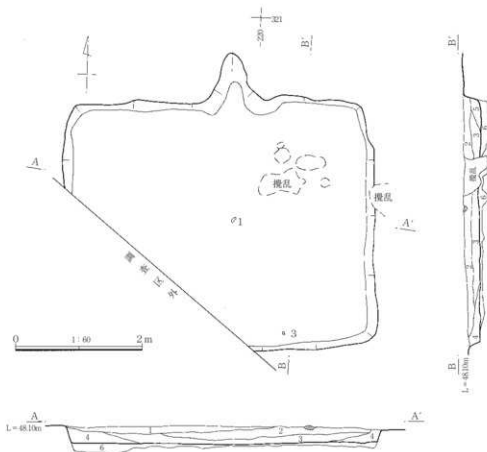
**壁高** 15~30cm

**床面** 掘方は北東隅、南東隅、西壁際などをやや深く掘っており、それらを多量のロームを含んだ暗褐色土で埋め戻して床面としている。

**柱穴** 確認できなかった。

**貯蔵穴** 確認できなかった。

**周溝** 確認できなかった。



1 暗褐色土：微量のローム粒子・黒褐色土粒子を含む。

2 暗褐色土：少量のロームブロック・黒褐色土ブロックを含む。

3 暗褐色土：少量のローム粒子を含む。

4 黒褐色土：少量のローム粒子を含む。

5 暗褐色土：少量のロームブロック及び微量の黒褐色土ブロックを含む。

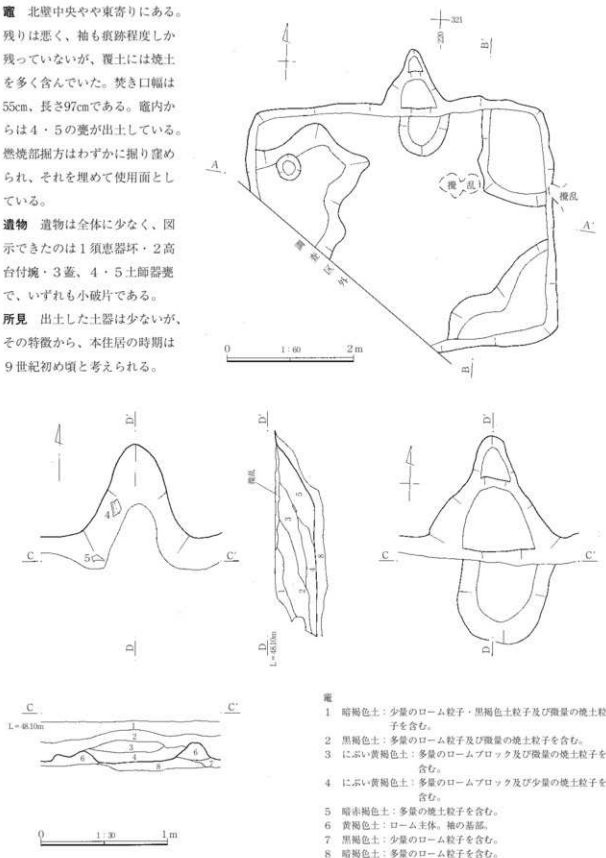
6 暗褐色土：多量のローム粒子を含む。

第6図 92号住居跡

**竪** 北壁中央やや東寄りにある。残りは悪く、袖も痕跡程度しか残っていないが、覆土には焼土を多く含んでいた。焚き口幅は55cm、長さ97cmである。竪内からは4・5の甕が出土している。燃焼部掘方はわずかに掘り窪められ、それを埋めて使用面としている。

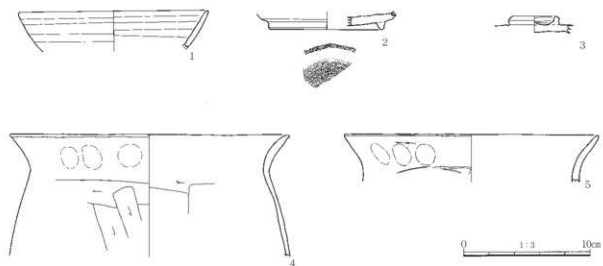
**遺物** 遺物は全体に少なく、図示できたのは1須恵器杯・2高台付碗・3蓋、4・5土師器甕で、いずれも小破片である。

**所見** 出土した土器は少ないが、その特徴から、本住居の時期は9世紀初め頃と考えられる。



第7図 92号住居跡掘方、竪





第8図 92号住居跡出土遺物

93号住居 (第9・10図, P.L. 6・31)

9区中央やや南にある。

位置 9区 X=36327~331, Y=-39211  
~216

重複遺構 なし。

形態 東西方向に長い長方形である。

方位 N-83°-E

規模 3.54×2.99m

面積 10.71㎡

壁高 24~34cm

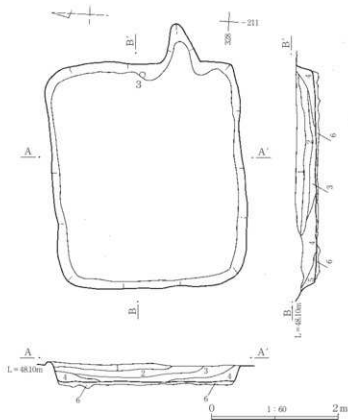
床面 下層の礎の上端が住居西側を中心として床面上に現れている。

柱穴・貯蔵穴・周溝 いずれも確認できなかった。

竈 東壁南寄りにある。残りは悪く、袖は痕跡程度しか残っていない。焚き口幅は70cm、長さ84cmである。覆土には焼土はあまり多く含まれていない。

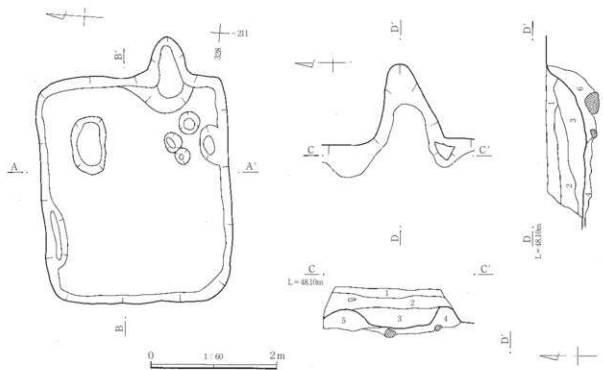
遺物 遺物の出土量は多くないが、1・2の土師器杯、3の須恵器杯、4・5の蓋、6の長頸瓶が図示できた。

所見 遺物には複数の時期のものが混在しているが、住居の形態と3の須恵器杯から住居の時期は9世紀代と思われる。



- 1 暗褐色土：微量のローム粒子を含む。
- 2 暗褐色土：少量のローム粒子及び微量の黒褐色土ブロックを含む。
- 3 黒褐色土：少量のローム粒子及び微量の炭化物を含む。
- 4 黒褐色土：微量のローム粒子を含む。
- 5 黒褐色土：多量のロームブロックを含む。
- 6 黒褐色土：多量のローム粒子を含む。

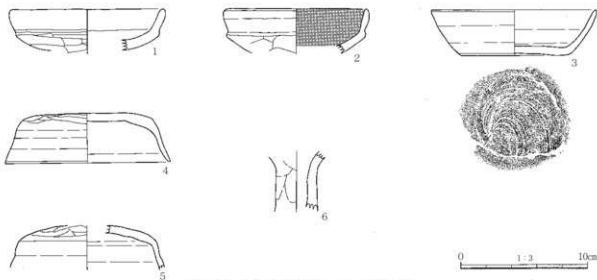
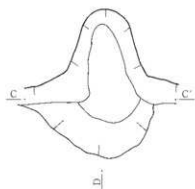
第9図 93号住居跡



竪

- 1 暗褐色土：少量のローム粒子及び微量の焼土粒子を含む。
- 2 黒褐色土：微量のローム粒子・焼土粒子を含む。
- 3 黒褐色土：少量のロームブロック・焼土粒子及び微量の炭化物を含む。
- 4 黒褐色土：微量のローム粒子・焼土粒子・炭化物を含む。
- 5 暗褐色土：多量のロームブロックを含む。
- 6 暗褐色土：微量のローム粒子・焼土粒子を含む。

0 1:30 1m



第10図 93号住居跡掘方、竪、出土遺物

96号住居 (第11・12図, P.L.7・31)

9区中央付近にあり、調査区北西壁にかかって北側が調査区外となるほか、81号溝にも大きく破壊されている。

位置 9区 X=36336-341, Y=-39211-216

重複遺構 北側に81号溝が重複する。本住居が古いことが調査区西壁の断面(B-B'セクション)で確認できた。

形態 北側の大部分が調査区外となるため不明であるが、方形になるものと思われる。

方位 北西に竈があると想定してN-18°-Wと推定する。

規模 (2.59)×3.65m

面積 (7.23)㎡

壁高 30~40cm

床面 掘方底面はほぼ平坦で、わずかな凹凸にごく薄く黄褐色土を入れるほかは、地山を直接床面としていているところが多い。

柱穴 確認できなかった。

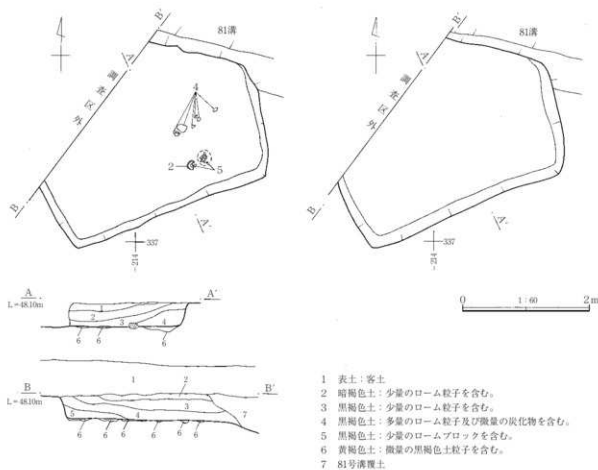
貯蔵穴 確認できなかった。

周溝 確認できなかった。

竈 調査した範囲では確認できなかった。住居北側にあるものと思われる。

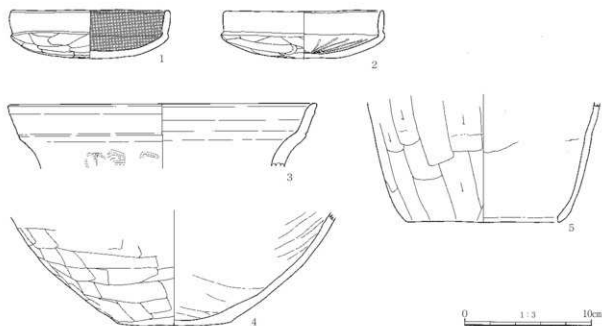
遺物 1・2は土師器環、3は須恵器甕、4は土師器甕、5は土師器甌である。2の内面には粗い放射状暗文が施される。

所見 住居の半分程度の調査なので詳細は不明であるが、出土した土器から住居の時期は7世紀前半であると思われる。



- 1 表土:客土
- 2 暗褐色土:少量のローム粒子を含む。
- 3 黒褐色土:少量のローム粒子を含む。
- 4 黒褐色土:多量のローム粒子及び微量の炭化物を含む。
- 5 黒褐色土:少量のロームブロックを含む。
- 6 黄褐色土:微量の黒褐色土粒子を含む。
- 7 81号溝覆土

第11図 96号住居跡、掘方



第12図 96号住居跡出土遺物

## 107号住居 (第13・14図, P L. 7)

10区の南半部にある。北西側が大きく調査区外となる。

位置 X = 36369 ~ 374, Y = -39186 ~ 191

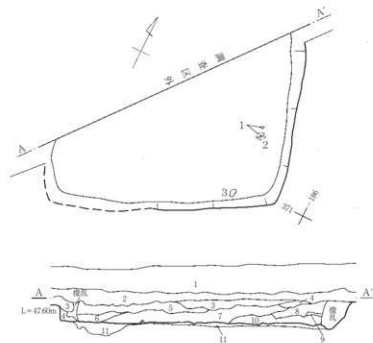
重複遺構 複数の攪乱と重複するが、他の遺構との

重複はない。

形態 北西側が調査区外となるので不明である。

方位 北西に竈があると想定するとN-27°-Wである。

規模 南東壁の長さは3.80m。



第13図 107号住居跡

0 1:40 2m

- 1 表土：現耕作土
- 2 灰褐色土：少量の小礫・軽石(AsB)を含む。
- 3 灰褐色土：少量のロームブロック・軽石(Hr-FA-AsC)及び微量の小礫を含む。
- 4 灰褐色土：やや多量のロームブロック・軽石(Hr-FA-AsC)を含む黒褐色土ブロックを含む。
- 5 褐色土：多量の軽石(Hr-FA-AsC)及び少量のロームブロックを含む。
- 6 にふい褐色土：多量のロームブロックを含む。
- 7 暗灰黄色土：ローム小ブロック主体。少量の軽石(Hr-FA-AsC)を含む。
- 8 灰褐色土：少量のローム粒子及び微量の軽石(Hr-FA-AsC)を含む。
- 9 褐色土：やや多量のローム粒子を含む。
- 10 褐色土：少量のローム粒子・ロームブロック・軽石(Hr-FA-AsC)を含む。
- 11 黄色土：ローム主体。やや多量の灰色土ブロックを含む。

面積 (7.56)㎡

壁高 南端付近は削平されて低くなっているが、北半部は残りがよく、25~35cmある。

床面 掘方は全体に浅く平坦であるが、壁付近のみやや深く掘っている。それを黄色土を用いて埋め戻し、床面としている。

柱穴 確認できなかった。

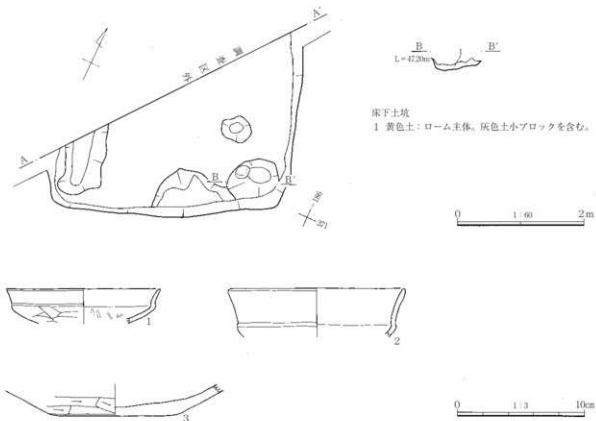
貯蔵穴 調査した範囲では確認できなかった。

周溝 確認できなかった。

竈 確認できなかった。住居の北~西側にあるものと思われる。

遺物 遺物は少ない。図示したのは土師器坏と甕であるが、いずれも小破片である。1の内面には粗い放射状暗文が施される。

所見 遺物が少ないが、7世紀前半の住居であると思われる。



第14図 107号住居跡掘方、床下土坑、出土遺物

108号住居 (第15~17図、P L.7・8・31・32)

12区の南半部にあり、西側が調査区外となる。

位置 12区 X=36490~494、Y=-39103~108

重複遺構 なし。

形態 西側が調査区外となるため不明である。南壁の中央付近がやや膨らむので、不整な方形になるものと思われる。

方位 N-102°-E

規模 - ×3.30~3.60m

面積 (9.04)㎡

壁高 壁の残りは全体によく、43~54cmある。

床面 地山を直接床面としている。

柱穴 確認できなかった。

貯蔵穴 確認できなかった。

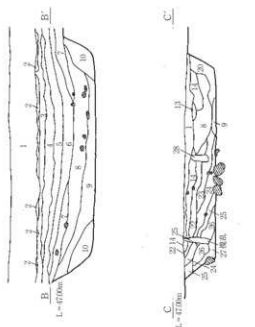
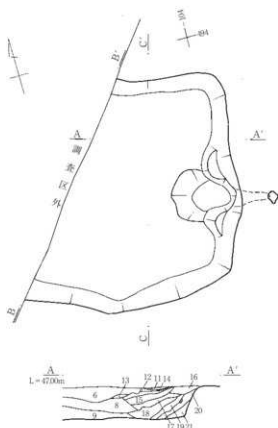
周溝 確認できなかった。

竈 東壁中央にある。煙道の天井部が残る。袖は痕

跡程度の残存度である。焚き口幅58cm、長さ115cmであり、燃焼部は浅く掘り窪められている。竈内には土器がつぶれたような状態で出土した。石も数点出土しているが、芯材が支脚としたものであろう。

**遺物** 竈内から多くの土器片が出土したが個体数は少ない。図示した土師器杯・甕は全て竈内からの出土である。

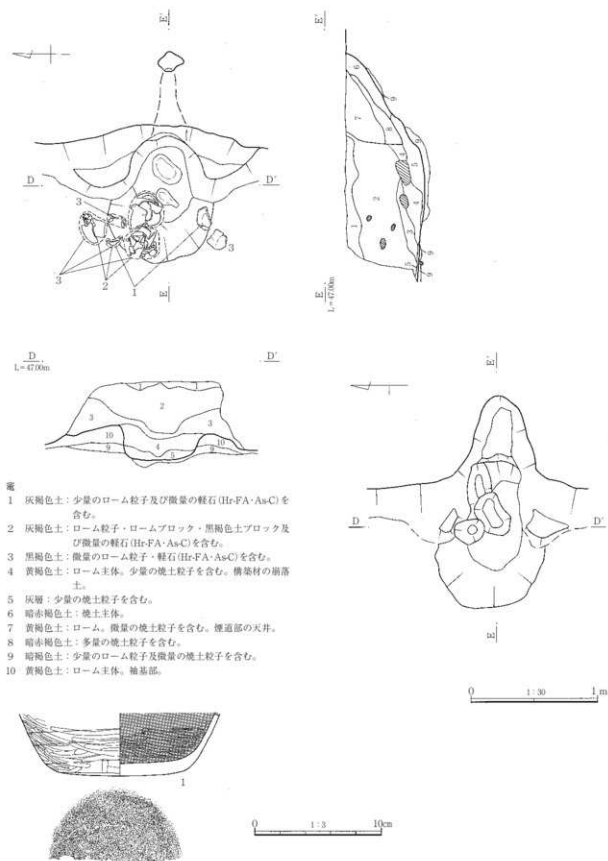
**所見** 出土した土器から、住居の時期は8世紀後半だと思われる。



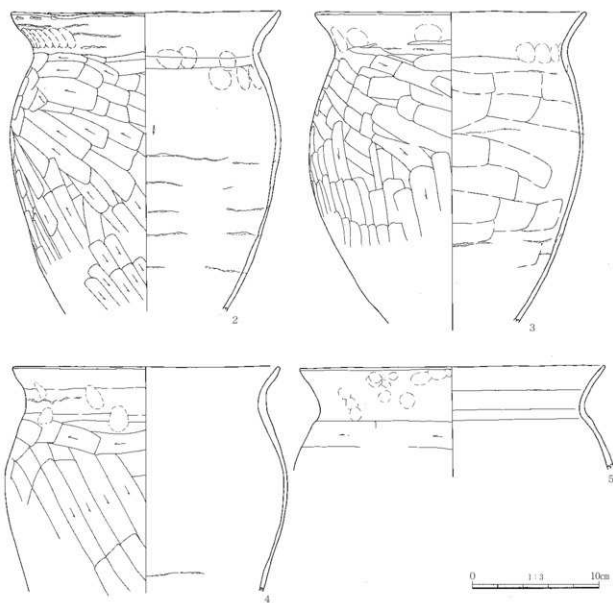
- 1 表土
- 2 淡黄色土：洪水堆積層。暗褐色土を含む。
- 3 暗褐色土：軽石(As-B)を含む。
- 4 浅間B軽石層
- 5 暗灰色土：やや粘質。微量の軽石(Hr-FA・AsC)を含む。
- 6 灰褐色土：やや粘質。微量の軽石(Hr-FA・AsC)を含む。
- 7 灰褐色土：微量の軽石(Hr-FA・AsC)を含む。
- 8 灰褐色土：少量のロームブロック及び微量の軽石(Hr-FA・AsC)を含む。
- 9 灰褐色土：ローム粒子・ロームブロックを含む。
- 10 黒褐色土：少量のローム粒子を含む。
- 11 褐灰色土：少量のローム粒子及び微量の軽石(Hr-FA・AsC)を含む。
- 12 褐灰色土：少量のローム粒子・軽石(Hr-FA・AsC)を含む。
- 13 暗褐色土：少量の黒褐色土ブロック及び微量の軽石を含む。
- 14 灰黄褐色土：やや多量のロームブロックを含む。
- 15 にぶい黄褐色土：少量の軽石(Hr-FA・AsC)及び微量のロームブロックを含む。
- 16 灰褐色土：少量の軽石(Hr-FA・AsC)を含む。

- 17 灰黄褐色土：ロームブロックを含む。
- 18 暗褐色土：少量のロームブロック及び微量の軽石(Hr-FA・AsC)を含む。
- 19 暗褐色土：やや多量のロームブロック及び微量の軽石(Hr-FA・AsC)を含む。
- 20 暗褐色土：微量のロームブロック・軽石(Hr-FA・AsC)を含む。
- 21 にぶい黄褐色土：やや多量のロームブロックを含む。
- 22 にぶい黄褐色土：多量のロームブロック及び少量の黒褐色土ブロックを含む。
- 23 暗灰黄色土：ロームブロック主体。
- 24 灰黄色土：ロームブロック主体。
- 25 暗灰黄色土：ロームブロック主体。23層より暗い。
- 26 灰黄色土：ロームブロック主体。24層より明るい。
- 27 暗灰黄色土：ロームブロック主体。23層より明るい。

第15図 108号住居跡



第16図 108号住居跡画、出土遺物(1)



第17図 108号住居跡出土遺物(2)

## 109号住居 (第18~20図, P.L.8・32)

12区南半部の中央やや南寄りにある。試掘時のトレンチによって一部を破壊してしまったが、全体を調査することができた。

位置 12区 X=36486~491, Y=-39096~39101

重複遺構 なし。

形態 南北に長い長方形。

方位 N-108°-E

規模 3.54×4.42m

面積 15.30㎡

壁高 38~45cm

床面 地山をそのまま床面としている。下層の礫層の上端が現れているため、床面には石が数多く見られる。

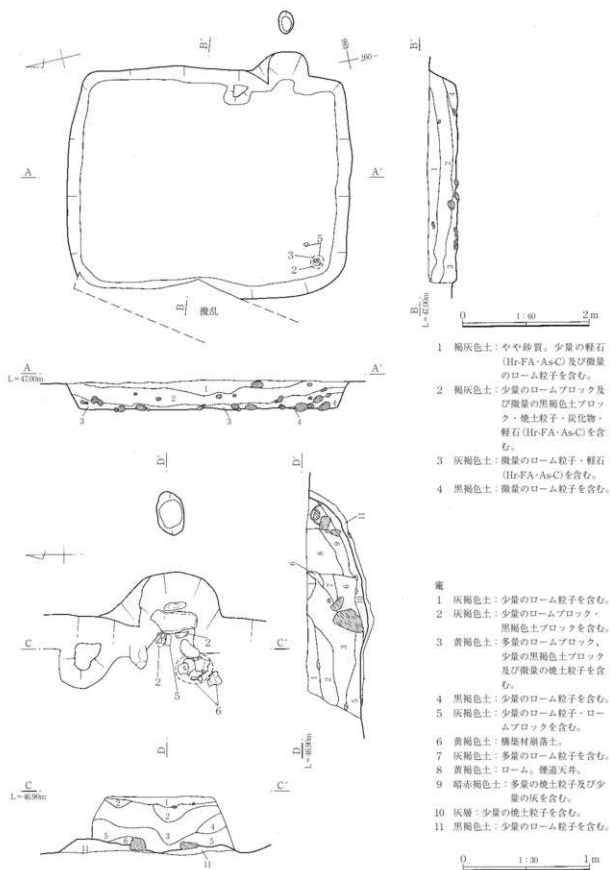
柱穴 確認できなかった。

貯蔵穴 確認できなかった。

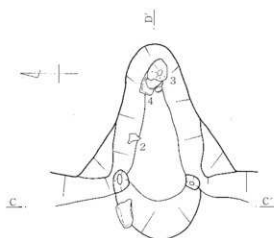
周溝 確認できなかった。

竈 東壁南端近くにある。煙道部の天井が残るが、袖は痕跡程度であり、残りがいいとは言えない。焚き口幅は右側の袖がなくなっているため、不明





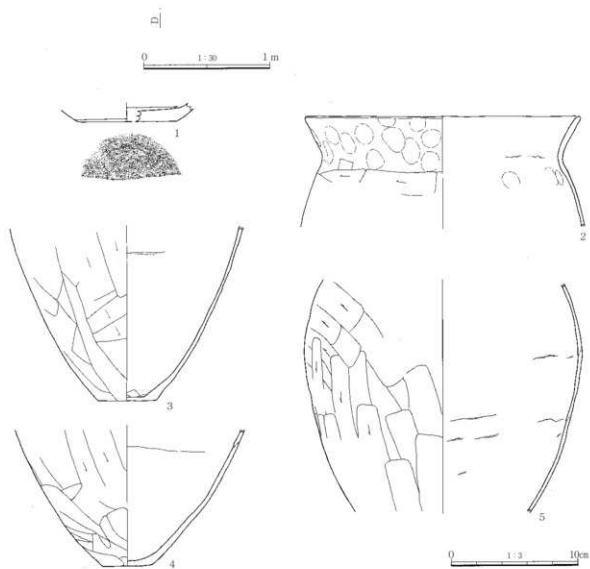
第18図 109号住居跡、壙



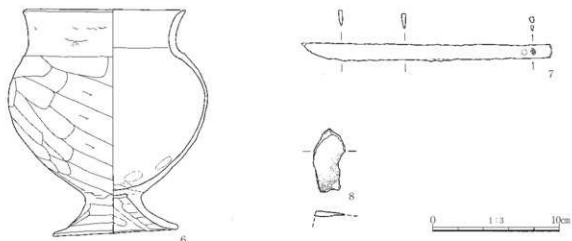
である。左側の袖も現状ではやや離れすぎており、本来の形とは思えない。長さは125cmあり、煙道部がかなり長い。セクションから見ると、煙道部は溝状に掘った後、ローム土を貼り付けて作っているらしい。竈内からは2・5・6の甕が出たほか、掘方から3・4の甕底部も出土した。

**遺物** 土器は主として竈内と住居南西隅とから出土している。図示したのは須恵器坏1点、土師器甕4点、台付甕1点のほか、刀子と用途不明の鉄製品である。

**所見** 出土した遺物から、住居の時期は9世紀前半だと思われる。



第19図 109号住居跡電磁方位、出土遺物(1)



第20図 109号住居跡出土遺物(2)

**111号住居** (第21~23図、P.L.9・32・33)

8区北西隅近くにある。調査区を拡張して全体を調査することができた。

**位置** 8区 X=36313~318、Y=-39243~248

**重複遺構** 北西隅に212号土坑、中央やや西寄りに215号土坑が重複する。いずれも本住居より新しい。212号土坑は浅く、壁を壊す程度であるが、215号土坑は深く、床面を完全に掘り抜いてしまっている。

**形態** 東西方向に長い長方形。

**方位** N-30°-W

**規模** 3.05×3.70m

**面積** 11.45㎡

**壁高** 32~46cm

**床面** 掘方底面には凹凸があり、特に西半分の壁際と北東隅付近が深く掘られている。それを黄褐色ロームを多く含んだ褐灰色土で埋め戻し、床面としているが、地山を直接床面としているところもわずかにある。

**柱穴** 明瞭な柱穴は確認できなかったが、北東壁と南東壁の壁際中央付近からビットが1基ずつ見つかっている。いずれも浅いため、通常の柱穴とは思えないものであるが、各辺の中央付近にあるため、住居内の何らかの施設に関わるものであることは確実であろう。それぞれの大きさは以下の通

りである。

ビット1 33×37cm 深さ16cm

ビット2 24×30cm 深さ12cm

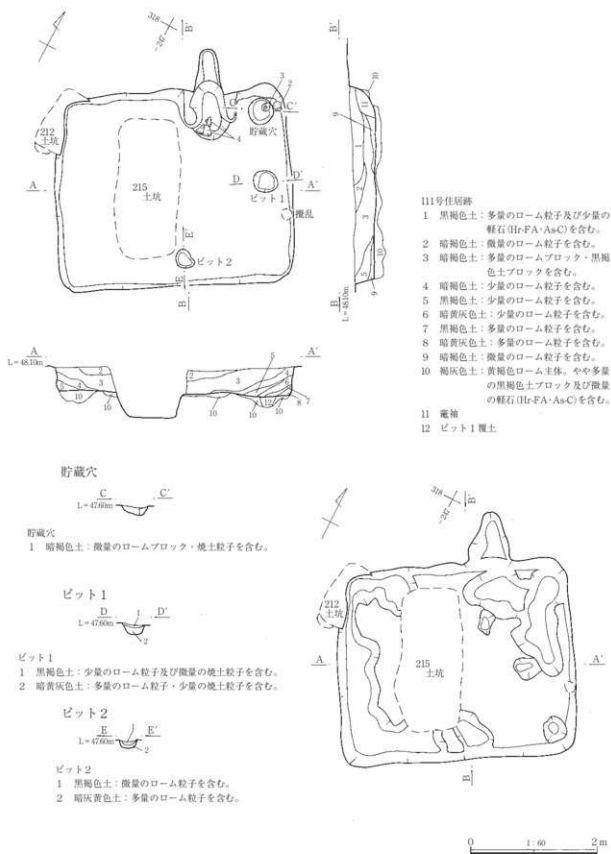
**貯蔵穴** 北東隅にある。38×40cmのほぼ円形で、深さは14cmとごく浅い。2と3の土器は貯蔵穴の中ではなく、貯蔵穴埋土の上面から出土している。

**周溝** 確認できなかった。

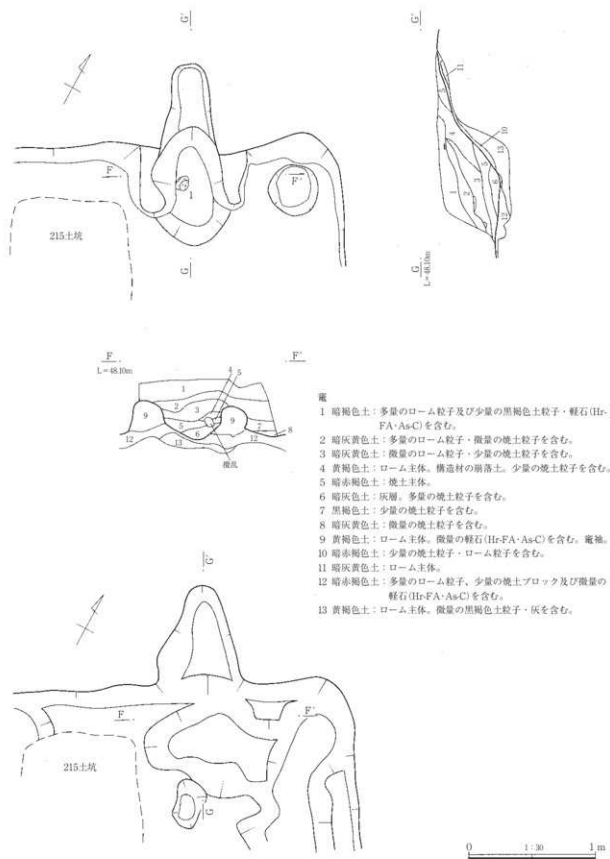
**竈** 北西壁中央やや北寄りにある。両袖とも残り、残存度は比較的良好。燃焼部はわずかに掘り窪められている。焚き口幅は55cm、長さは燃焼部の凹みの先端から計測して144cmである。竈内からは1の須恵器坏と4の土師器鉢が出土している。

**遺物** 図示したのは1須恵器坏、2土師器甕、3同付甕、4同鉢である。1の須恵器坏は蓋の可能性もある。1と4は竈から、2と3はほぼ形を保持したまま貯蔵穴付近から出土した。

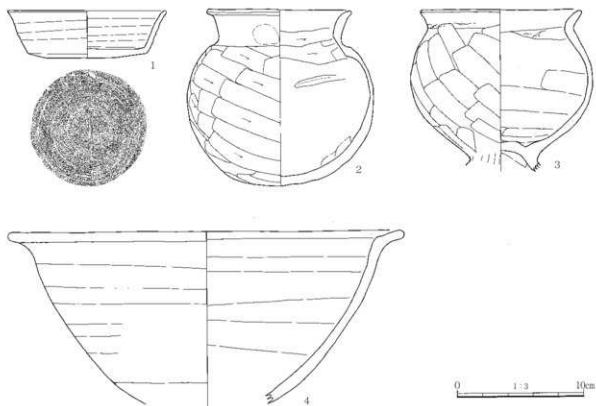
**所見** 出土した遺物から、住居の時期は8世紀後半であると思われる。



第21図 111号住居跡、貯蔵穴、ピット、掘方



第22図 111号住居跡画



第23図 111号住居跡出土遺物

**112号住居** (第24～28図、P.L.9・10・33・34)

8区北部にある。竈を北壁から東壁に作り替えている。

**位置** 8区 X=36303～309、Y=-39231～239

**重複遺構** 南西隅付近に244号土坑と1号道跡の北側溝、西壁中央に278号土坑、中央やや東に214号土坑が重複する。本住居は214号・244号土坑・1号道よりも古く、278号土坑よりも新しい。214号土坑は第24図で位置を示したが、底面は浅く、住居の床面に達していない。

**形態** 東西に長い長方形だが、東壁の方がやや異なり、この部分が不整形となる。

**方位** N-66°-E

**規模** 5.56×3.83m

**面積** 19.09㎡

**壁高** 45～54cm

**床面** 掘方底面には細かい凹凸があるほか、壁際が周溝状に深く掘られている。これらをごく薄く埋

め戻し、床面としている。

**柱穴** 確認できなかった。掘方底面で見つかったいるピットはいずれも浅く、柱穴ではない。

**貯蔵穴** 住居北東隅にある。方形に近い円形で、大きさは57×49cmであり、深さは14cmで浅い。18の須恵器平瓶は、この貯蔵穴の肩にのりような位置から、形をほぼ保ったまま出土している。

**周溝** 西半部にあり、竈付近を除いて3方向を巡る。幅20～30cm、深さ5～10cmであり、はっきりとした周溝である。

**竈** 東壁中央やや南寄りと、北壁中央東寄りとに1基ずつある。北壁のものは袖などが残っていないため、より古い竈であると考えられ、北壁から東壁へと移動したものと考えられる。ここでは新しいものを第1竈、古いものを第2竈と呼んで報告する。第1竈は東壁にあり、煙道が長く延びる構造である。燃焼部をわずかに掘り窪めている。焚き口幅は65cm、長さは燃焼部の凹みの先端から

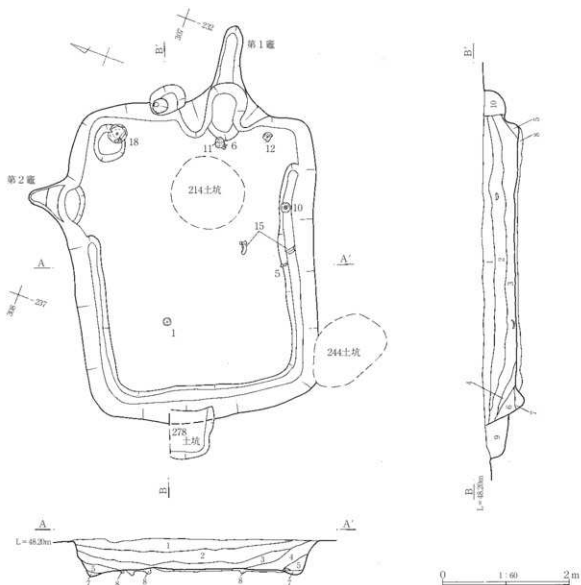
第3章 調査の成果

181cmであり、かなり長い。第2竈は袖が撤去された状態で、煙道は短い。壁面で計測すると幅は66cm、長さ87cmである。

**遺物** 遺物の出土は比較的多い。1～5は土師器杯、6～8は須恵器杯、9～13は須恵器蓋、14～17は土師器甕、18は須恵器平瓶である。完形に近いも

のや、大きな破片のものは1を除いて東と南の壁際付近から出土したことが多い。

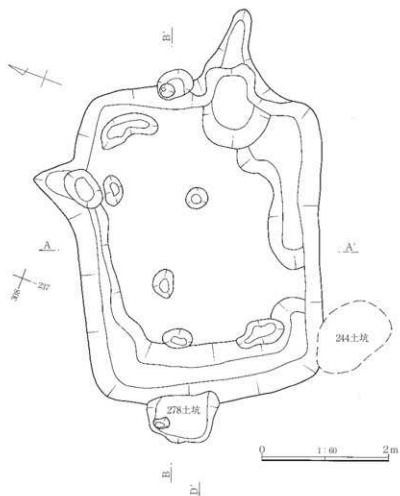
**所見** 遺物が比較的多い住居である。これらの出土遺物から、住居の時期は8世紀前半であると思われる。



- 1 暗褐色土：微量の軽石(Hr-FA・As-C)・炭化物を含む。
- 2 暗褐色土：微量のローム粒子・炭化物を含む。
- 3 暗褐色土：少量のローム粒子・ロームブロックを含む。
- 4 黒褐色土：少量のローム粒子・ロームブロックを含む。
- 5 にぶい黄褐色土：多量のローム粒子・ロームブロックを含む。
- 6 黒褐色土：少量のローム粒子を含む。

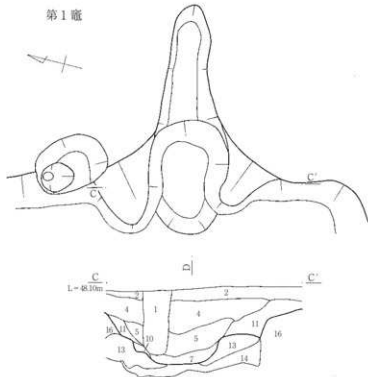
- 7 褐灰色土：少量のロームブロック・黒褐色土ブロックを含む。
- 8 灰黄褐色土：多量のロームブロック及び微量の軽石(Hr-FA・As-C)を含む。
- 9 278号土坑覆土
- 10 ビット覆土

第24図 112号住居跡

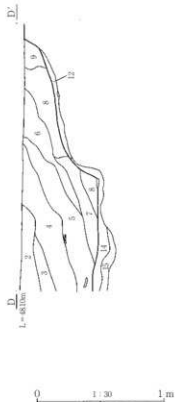


## 第1窟

- 1 黒褐色土：少量のローム粒子を含む。ピット覆土。
- 2 暗褐色土：微量の軽石(Hr-FA-AsC)、炭化物を含む。
- 3 暗褐色土：微量のローム粒子・炭化物を含む。
- 4 にぶい黄褐色土：少量のロームブロックを含む。
- 5 にぶい黄褐色土：少量のローム粒子・焼土粒子を含む。
- 6 黄褐色土：ローム主体。構造材の崩落土。少量の焼土粒子を含む。
- 7 にぶい黄褐色土：多量の焼土粒子を含む。
- 8 赤褐色土：焼土主体。
- 9 黒褐色土：多量の焼土粒子を含む。
- 10 黄褐色土：粘質ローム。微量の焼土粒子を含む。竈場。
- 11 にぶい黄褐色土：多量のロームブロックを含む。
- 12 赤褐色土：やや多量の焼土粒子及び少量のロームブロック・粒子を含む。
- 13 にぶい黄褐色土：やや多量のロームブロックを含む。袖蓋部。
- 14 にぶい黄褐色土：少量の焼土ブロックを含む。
- 15 にぶい黄褐色土：多量のロームブロックと微量の軽石(Hr-FA-AsC)を含む。
- 16 地山：住居壁。

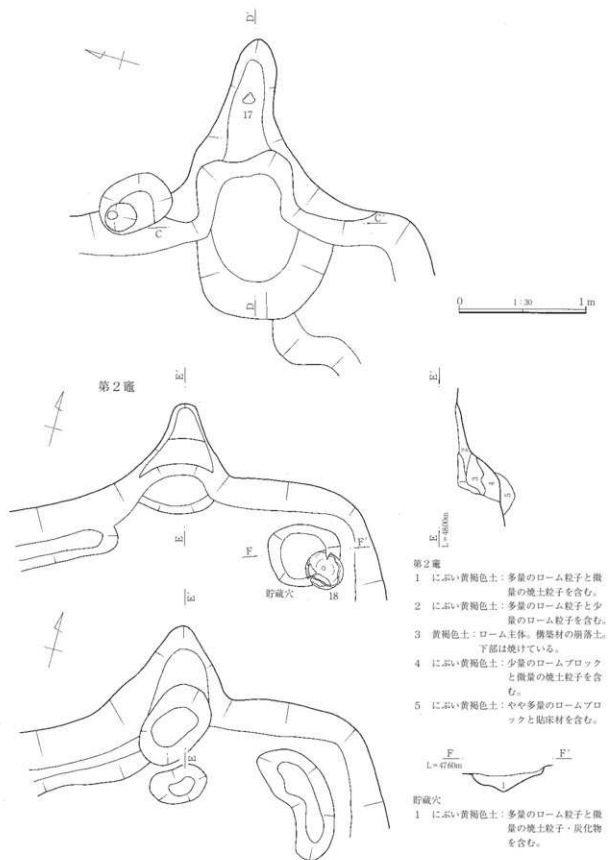


## 第1窟

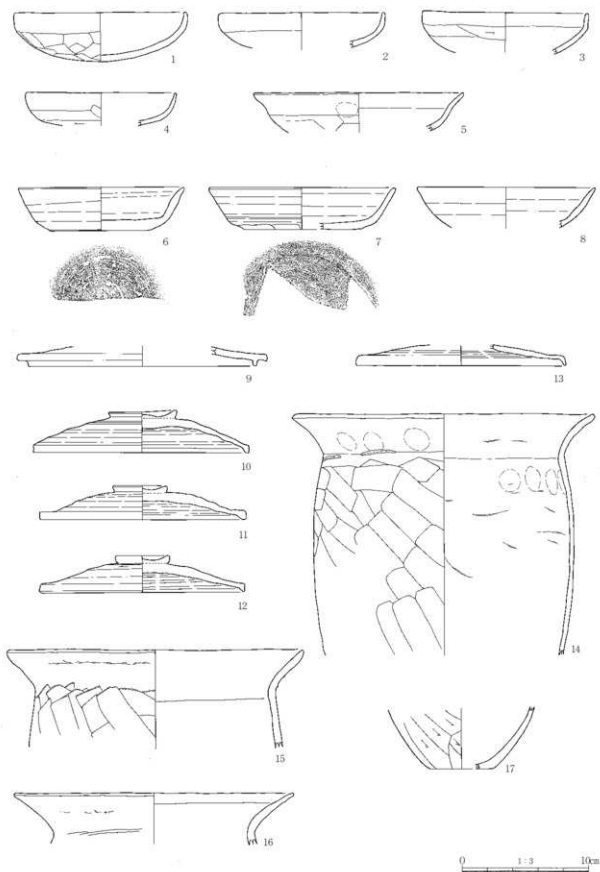


第25図 112号住居跡掘方、第1窟

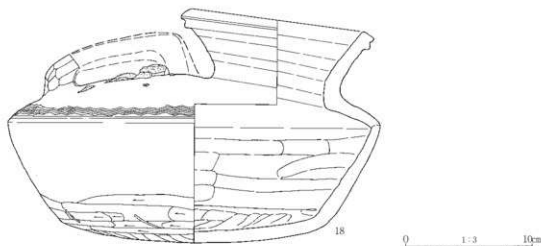




第26図 112号住居第1窟据方、第2窟



第27図 112号住居跡出土遺物(1)



第28図 112号住居跡出土遺物(2)

**113号住居** (第29~33図、P.L.10・11・34・35)

8区北部にある。

**位置** 8区 X=36299~304、Y=-39240~245

**重複遺構** 25号掘立柱建物、105号溝、217号土坑と重複する。本住居はいずれの遺構よりも古い。

**形態** 東西がやや長い方形。

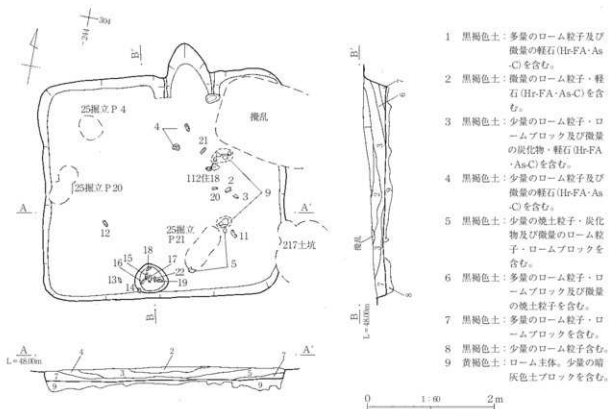
**方位** N-11°-W

**規模** 3.54×3.80m

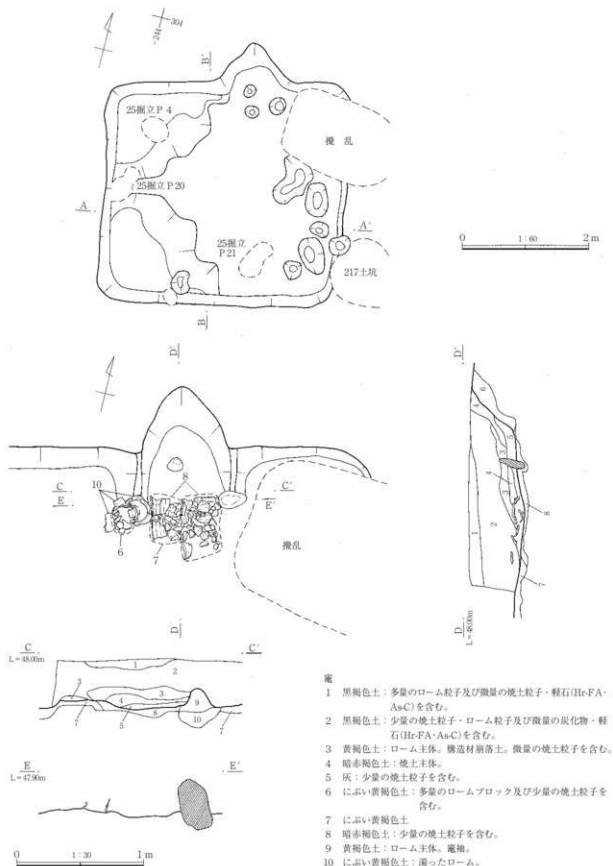
**面積** 13.55㎡

**壁高** 南側の大部分は削平されて低くなっている。北壁の東西側の部分が最も残りがよく38cmある。

**床面** 掘方底面は細かい凹凸があるほか、北西・南



第29図 113号住居跡



第30図 113号住居跡掘方、竪

第3章 調査の成果

西の隅に向かって深く掘られている。これらをローム土主体の黄褐色土で埋め戻し、床面としている。

**柱穴** 確認できなかった。

**貯蔵穴** 確認できなかった。北東隅の攪乱によって破壊されている可能性もある。

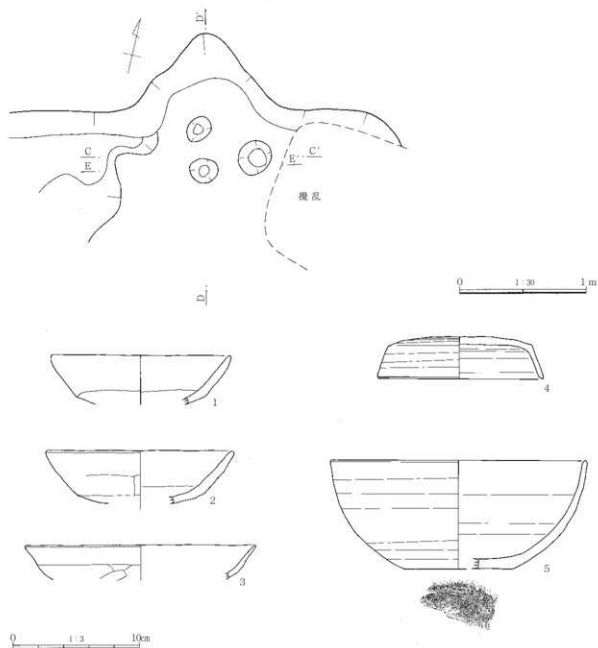
**周溝** 確認できなかった。

**竈** 北壁中央やや東寄りにある。残りが比較的良好、右の袖の芯には石を、左には土師器甕を用いてい

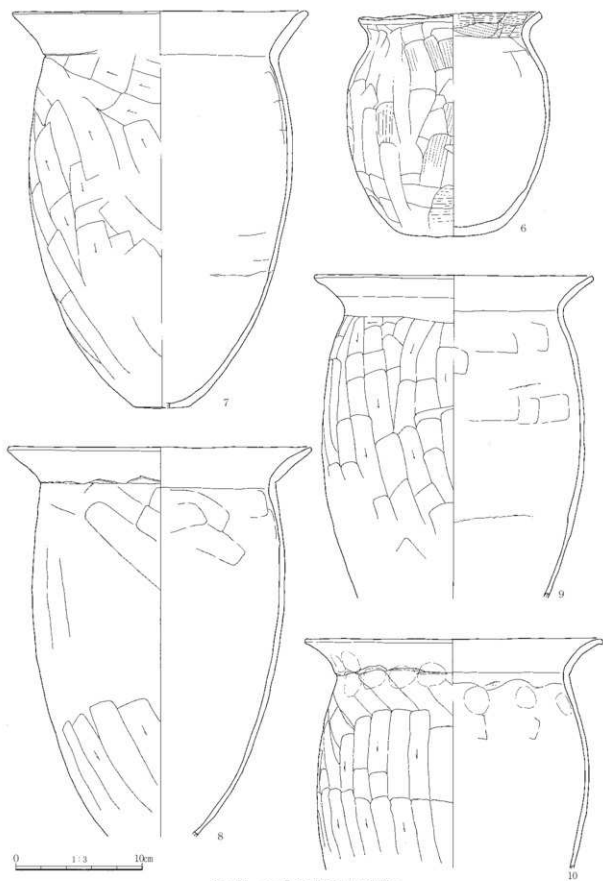
る。焚き口幅は56cm、長さは95cmで、焚き口付近から多くの土器片が出土している。

**遺物** 甕、住居東半部の床面を中心に出土した。1～3は土師器坏、4は須恵器蓋、5は同鉢、6～11は土師器甕、12～22は自然石で薦編み石と思われる。

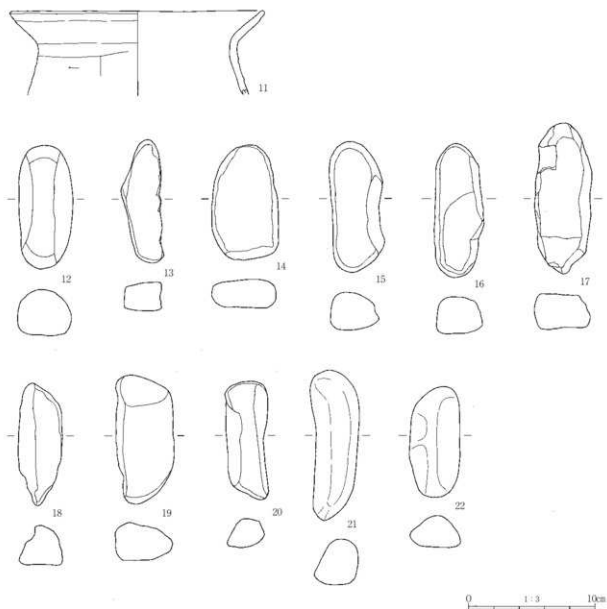
**所見** 出土した土器から、住居の時期は8世紀前半であると思われる。



第31図 113号住居跡電掘方、出土遺物(1)



第32図 113号住居跡出土遺物(2)



第33図 113号住居跡出土遺物(3)

114号住居 (第34～39図、P.L.11・12・35～37)

8区中央やや北寄りにある比較的大型の住居である。東隅が調査区外となる。

位置 8区 X=36287～295、Y=-39236～244

重複遺構 南に115号住居、北壁に25号掘立柱建物P9が重複する。本住居はいずれの遺構よりも古い。

形態 東西がやや長い方形である。南東の隅が調査区外となるため詳細は分からないが、西壁よりも東壁が長いようであり、台形に近い形態になるも

のと思われる。

方位 N-26°-W

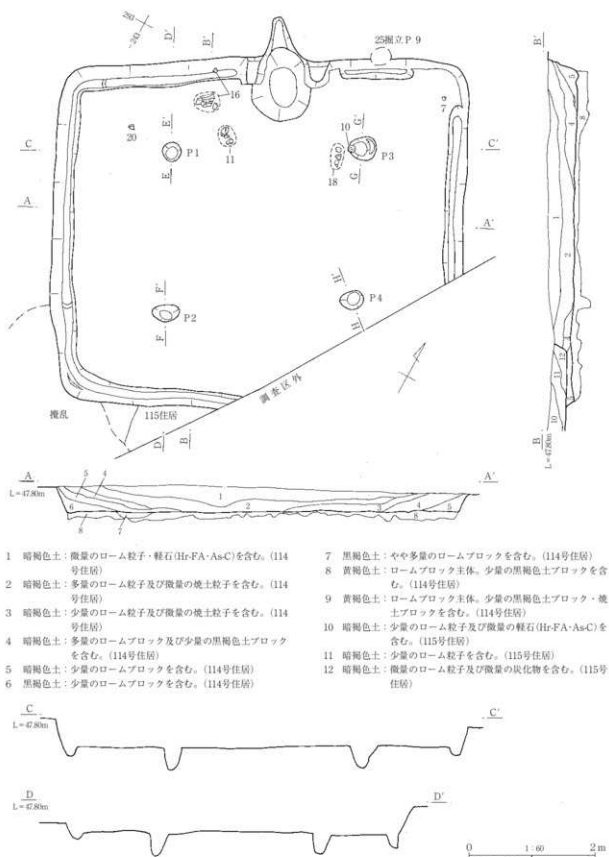
規模 6.50×5.60m

面積 (31.52)㎡

壁高 27～46cm

床面 掘方底面はほぼ平坦である。それをロームブロックを主体とした黄褐色土で埋め戻して床面としている。

柱穴 配置がやや不整であるが計4本見つかった。各柱穴の計測値は以下の通り。



第34図 114号住居跡



第3章 調査の成果

- P 1 30×28cm 深さ33cm  
 P 2 42×26cm 深さ35cm  
 P 3 44×35cm 深さ35cm  
 P 4 35×28cm 深さ50cm

いずれも深く、しっかりとした柱穴である。

**貯蔵穴** 確認できなかった。調査区外となる南東隅

にあった可能性は低いものと思われる。

**周溝** 北東隅を除いて全周する。幅20～25cm、深さ5～22cmである。

**竈** 北壁中央わずかに東寄りにある。両袖とも残り、右側は石を芯としている。燃烧部は浅く掘り窪めている。燃烧部の幅は68cm、長さは燃烧部の凹み



柱穴1

- 1 黒褐色土：多量のローム粒子を含む。
- 2 にぶい黄褐色土：多量のローム粒子・ロームブロックを含む。

柱穴2

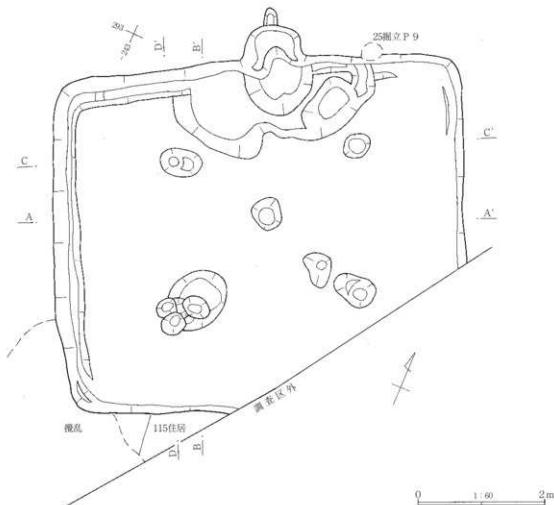
- 1 にぶい黄褐色土：多量のローム粒子・ロームブロックを含む。

柱穴3

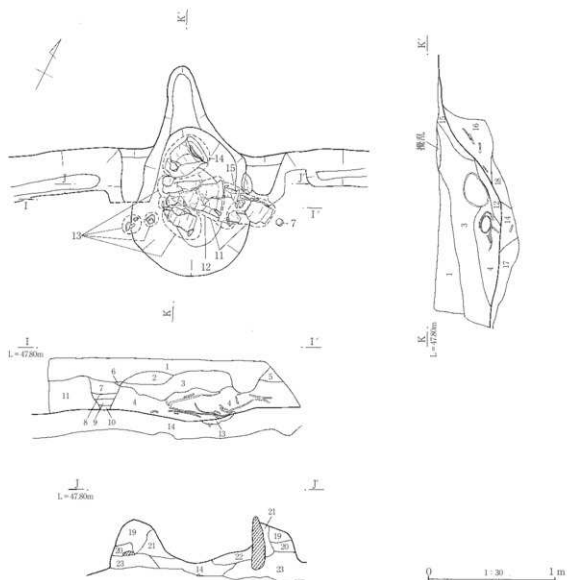
- 1 にぶい黄褐色土：多量のローム粒子・ロームブロック及び微量の焼土粒子を含む。

柱穴4

- 1 にぶい黄褐色土：多量のローム粒子・ロームブロックを含む。



第35図 114号住居跡柱穴、掘方



記

- 1 暗褐色土：多量のローム粒子、少量の焼土ブロック及び微量の軽石(Hr-FA-AsC)を含む。
- 2 黄褐色土：少量の暗褐色土を含む。構築材(天井)崩落土。
- 3 黄褐色土：ローム。構築材(天井)崩落土。
- 4 にぶい黄褐色土：固ったローム。構築材(袖)及び構築材の崩落土。
- 5 黄褐色土：ローム。袖構築材。
- 6 黄褐色土：ローム。袖構築材の崩れ。
- 7 黒褐色土：多量のローム粒子を含む。
- 8 黄褐色土：ローム。
- 9 黒褐色土：多量のローム粒子を含む。
- 10 褐色土：ローム。
- 11 暗褐色土：多量のローム粒子及び微量の焼土粒子・軽石(Hr-FA-AsC)を含む。
- 12 焼土

- 13 黒褐色土：多量の灰、少量のローム粒子及び微量の焼土粒子を含む。
- 14 黄褐色土：ローム主体。微量のローム粒子を含む。
- 15 赤褐色土：焼土ブロック主体。ロームの焼土化したもの。
- 16 暗赤褐色土：多量の焼土・炭化物及び少量の灰を含む。
- 17 黄褐色土：多量のローム及び少量の焼土・炭化物を含む。
- 18 黄褐色土：ローム主体。微量の焼土粒子を含む。
- 19 黄褐色土：ローム主体。少量の黒褐色土ブロックを含む。
- 20 にぶい黄褐色土：多量のローム。やや多量の黒褐色土及び微量の焼土粒子を含む。袖。
- 21 明黄褐色土：ローム主体。硬く締る。微量の黒褐色土粒子を含む。袖。
- 22 暗赤褐色土：やや多量の焼土及び少量の灰・炭化物・ロームを含む。
- 23 黄褐色土：やや多量の暗褐色土ブロック及び微量の焼土粒子を含む。

第36図 114号住居跡画

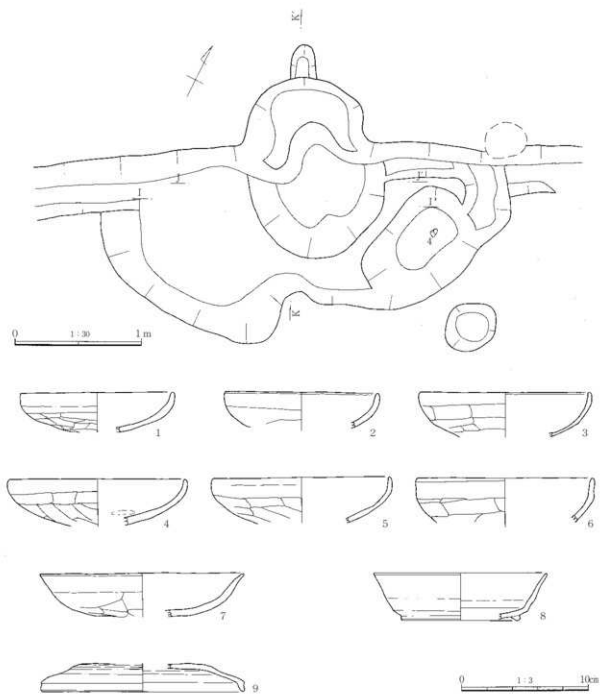
第3章 調査の成果

の先端から166cmである。

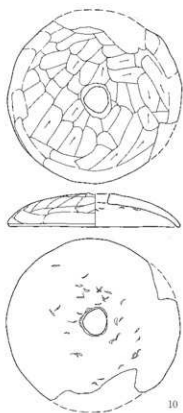
**遺物** 竈とその周辺を中心として多くの土器が出土している。1～7は土師器坏、8は須恵器高台付碗、9は蓋、10は土師器の用途不明土器、11～18は土師器甕、19は須恵器壺、20は甕である。11～15の土師器甕はいずれも竈から出土した。形態的

には、胴部が膨らまない長胴もの(11～13)、やや膨らみをもつもの(14・15)、さらに丸みをもつもの(16)の三者が見られる。

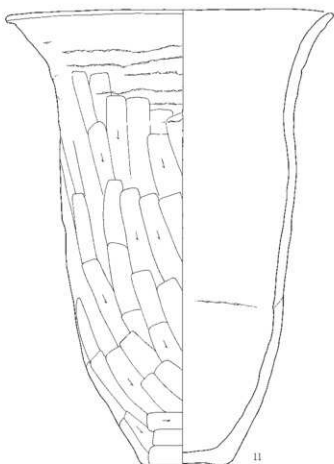
**所見** 今回の調査区では最も大型の住居で、比較的多くの遺物が出土した。出土した土器から、時期は8世紀前半であると思われる。



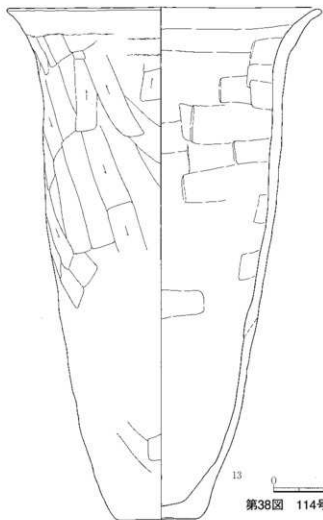
第37図 114号住居跡電掘方、出土遺物(1)



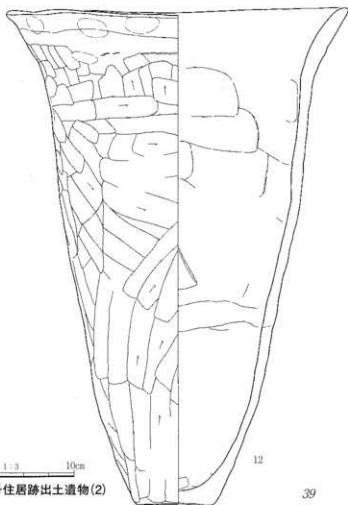
10



11



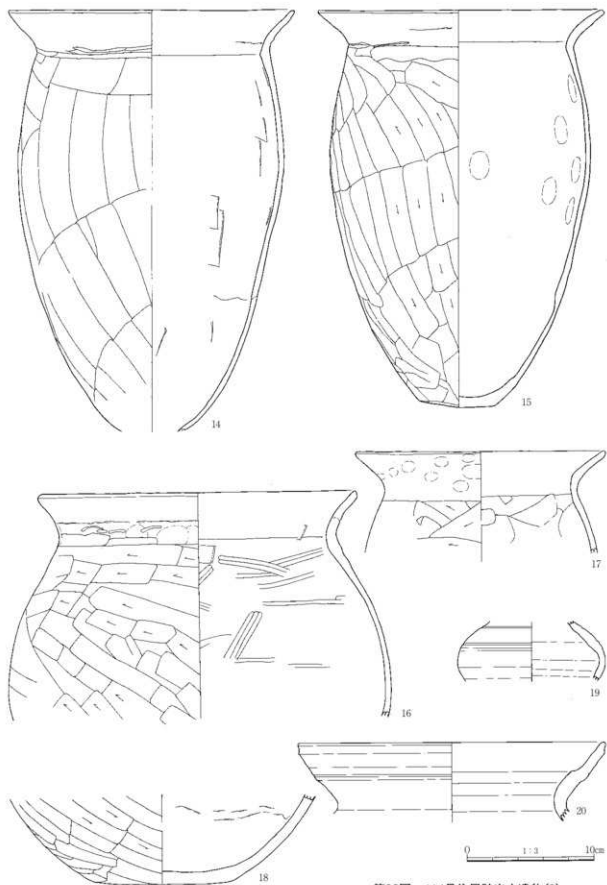
13



12

0 1:3 10cm

第38図 114号住居跡出土遺物(2)



第39図 114号住居跡出土物(3)

**115号住居** (第40図, P L. 12)

8区中央付近にある。大部分が調査区外となる。擾乱にも囲まれた狭い部分で、調査が困難であったため、窠付近がやや不分明となってしまった。

**位置** 8区 X=36287~290, Y=-39238~241

**重複遺構** 114号住居と大きく重複する。本住居が新しい。

**形態** 大部分が調査区外のため不明。

**方位** N-4°-Wと推定。

**規模** 不明。

**面積** (2.20)㎡

**壁高** 17~21cm

**床面** 地山を床面としているらしい。

**柱穴** 確認できなかった。

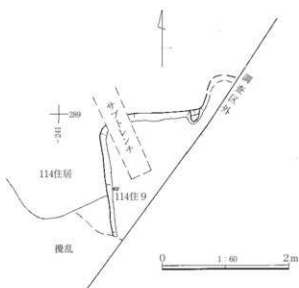
**貯蔵穴** 確認できなかった。

**周溝** 確認できなかった。

**竈** 焼土の存在から北壁にあったものと推定されるが、詳細は不明である。

**遺物** 土師器・須恵器の小破片が20点出土しているにすぎない。

**所見** わずかな面積の調査のため、詳細は不明である。時期は8世紀前半の114号住居よりも新しいので、それ以後の時期である。



第40図 115号住居跡

## 第3節 掘立柱建物・柱穴列

**22号掘立柱建物** (第41図, P L. 12)

9区北部の調査区東壁際にある。大部分が調査区外となり、調査できたのは北辺と西辺の一部である。

**位置** 9区 X=36342~349, Y=-39194~199

**重複遺構** 位置的にみて本建物は23号掘立柱建物、188号土坑と重複するはずであるが、柱穴とは直接切り合わないため、新旧関係は不明である。

**形態** 北辺・西辺が調査区にかかっているのみなので、全体の形は不明である。北辺と西辺との間の角がわずかに鈍角(94°)であるため、やや不整な方形になるものと思われる。

**方位** 西辺の方位を計測するとN-8°-Eである。

**規模** 端部の柱穴の心-心距離を計測すると、北辺(P4~P5)2.98m、西辺(P1~P4)6.23mである。

**柱穴** 各柱穴の大きさは以下の通り。

P 1 32×26cm 深さ34cm

P 2 31×26cm 深さ43cm

P 3 26×26cm 深さ23cm

P 4 41×34cm 深さ47cm

P 5 37×31cm 深さ58cm

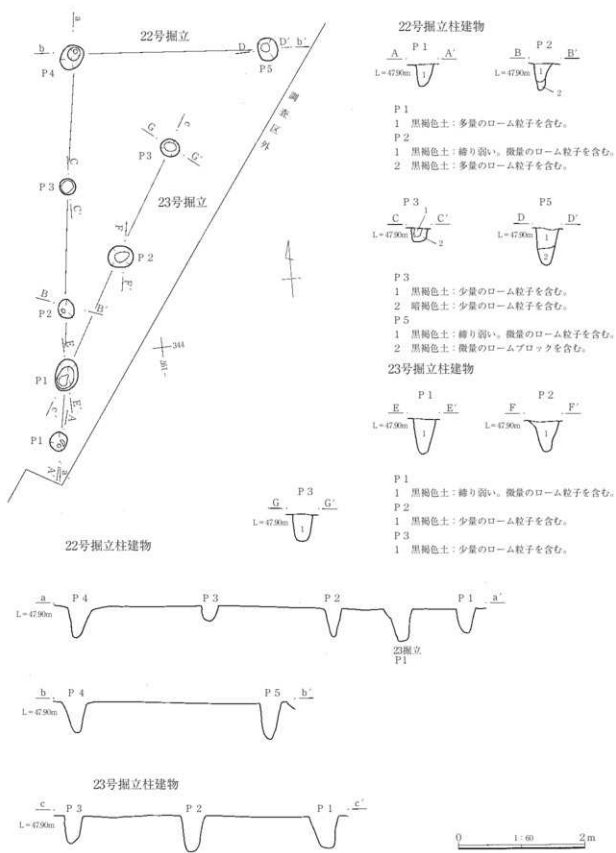
**出土遺物** なし。

**所見** 調査できたのが一部であり、詳細は不明で時期も確定できない。柱穴の大きさや建物の方向が近いことから、25号掘立柱建物とも関連する可能性がある。

**23号掘立柱建物** (第41図, P L. 12)

9区北部の調査区東壁際にある。調査区にかかっているのは2間分のみであり、これが建物であればこれを西辺として東側にのびるものと思われる。

**位置** 9区 X=36343~348, Y=-39196~199



第41図 22・23号掘立柱建物

**重複遺構** 22号掘立柱建物と重複するが、柱穴が直接切り合っていないため、新旧関係は不明である。

**形態** 西辺のみなので不明。

**方位** N-31°-E

**規模** P1～P3の心-心距離は4.05mである。

**柱穴** 各柱穴の計測値は以下の通り。

P1 49×35cm 深さ55cm

P2 40×35cm 深さ48cm

P3 32×27cm 深さ44cm

**出土遺物** なし。

**所見** 調査できたのは柱穴3本のみであり、詳細不明である。柱穴の大きさなどから22号や25号掘立柱建物と近い時期のものである可能性がある。

#### 25号掘立柱建物（第42～47図、P.L.13・14）

8区の北部にある大型の建物である。

**位置** 8区 X=36294～305、Y=-39237～255

**重複遺構** 113号・114号住居、216～218号・239号・240号土坑と重複する。本建物は、住居よりも新しく、216号・239号・240号土坑よりも古い。217号・218号土坑とは柱穴が直接切り合わない。

**形態** 東西棟で4面に庇をもつ。

**方位** 桁行きの方向はN-73°-Wである。

**規模** 各辺の長さは以下の通り

庇 北辺（P1～P6） 15.00m

南辺（P9～P16） 15.28m

東辺（P6～P9） 6.75m

西辺（P16～P1） 6.64m

母屋 北辺（P19～P22） 12.22m

南辺（P24～P28） 12.26m

東辺（P22～P26） 4.50m

西辺（P28～P19） 4.54m

柱間は多少の長短があり一定しないが、平均すると母屋の梁間は2.76m、桁行きは2.45m。庇の幅も一定せず、南は1.04～1.34m、北は1.12～1.20m、東は1.36～1.45m、西は1.32～1.56mである。

**柱穴** 各柱穴の計測値は以下の通り。

P1 40×36cm 深さ64cm

P2 35×35cm 深さ72cm

P3 32×30cm 深さ64cm

P4 47×34cm 深さ59cm

P5 38×31cm 深さ30cm

P6 45×35cm 深さ38cm

P7 32×27cm 深さ12cm

P8 42×40cm 深さ30cm

P9 38×35cm 深さ39cm

P10 40×32cm 深さ40cm

P11 29×27cm 深さ34cm

P12 40×31cm 深さ46cm

P13 55×45cm 深さ36cm

P14 (40)×30cm 深さ22cm

P15 32×22cm 深さ16cm

P16 44×36cm 深さ29cm

P17 32×27cm 深さ58cm

P18 34×32cm 深さ30cm

P19 66×50cm 深さ27cm 2基重複か

P20 72×35cm 深さ40cm 2基重複か

P21 80×38cm 深さ36cm 2基重複か

P22 57×32cm 深さ32cm 2基重複か

P23 40×25cm 深さ27cm 2基重複か

P24 33×29cm 深さ19cm

P25 37×30cm 深さ19cm

P26 30×28cm 深さ18cm

P27 30×28cm 深さ24cm

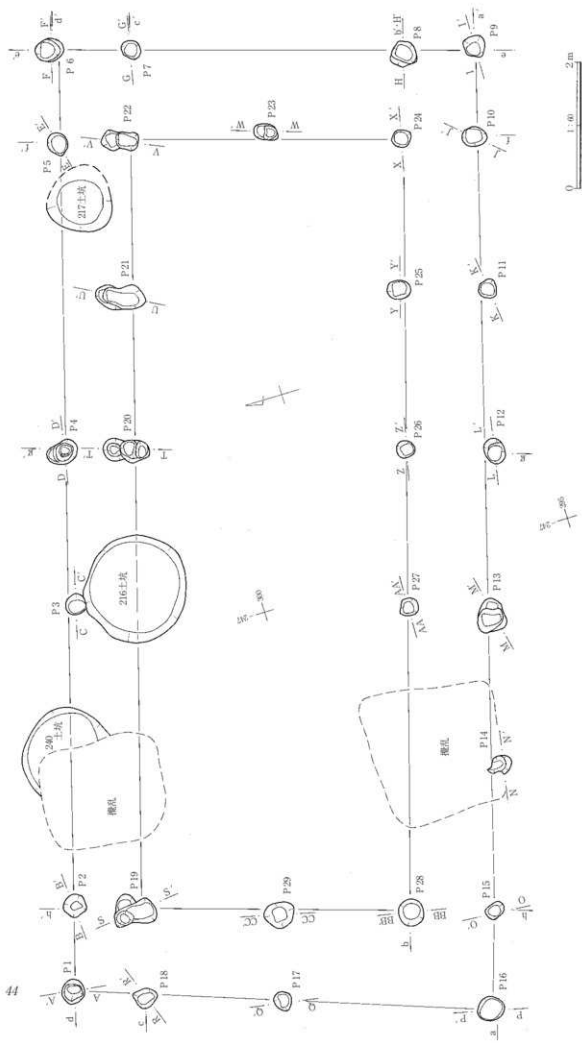
P28 42×38cm 深さ14cm

P29 49×41cm 深さ24cm

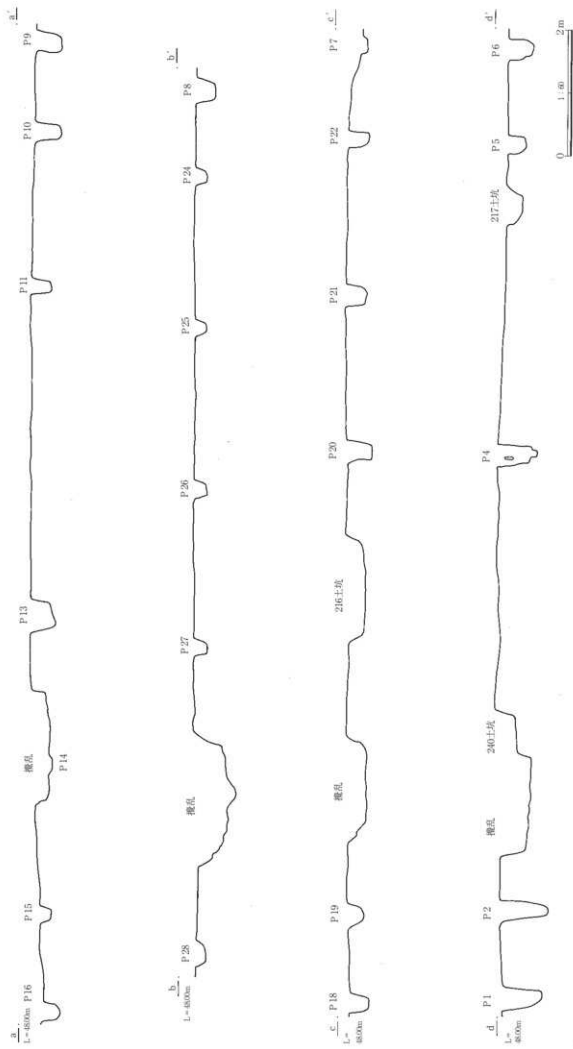
**出土遺物** 土師器・須恵器の小破片が少数出土しているが、本建物に伴うものではない。

**所見** 平面形は4間×7間と大型の建物であるが、それに比べて柱穴が小さく、上部構造はさほど大きなものとは思えない。この建物と関係のある施設が把握できていないため、どのような用途の建物かは判然としない。母屋北側の柱のみ重複があり、ここのみ修理が行われたかもしれない。時期は竪穴住居よりも新しいことと、柱穴の形態から、平安時代以降のものと考えられよう。



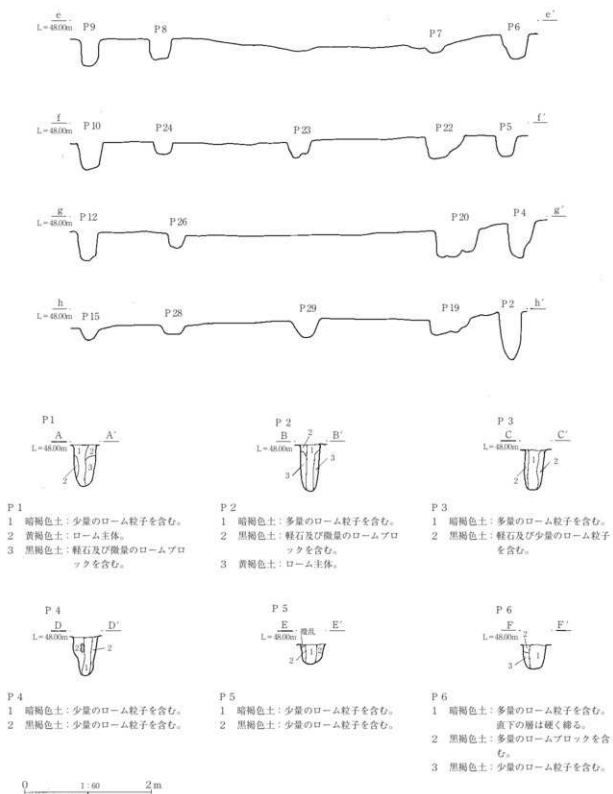


第42图 25号独立柱建物



第43图 25号孤立柱基础剖面(1)

第3章 調査の成果



第44図 25号掘立柱建物断面(2)、柱穴(1)



P7

- 1 黒褐色土：軽石及び少量のローム粒子を含む。



P8

- 1 暗褐色土：少量のローム粒子を含む。
- 2 黒褐色土：軽石及び少量のローム粒子を含む。
- 3 黒褐色土：黒褐色土とロームがワミネ状結る。硬く締る。
- 4 黒褐色土：多量のローム粒子を含む。一段階古いビット。



P9

- 1 黒褐色土：多量のローム粒子・ロームブロック及び軽石を含む。
- 2 黒褐色土：少量のローム粒子を含む。



P10

- 1 黒褐色土：少量のローム粒子を含む。
- 2 黒褐色土：多量のローム粒子・ロームブロックを含む。
- 3 黄褐色土：ローム粒子・ロームブロック主体。



P11

- 1 暗褐色土：多量のローム粒子を含む。
- 2 黒褐色土：少量のローム粒子を含む。
- 3 黒褐色土：硬く締る。軽石及び微量のローム粒子を含む。



P12

- 1 暗褐色土：多量のローム粒子を含む。
- 2 黄褐色土：ローム主体。
- 3 黒褐色土：少量のロームブロックを含む。
- 4 黒褐色土：締り良好。少量のローム粒子・ロームブロックを含む。



P13

- 1 黒褐色土：軽石及び少量のローム粒子を含む。(別ビット)
- 2 黒褐色土：多量のローム粒子を含む。
- 3 黄褐色土：ロームブロック主体。



P14

- 1 暗褐色土：少量のローム粒子を含む。
- 2 黒褐色土：締り良好。軽石を含む。
- 3 黒褐色土：多量のローム粒子を含む。



P15

- 1 黒褐色土：多量のローム粒子を含む。
- 2 黒褐色土：微量のローム粒子を含む。



P16

- 1 黒褐色土：少量のローム粒子を含む。
- 2 暗褐色土：少量のローム粒子を含む。
- 3 黒褐色土：軽石及び微量のローム粒子を含む。



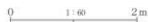
P17

- 1 黒褐色土：多量のローム粒子を含む。



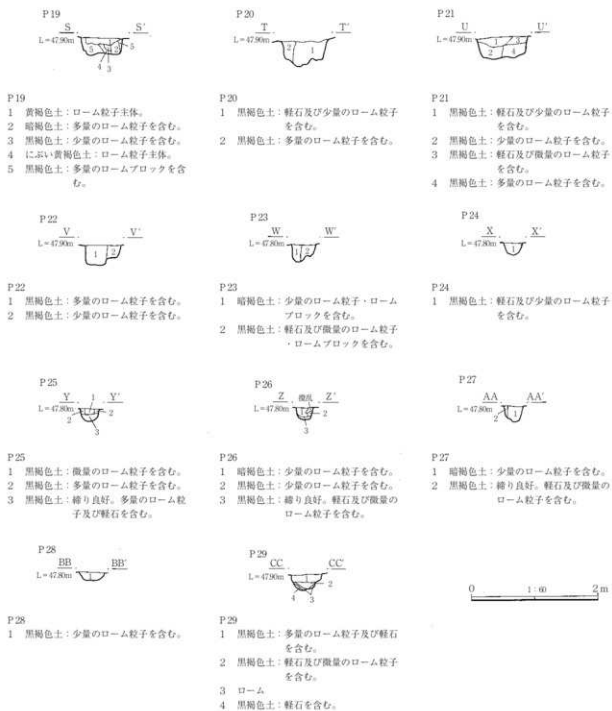
P18

- 1 黒褐色土：多量のローム粒子を含む。



第45図 25号掘立柱建物柱穴(2)

第3章 調査の成果



第46図 25号掘立柱建物柱穴(3)

## 26号掘立柱建物 (第47図、P.L. 14)

8区中央東壁際にある。柱穴4本が把握できたのみである。

位置 8区 X=36282~285, Y=-39243~249

重複遺構 129~131号ピットは位置的に建物と重複するが、柱穴とは直接切り合わない。

形態 不明

方位 北辺はN-74°-E

規模 北辺 (P2~P4) 4.70m

東辺 (P1~P2) 1.65m

柱穴 各柱穴の計測値は以下の通り。

P1 72×50cm 深さ41cm

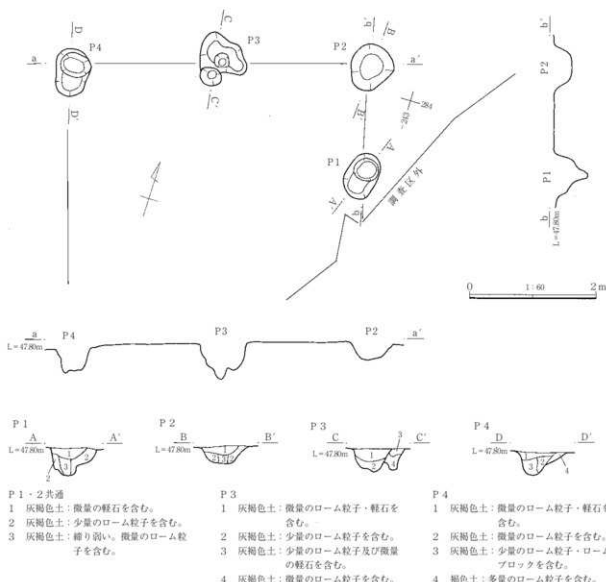
P2 74×66cm 深さ26cm

P3 80×(60)cm 深さ37cm

P4 75×54cm 深さ36cm

出土遺物 なし。

所見 一部の調査にとどまったので詳細不明で、時期も確定できない。北辺が北妻だとすれば、第47図に示したように、梁間2間、桁行き不明の掘立柱建物である可能性強いものと推定されるが確定できない。方位が他の掘立柱建物と異なること、柱穴がやや大きいことなどから、この建物だけやや時期が異なるかもしれない。



第47図 26号掘立柱建物

1号柱穴列 (第48図、P.L.14・15)

8区北端近くにある。5本の柱穴が1列に並んでいるものの、周囲に組み合わせるものが見出せなかったため、建物ではなく柱列と判断した。P2とP3の間が広いのは、攪乱によって1本が壊されているためと思われる。

位置 8区 X=36310~313、Y=-39231~243

重複遺構 なし。

方位 N-82°-W

規模 西端(P1)から東端(P5)まで心-心距離を計測して10.85m。

柱穴 各柱穴の計測値は以下の通り。

P1 38×33cm 深さ47cm

P2 36×34cm 深さ43cm

P3 42×35cm 深さ58cm

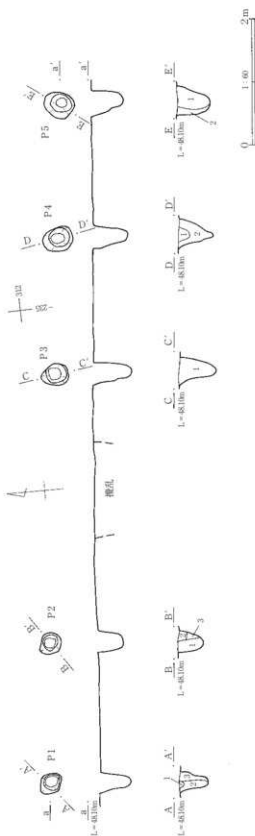
P4 47×38cm 深さ55cm

P5 46×40cm 深さ52cm

出土遺物 P4から土師器の小破片1点が出土している。

所見 現状では柱穴は5本であるが、本来は計6本かなる柱列であると思われる。すぐ近くには関連する遺構が見られませんが、南西に約10m離れた位置にある25号掘立柱建物とは方位が近いので、関連する可能性もある。

- P1
  - 1 黄褐色土：ローアマック主体。
  - 2 黄褐色土：少量のロー-A粒子を含む。
  - 3 黄褐色土：少量のロー-A粒子・ローアマックを含む。
- P2
  - 1 黄褐色土：少量のロー-A粒子を含む。
  - 2 黄褐色土：ロー-A主体。
  - 3 黄褐色土：焼ついた2層。
- P3
  - 1 褐色土：少量のロー-A粒子を含む。
- P4
  - 1 黄褐色土：少量のロー-A粒子を含む。
  - 2 褐色土：少量のロー-A粒子を含む。
- P5
  - 1 黄褐色土：少量のロー-A粒子を含む。
  - 2 黄褐色土：ロー-A主体。



第48図 1号柱穴列

## 第4節 井戸

## 1号井戸 (第49図, P.L. 15)

位置 8区 X=36266~269, Y=-39262~265

重複遺構 31号溝と重複する。本井戸が新しい。

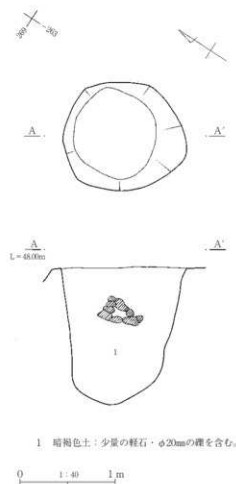
形態 平面形はやや方形に近い円形。比較的浅い。

埋土中層に礫の集まりがみられるが、特に意味はないものと思われる。

規模 径1.30×1.13m。深さ1.44m。底面の標高は46.35m。

出土遺物 土師器・須恵器の小破片が3点出土しているのみである。

所見 遺物が少なく、時期は不明である。底面は浅いが調査時にも地下水が湧き上がってきたので、井戸である可能性が高い。



## 6号井戸 (第49図, P.L. 15)

位置 9区 X=36323~325, Y=-39221~223

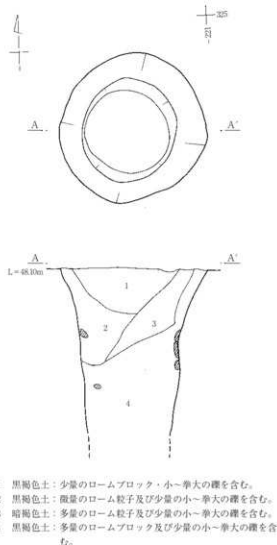
重複遺構 なし。

形態 平面形は円形。急角度で掘られている。約1.7mまで掘り下げたが、それ以下は崩壊の危険があるため完掘できなかった。

規模 径1.60×1.48m。深さは未完掘のため不明。

出土遺物 なし。

所見 径は小さいが、ほぼ垂直に掘られた井戸である。出土遺物がなく、時期不明である。完掘できなかったが、約1.5mで地下水が湧出する。



第49図 1・6号井戸



**7号井戸** (第50図, P.L. 15)

8号井戸とともに10区南部にある。いずれも径が大きい。底は浅い。

**位置** 10区 X=36364~367, Y=-39185~189

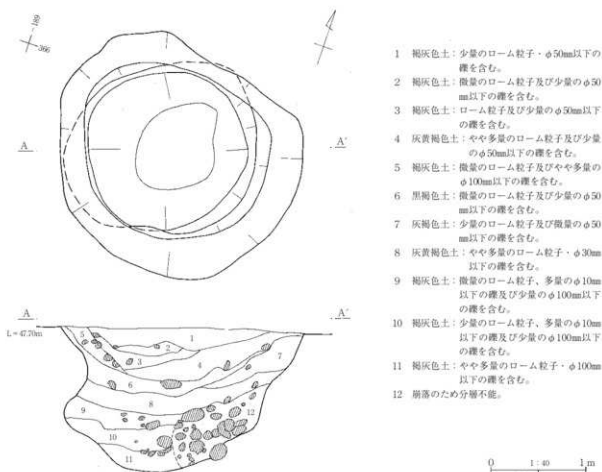
**重複遺構** なし。

**形態** 平面、断面共に不整形である。壁面が崩壊したためと考えられる。

**規模** 径2.70×2.27m 深さ1.52m。底面の標高は46.07mである。

**出土遺物** 中近世と思われる軟質陶器の破片が2点出土しているのみである。

**所見** 7号、8号と、ほぼ同形同大の井戸が並んでいるので、何らかの意味があるかもしれない。遺物は少ないが、中近世以降のものである。



第50図 7号井戸

**8号井戸** (第51図, P.L. 16)

7号井戸と並んで10区南部にある。いずれも径が大きい。底は浅い。

**位置** 10区 X=36363~366, Y=-39189~193

**重複遺構** なし。

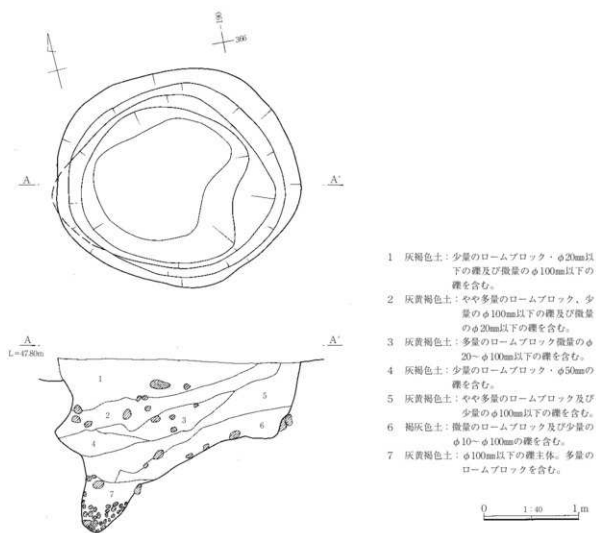
**形態** 平面形はやや不整形な円形。断面形はかなり不整形だが、壁面の崩壊によるものと思われる。

**規模** 径2.58×2.30m。深さ1.83m。底面の標高は

45.83mである。

**出土遺物** 古代~中世の瓦と中近世の軟質陶器の小破片が出土している。

**所見** 7号井戸とは断面形が異なるが、ほぼ同形同大の井戸が並んでいるので、何らかの関係が考えられる。時期は出土遺物が少ないが、中近世以降と考えられる。



第51図 8号井戸

## 9号井戸 (第52図、P.L. 16・37)

8区北端近く調査区東壁際にある。

位置 8区 X=36305~307、Y=-39228~231

重複遺構 なし。

形態 平面形は一部不整形の部分もあるが、ほぼ円形。断面は垂直に掘り、底面近くが広がっている。

規模 径1.94×1.73m。深さ1.87m。底面の標高は46.15mである。

出土遺物 図示したのは青磁と軟質陶器の小破片である。その他に土師器と須恵器の小破片が5点ずつ出土している。

所見 出土遺物は少ないが、青磁や軟質陶器を含んでおり、中近世以降のものと思われる。

## 10号井戸 (第52図、P.L. 16・37)

8区北端の中央付近にある。

位置 8区 X=36315~317、Y=-39236~238

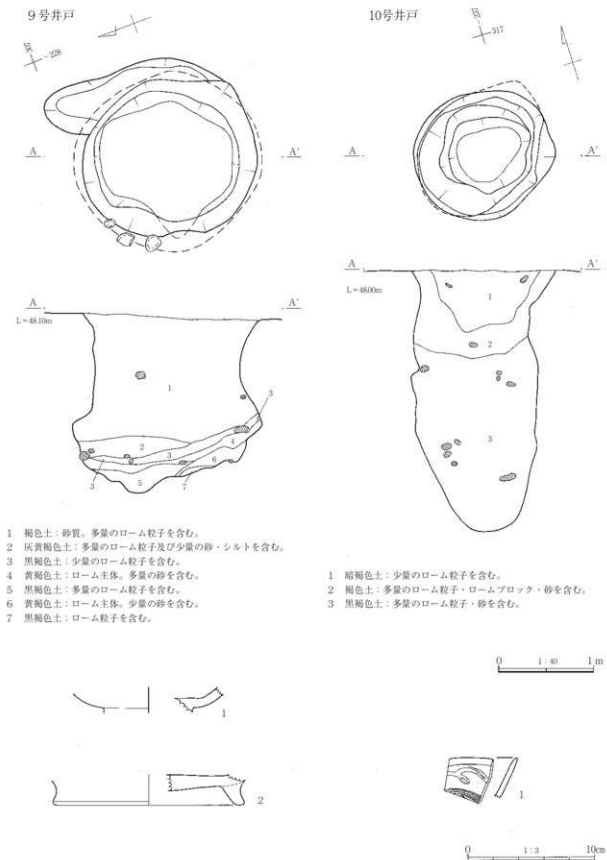
重複遺構 なし。

形態 平面形はやや不整形な円形である。断面形はほぼ垂直に掘られ、底面は小さい。壁は凹凸がある。

規模 径1.49×1.30m。深さ2.75m。底面の標高は45.23mであり、やや深い。

出土遺物 図示したのは青磁の小破片である。その他、土師器と須恵器の小破片が出土している。

所見 出土遺物は少ないが、小破片とはいえ青磁が出土しており、中近世以降のものであろう。



- 1 褐色土：砂質。多量のローム粒子を含む。
- 2 灰黄褐色土：多量のローム粒子及び少量の砂・シルトを含む。
- 3 黒褐色土：少量のローム粒子を含む。
- 4 黄褐色土：ローム主体。多量の砂を含む。
- 5 黒褐色土：多量のローム粒子を含む。
- 6 黄褐色土：ローム主体。少量の砂を含む。
- 7 黒褐色土：ローム粒子を含む。

- 1 暗褐色土：少量のローム粒子を含む。
- 2 褐色土：多量のローム粒子・ロームブロック・砂を含む。
- 3 黒褐色土：多量のローム粒子・砂を含む。

第52図 9・10号井戸、出土遺物

## 第5節 溝・道

26号溝 (第53・54図, P.L. 16・17)

位置 8区 X=36267~272, Y=-36250~274

重複遺構 西半部で31号溝と交差するほか、72号土坑とも重複する。いずれよりも本溝が新しい。

形態 ほは直線的に伸びる。断面は逆台形だが、大部分の場所では底面から約30cmのところまで傾斜が緩やかになり、大きく広がる。

走向 N-86°-E

規模 調査区にかかるのは約24mで、東西は調査区外に伸びる。上面幅は2.2~2.7m、底面幅は0.9~1.7m、深さは0.45~0.55mである。

埋土の状態 わずかに軽石(Hr-FA, As-C)を含む暗褐色土で埋設している。

遺物 土師器・須恵器の小破片が出土している。

所見 直線的に伸びる溝であり、断面形も整っているので、確固とした役割を持った溝だと思われる。流水のあった痕跡はないが、何らかの区画溝か用水溝であろう。遺物と覆土の特徴から古代の溝で、31号溝よりも新しい時期である。

31号溝 (第54・55図, P.L. 17・38)

位置 8区 X=36260~274, Y=-36257~271

重複遺構 26号溝、1号井戸、145・146号ピットと重複する。本溝はいずれの遺構よりも古い。

形態 直線的に伸びる。断面は逆台形であるが、底面幅は凹凸がある。

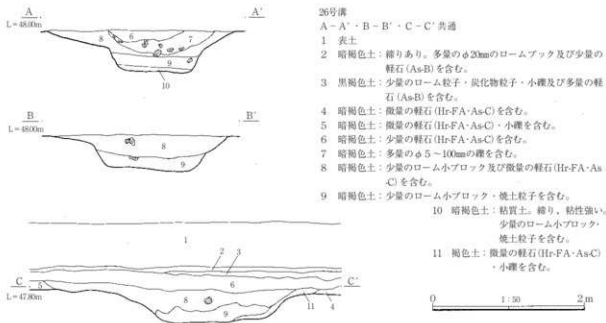
走向 N-46°-W

規模 調査区にかかるのは約17.5mで、両端は調査区外へ伸びる。上面幅は1.7~2.2m、底面幅は0.25~1.15m、深さは0.30~0.44mである。

埋土の状態 軽石(Hr-FA, As-C)を含む褐色土で埋没する。底部に礫を多く含む層が堆積する。

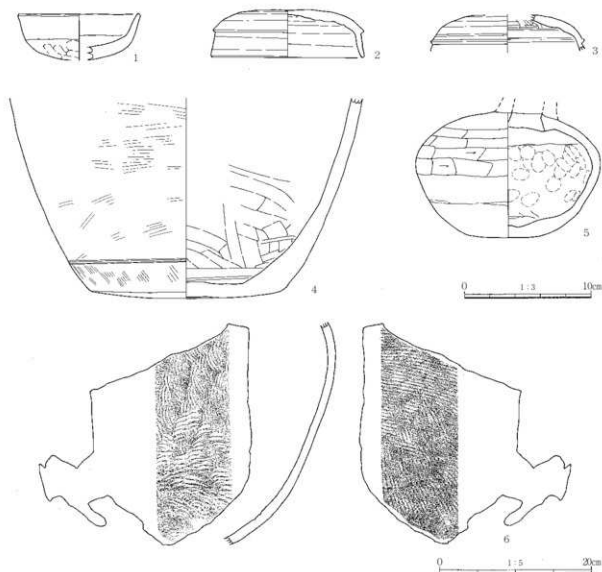
遺物 図示したのは土師器坏、須恵器蓋・甕・長頸甕である。その他、土師器・須恵器の破片が数多く出土している。

所見 26号溝と同様、何らかの区画溝か用水溝だと思われる。時期は4・5の土器などから9世紀以降と考えられる。



第53図 26号溝断面





第55図 31号溝出土遺物

27号溝 (第56図, P.L. 17)

位置 7区 X=36236-251, Y=-39274~282

重複遺構 なし。

形態 緩やかに湾曲し、両端は調査区外にのびる。

走向 N-19°-36°-W

規模 調査した長さ15m 上面幅0.35~0.75m 底面幅0.18~0.70m 深さ0.05~0.25m

遺物 出土遺物はない。

所見 27~30号溝の4本の溝は、30号のみやや方向が異なるものの、他の3本はほぼ並行しており、埋土も28~30号はよく似ているため、相互に関連するものと思われる。時期の詳細は不明であるが、

28・30号溝から土師器・須恵器が出土していることから、古代に遡る可能性がある。

28号溝 (第56図, P.L. 17・18)

位置 7区 X=36238-252, Y=-39272~280

重複遺構 なし。

形態 緩やかに湾曲し、両端は調査区外にのびる。

走向 N-21°-36°-W

規模 調査した長さ13.7m 上面幅0.8~1.24m 底幅0.22~0.58m 深さ0.12~0.35m

遺物 土師器と須恵器の小破片が出土している。

所見 27号溝参照。

第3章 調査の成果

29号溝 (第56図, P.L.17・18)

位置 7区 X=36241~247, Y=-39270~275

重複遺構 なし。

形態 緩やかに湾曲し、北西端は途切れる。

走向 N-21°-35°-W

規模 調査した長さ7m 上面幅0.48~0.71m 底面幅0.30~0.53m 深さ0.05~0.10m

遺物 出土遺物はない。

所見 27号溝参照。

30号溝 (第56図, P.L.17・18)

位置 7区 X=36243~253, Y=-39270~277

重複遺構 なし。

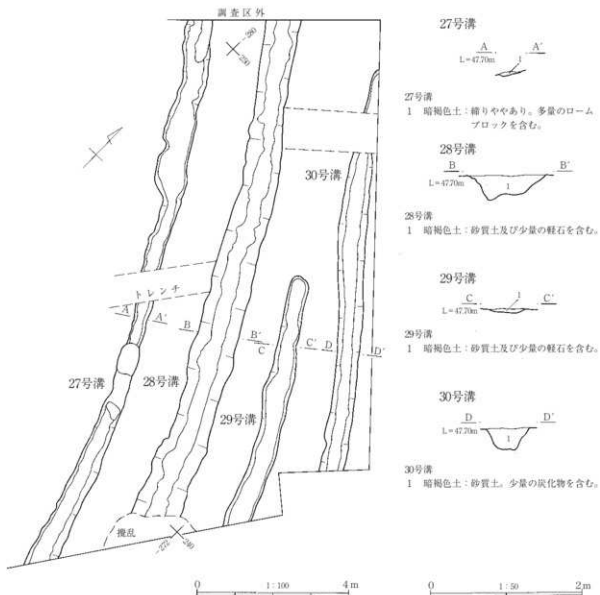
形態 緩やかに蛇行する。

走向 N-32°-45°

規模 調査した長さ10.8m 上面幅0.56~0.74m 底面幅0.24~0.40m 深さ0.15~0.27m

遺物 須恵器の小破片が2点出土している。

所見 27号溝参照。



第56図 27~30号溝

**32号溝** (第57・58図、P.L.18)

位置 7区 X=36220~226、Y=-39284~299

重複遺構 なし。

形態 緩やかに蛇行する。

走向 N-55°~79°-W

規模 調査した長さ14.3m 上面幅0.55~0.80m

底面幅0.10~0.43m 深さ0.12~0.30m

**埋土の状態** 砂を多く含む土で埋没しているので、ある程度水が流れていた可能性がある。**遺物** 完形のかわけ1点のほか、土師器と軟質陶器の小破片が出土している。**所見** 砂質土で埋没しているので、水が流れていた可能性があり、とすれば何らかの用水の底部であると考えられる。時期は出土遺物から中世以降と思われる。**33号溝** (第57・58図、P.L.18)

位置 7区 X=36221~234、Y=-39281~299

重複遺構 なし。

形態 緩やかに弧を描く。

断面は浅い逆台形であるが、底面から25~30cmの高さで傾斜が緩やかとなり、大きく広がる。

走向 N-39°~78°-W

規模 調査した長さ16.5m

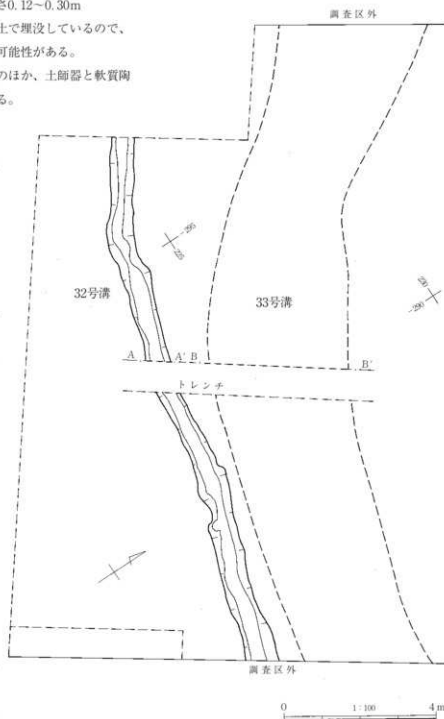
上面幅2.8~3.7m

底面幅 断面図を示した部分で1.85m

深さ 断面図を示した部分で0.48m

**埋土の状態** 砂や礫を含む黒褐色あるいは暗褐色土

で埋没している。

**遺物** 土師器・須恵器の小破片が少数出土しているのみである。**所見** 幅広く底面の平坦な溝である。出土遺物から古代に遡る可能性が高いが、性格は不明である。

第57図 32・33号溝



### 第3章 調査の成果

#### 32号溝

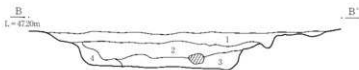


#### 32号溝

- 1 黒褐色土：砂質土。多量のφ30mmの灰褐色砂質土ブロックを含む。
- 2 黄褐色土：砂質土。締り、粘性弱い。
- 3 灰黄褐色土：シルト質。多量の砂を含む。

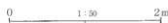


#### 33号溝



#### 33号溝

- 1 黒褐色土：少量のφ20mmのロームブロックを含む。
- 2 黒褐色土：多量のφ50~300mmの礫を含む。
- 3 暗褐色土：砂質土。鉄分の沈着が見られる。
- 4 黒褐色土：締り、粘性ややあり。3層と黒褐色砂質土の互層。



第58図 32・33号溝断面、32号溝出土遺物

#### 80号溝 (第59図, P L. 18)

位置 9区 X=36319~327, Y=-39223~226

重複遺構 なし。

形態 直線的に伸び、南北端は調査区外に伸びる。

断面は選形で壁は丸みをもって立ち上がる。

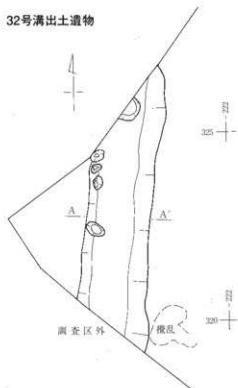
走向 N-6°-E

規模 調査した長さ7.5m 上面幅1.7~1.8m 底面幅0.96~1.06m 深さ0.35~0.40m

埋土の状態 暗褐色土で埋没している。中層に薄い黒褐色土の層があり、固く締まって上面が硬化面となっている。

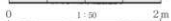
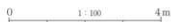
遺物 出土遺物はない。

所見 中層に硬化面があるため、ある時期道などとして使用されていた可能性がある。出土遺物がなく、時期は不明である。



#### 80号溝

- 1 暗褐色土：少量のロームブロックを含む。
- 2 黒褐色土：硬く締る。硬化面。
- 3 暗褐色土：微量のローム粒子を含む。
- 4 暗褐色土：多量の砂土ブロックを含む。
- 5 暗褐色土：少量の灰褐色シルト質土ブロック及び微量の砂土ブロックを含む。
- 6 暗褐色土：多量のローム粒子を含む。



第59図 80号溝

## 81号溝 (第60~62図, P.L. 18・19・38)

位置 9区 X=36336~344, Y=-39200~215

重複遺構 96号住居と重複する。本溝が新しい。

形態 はほぼ直線的に伸び、両端は調査区外となる。

断面は南側に中段の平場がある。

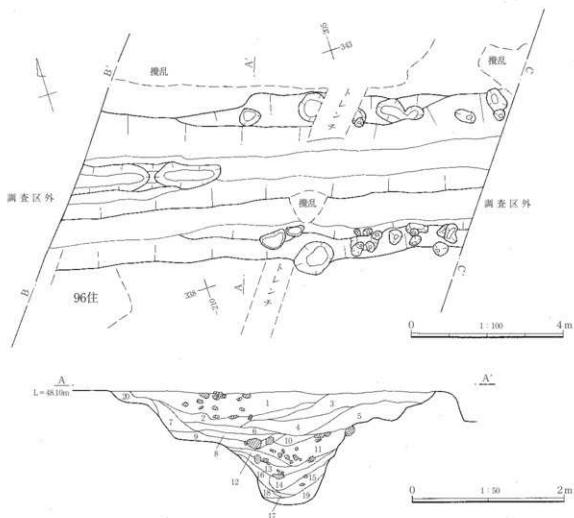
走向 N-75°-W

規模 調査した長さ11m 上面幅3.80~4.40m 底面幅0.58~0.78m 深さ1.30~1.55m

埋土の状態 底面に多量の砂を含む層が堆積しており、流水があった可能性がある。

遺物 図示した土師器薬と平瓦のほか、土師器・須恵器の小破片が出土している。

所見 深くしっかりとした溝であり、流水があったと考えられる。出土遺物に中近世のものが見られないので、古代に遡る可能性がある。



A-A'

1 暗褐色土：少量の礫及び微量のローム粒子を含む。

2 暗褐色土：少量のロームブロックを含む。

3 灰褐色土：少量のローム粒子を含む。

4 灰褐色土：微量のローム粒子を含む。

5 黒褐色土：少量のローム粒子を含む。

6 灰褐色土：微量のロームブロックを含む。

7 黒褐色土：少量のローム粒子を含む。

8 褐色土：シルト質。微量のロームブロックを含む。

9 褐色土：シルト質。微量の黒褐色土ブロックを含む。

10 暗褐色土：微量のローム粒子を含む。

11 暗褐色土：少量のローム粒子・礫を含む。

12 暗褐色土：多量のシルト質土を及び微量のローム粒子を含む。

13 暗褐色土：やや粘質。微量のローム粒子を含む。

14 暗褐色土：やや粘質。微量のローム粒子を含む。

15 暗褐色土：少量のローム粒子及び微量の砂を含む。

16 黒褐色土：微量のローム粒子・砂を含む。

17 褐色土：シルト質土主体。微量のローム粒子・砂を含む。

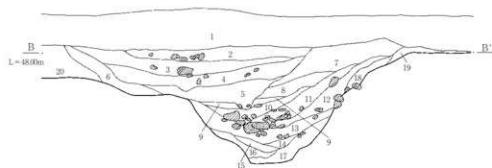
18 黒褐色土：少量のローム粒子・砂を含む。

19 暗褐色土：多量のローム粒子及び微量の砂を含む。

20 黒褐色土：少量のロームブロックを含む。

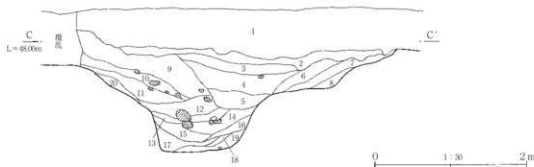
第60図 81号溝、断面(1)

第3章 調査の成果



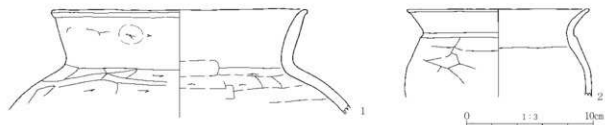
B-B'

- |                             |                             |
|-----------------------------|-----------------------------|
| 1 表土                        | 11 褐色土：多量のφ5-10mmの小礫を含む。    |
| 2 暗褐色土：微量のローム粒子を含む。         | 12 黒褐色土：小礫及び少量のローム粒子を含む。    |
| 3 暗褐色土：少量のロームブロックを含む。       | 13 暗灰色土：やや粘質。少量の砂を含む。       |
| 4 灰褐色土：少量のローム粒子・シルト質土を含む。   | 14 灰褐色土：やや粘質。少量の砂を含む。       |
| 5 褐灰色土：シルト質土。微量のロームブロックを含む。 | 15 暗褐色土：少量の砂及び微量の黒褐色土粒子を含む。 |
| 6 黒褐色土：少量のローム粒子を含む。         | 16 暗褐色土：多量の砂を含む。            |
| 7 暗褐色土：少量のローム粒子を含む。         | 17 灰褐色土：多量の砂を含む。            |
| 8 暗褐色土：微量のローム粒子を含む。         | 18 暗褐色土：多量のローム粒子を含む。        |
| 9 暗褐色土：少量のローム粒子・黒褐色土粒子を含む。  | 19 暗赤褐色土：微量のローム粒子を含む。       |
| 10 褐色土：汚れたローム。微量の黒褐色土粒子を含む。 | 20 96号住居跡層土。                |

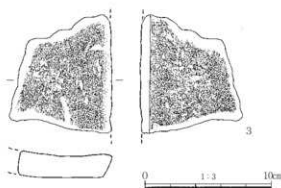


C-C'

- |                                |                                  |
|--------------------------------|----------------------------------|
| 1 表土                           | 11 黒褐色土：微量のローム粒子を含む。             |
| 2 暗褐色土：少量のシルト質土粒子を含む。          | 12 暗褐色土：少量のローム粒子を含む。             |
| 3 褐灰色土：シルト質。微量のローム粒子を含む。       | 13 灰褐色土：ややシルト質。少量のローム粒子を含む。      |
| 4 暗褐色土：多量のロームブロックを含む。          | 14 暗褐色土：ややシルト質。少量の砂と微量のローム粒子を含む。 |
| 5 褐灰色土：シルト質土。                  | 15 灰褐色土：ややシルト質。ローム粒子を含む。         |
| 6 灰褐色土：少量のシルト質土粒子を含む。          | 16 黒褐色土：多量のローム粒子を含む。             |
| 7 暗褐色土：少量のローム粒子及び微量の黒褐色土粒子を含む。 | 17 灰褐色土：少量のローム粒子を含む。             |
| 8 暗褐色土：多量のローム粒子を含む。            | 18 黒褐色土：少量の砂及び微量のローム粒子を含む。       |
| 9 暗褐色土：微量のローム粒子を含む。            | 19 暗褐色土：多量の砂及び微量のローム粒子を含む。       |
| 10 黒褐色土：ローム粒子を含む。              | 20 灰褐色土：多量のローム粒子を含む。             |



第61図 81号溝断面(2)、出土遺物(1)



第62図 81号溝出土遺物(1)

## 83号溝 (第63～65図、P.L. 19・20・38)

位置 10・11区 X=36377～430、Y=-39160～174

重複遺構 なし。

形態 ほぼ直線的に伸びる。断面は逆三角形であり、底面は幅が狭い。

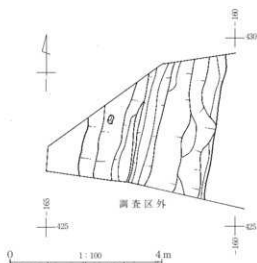
走向 N-10°-E

規模 調査した長さ54m 上面幅2.4～3.4m 底面幅0.15～0.65m 深さ1.06～1.15m

埋土の状態 顕著な軽石は見られない。

遺物 図示した白磁片のほか、土師器・須恵器・かわらけなどの小破片が出土している。

所見 深い直線的な溝である。出土遺物から中近世以降のものと考えられる。



第63図 11区83号溝、出土遺物

## 111号溝 (第64図)

位置 10区 X=36405～409、Y=-39152～161

重複遺構 なし。

形態 わずかに湾曲する。断面は碗状である。

走向 N-70°-79°-W

規模 調査した長さ8.8m 上面幅0.68～0.90m

底面幅0.25～0.56m 深さ0.20～0.25m

埋土の状態 締まりの弱い暗褐色土で埋没する。

遺物 なし。

所見 調査できた範囲が短く、遺物も出土しないことから、時期・性格共に不明である。

## 112号溝 (第64図、P.L. 19)

位置 10区 X=39408～416、Y=-39166～169

重複遺構 なし。

形態 わずかに湾曲する。断面は不整な碗状。

走向 N-7°-17°-E

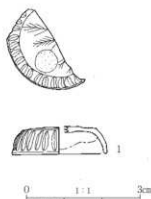
規模 調査した長さ7.6m 上面幅0.55～0.80m

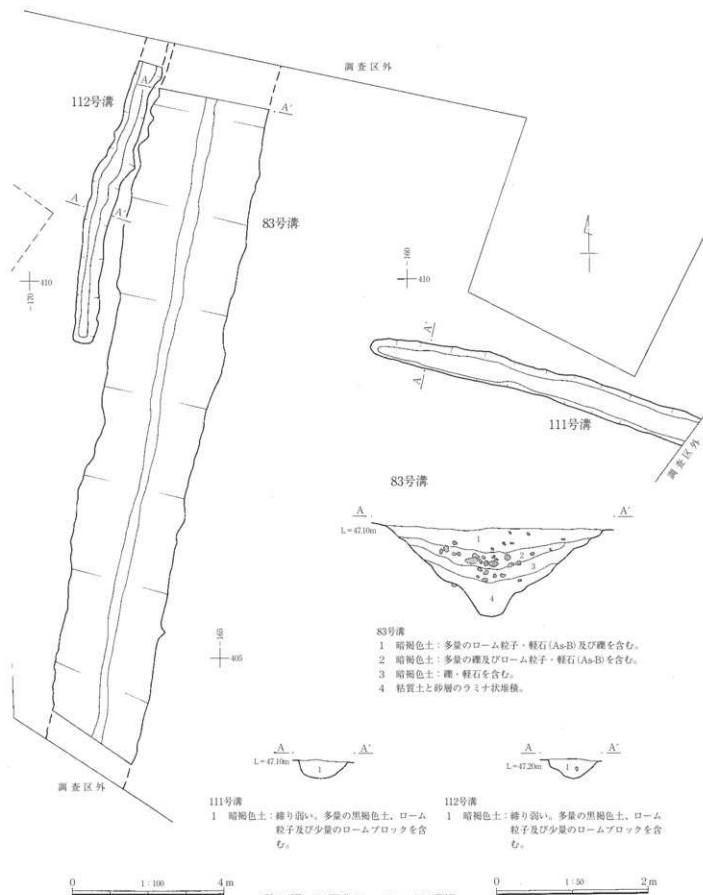
底面幅0.10～0.34m 深さ0.25m

埋土の状態 締まりの弱い暗褐色土で埋没する。

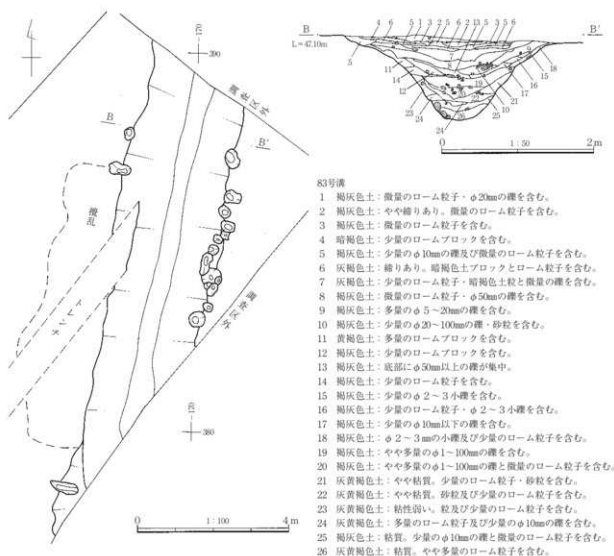
遺物 なし。

所見 調査できた範囲が短く、遺物も出土しないことから、時期・性格共に不明である。





第64図 10区北83・111・112号溝



第65図 10区南83号溝

## 86号溝 (第67図, P.L.20)

位置 12区 X=36501~507, Y=-39091~097

重複構造 91号溝と重複する。本溝が新しい。北端部は大きな掘り込みがありはつきりしない。

形態 細く直線的に伸びる。断面は逆台形である。

走向 N-45°-E

規模 長さ6.7mと推定 上面幅0.25~0.28m 底面幅0.09~0.18m 深さ0.06~0.08m

埋土の状態 As-Bを含む。

遺物 なし

所見 出土遺物はないが、埋土にAs-Bを含んでおり、平安後期以降の溝である。

## 83号溝

- 1 褐灰色土：微量のローム粒子・φ20mmの礫を含む。
- 2 褐灰色土：やや粘りあり。微量のローム粒子を含む。
- 3 褐灰色土：微量のローム粒子を含む。
- 4 暗褐色土：少量のロームブロックを含む。
- 5 褐灰色土：少量のφ10mmの礫及び微量のローム粒子を含む。
- 6 灰褐色土：粘りあり。暗褐色土ブロックとローム粒子を含む。
- 7 灰褐色土：少量のローム粒子・暗褐色土粒と微量の礫を含む。
- 8 褐灰色土：微量のローム粒子・φ50mmの礫を含む。
- 9 褐灰色土：多量のφ5~20mmの礫を含む。
- 10 褐灰色土：少量のφ20~100mmの礫・砂粒を含む。
- 11 黄褐色土：多量のロームブロックを含む。
- 12 褐灰色土：少量のロームブロックを含む。
- 13 褐灰色土：底部にφ30mm以上の礫が集中。
- 14 褐灰色土：少量のローム粒子を含む。
- 15 褐灰色土：少量のφ2~3小礫を含む。
- 16 褐灰色土：少量のローム粒子・φ2~3小礫を含む。
- 17 褐灰色土：少量のφ10mm以下の礫を含む。
- 18 褐灰色土：φ2~3mmの小礫及び少量のローム粒子を含む。
- 19 褐灰色土：やや多量のφ1~100mmの礫を含む。
- 20 褐灰色土：やや多量のφ1~100mmの礫と微量のローム粒子を含む。
- 21 灰黄褐色土：やや粘質。少量のローム粒子・砂粒を含む。
- 22 灰黄褐色土：やや粘質。砂粒及び少量のローム粒子を含む。
- 23 灰黄褐色土：粘性弱い。粒及び少量のローム粒子を含む。
- 24 灰黄褐色土：多量のローム粒子及び少量のφ10mmの礫を含む。
- 25 褐灰色土：粘質。少量のφ10mmの礫と微量のローム粒子を含む。
- 26 灰黄褐色土：粘質。やや多量のローム粒子を含む。

## 87号溝 (第67図, P.L.20)

位置 X=36480~505, Y=-39090~112

重複構造 89号・91号溝と重複する。本溝は91号溝よりも新しいが、89号溝とは不明である。北端部は大きな掘り込みに破壊されている。

形態 わずかに屈曲する。断面は逆台形か碗形。

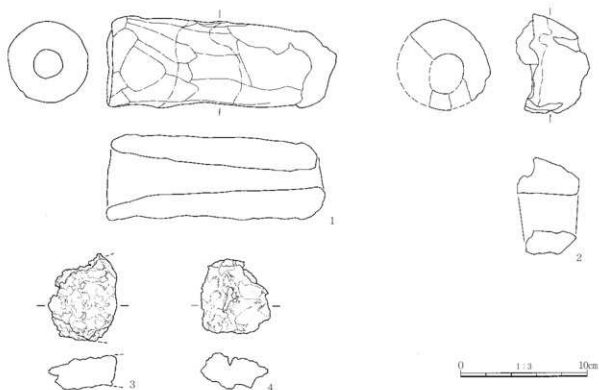
走向 N-38°-45°-E

規模 調査した長さ30m 上面幅0.52~1.26m 底面幅0.25~0.81m 深さ0.08~0.24m

埋土の状態 As-Bを含む

遺物 土師器・須恵器の小破片が出土している。

所見 As-Bを含むことから平安後期以降の溝である。



第66図 91号溝出土遺物

**89号溝** (第67図, P.L. 21)

**位置** 12区 X=36494~499, Y=-39091~096

**重複遺構** 87号溝と重複するが、新旧関係は不明である。

**形態** 幅が大きく変化し、全体として瓢箪形となる。断面は浅い皿状で、底面には凹凸がある。

**走向** 調査した長さが短いので特定は困難であるが、ほぼN-52°-Wと推定する。

**規模** 調査した長さ4.5m 上面幅0.97~2.88m

底面幅0.68~2.73m 深さ0.13~0.23m

**埋土の状態** As-Bを含む。

**遺物** 土師器・須恵器の小破片が出土している。

**所見** 形状が不整なので性格不明であるが、時期は埋土にAs-Bを含み平安後期以降である。

**90号溝** (第67図, P.L. 21)

**位置** 12区 X=36477~481, Y=-39099~108

**重複遺構** なし

**形態** 直線的に伸びる。断面は椀状である。

**走向** N-74°-83°-W

**規模** 調査した長さ7.8m 上面幅0.65~0.85m

底面幅0.41~0.64m 深さ0.17~0.27m

**埋土の状態** As-Bを含む。

**遺物** なし。

**所見** 遺物はないが埋土にAs-Bを含むので、平安後期以降の溝である。

**91号溝** (第66・67図, P.L. 21・38)

**位置** 12区 X=36501~506, Y=-39088~098

**重複遺構** 86・87号溝と重複し、本溝が古い。

**形態** 直線的に伸びる。断面は皿状である。

**走向** N-75°-W

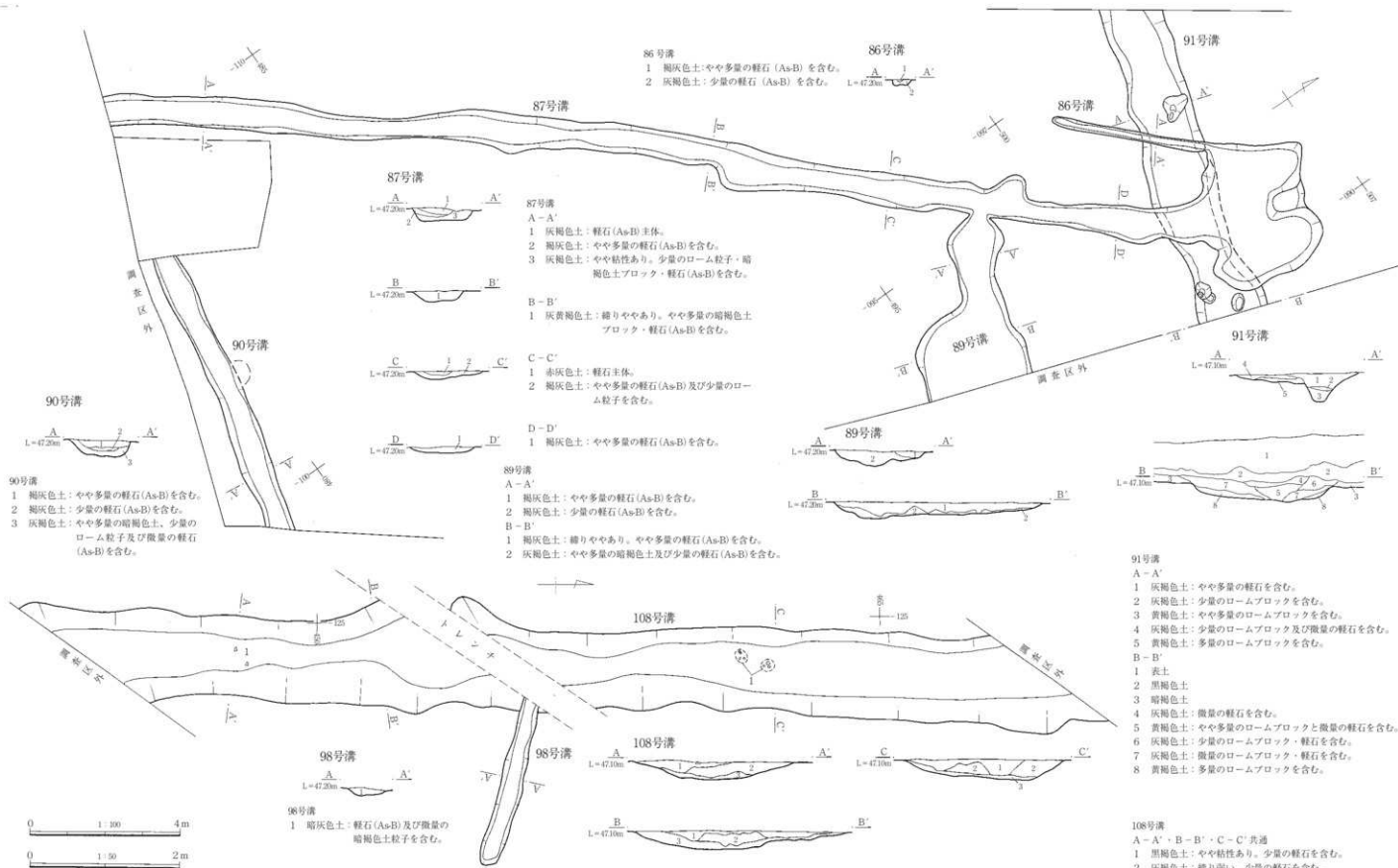
**規模** 調査した長さ8.6m 上面幅1.28~1.84m

底面幅0.85~1.50m 深さ0.14~0.23

**埋土の状態** 軽石を含むがAs-Bではない。

**遺物** 羽口、鉄滓など鍛冶関連の遺物が出土する。

**所見** 埋土にAs-Bを含まず、平安後期以前に遡る可能性が高い。



第67図 86・87・89～91・98・108号溝



96号溝 (第68図, P.L.22)

位置 11区 X=36442~452, Y=-39133~139

重複遺構 なし。

形態 わずかに蛇行する。断面は浅い皿状。

走向 N-30'-E

規模 長さ10.0m 上面幅0.42~0.76m 底面幅0.25~0.61m 深さ0.03~0.07m

埋土の状態 As-Bを含む。

遺物 なし。

所見 長さが短く、遺物も出土しないが、埋土にAs-Bを含むので、平安後期以降の溝である。

97号溝 (第68図, P.L.22)

位置 11区 X=36424~427, Y=-39149~158

重複遺構 なし。

形態 わずかに湾曲する。断面は浅い逆台形。

走向 N-62'~76'-W

規模 調査した長さ7.7m 上面幅0.63~0.75m

底面幅0.45~0.52m 深さ0.03~0.16m

埋土の状態 As-Bを含む。

遺物 なし。

所見 長さが短く、遺物も出土しないが、埋土にAs-Bを含むので、平安後期以降の溝である。

98号溝 (第67図, P.L.22)

位置 11区 X=36454~457, Y=-39118~123

重複遺構 108号溝と重複する。本溝が新しい。

形態 直線的に伸びる。断面は浅い皿状。

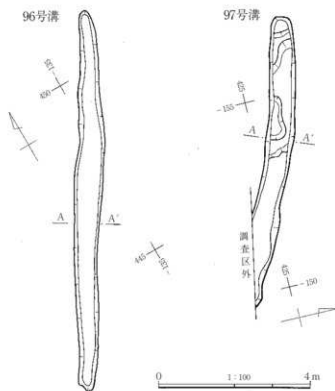
走向 N-75'-W

規模 調査した長さ4.6m 上面幅0.45~0.58m 底面幅0.25~0.41m 深さ0.03~0.09m

埋土の状態 As-Bを含む。

遺物 なし。

所見 長さが短く、遺物も出土しないが、埋土にAs-Bを含むので、平安後期以降の溝である。



第68図 96・97号溝



96号溝

1 暗灰色土: 軽石(As-B)及び微量の暗褐色土粒子を含む。



97号溝

1 暗灰色土: 軽石(As-B)及び微量の暗褐色土粒子を含む。





## 108号溝 (第67・70図, P.L.23)

位置 11区 X=36442~472, Y=-39121~126

重複遺構 98号溝と重複する。本溝が古い。

形態 直線的に伸びる。断面は皿状である。

走向 N-2°-E

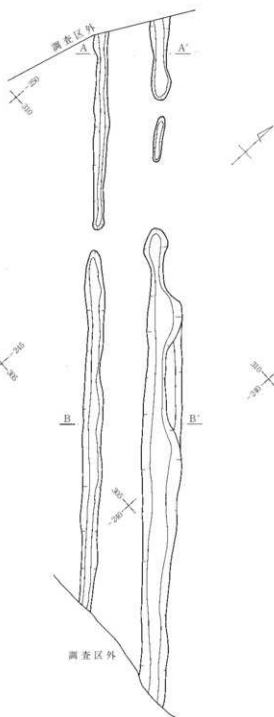
規模 調査した長さ29.5m 上面幅1.95~2.80m

底面幅0.51~1.65m 深さ0.18~0.30m

埋土の状態 顕著な軽石等を含まない。

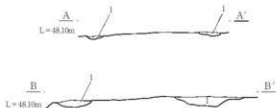
遺物 図示した須恵器蓋のほか、土師器・須恵器の小破片がごく少数出土している。

所見 ほは南北方向に直線的に伸びているが、流水などの痕跡はなく、性格の詳細は不明である。出土遺物は少ないが、98号溝よりも古いことから、平安後期以前のもと考えられる。



## 1号道 (第70図, P.L.23・24)

8区北端にある2本の並行する溝であり、道跡と思われる。112号住居、244号・245号・298号土坑、105号溝などと重複するが、いずれよりも新しい。2本の側溝の心-心距離は1.56~1.72mである。溝の上面幅は南0.28~0.52m、北0.22~1.04mであり、北側溝が太い。両溝とも一部途切れるところがある。方向はN-46°-Wである。硬化面などはなく、道とすれば路面は既に削平されているものと思われる。出土遺物はないが、As-Bを含む105号溝を切っているため、中世以降のものであろう。



1号道

1 暗褐色土：微量のローム粒子・軽石を含む。



第70図 108号溝出土遺物、1号道

## 第6節 土坑

土坑として調査した遺構は、今回の調査区全域で合計63基である。その分布を見てみると、調査区によってかなり偏りがある。最も多いのは8区であり、ここには大部分の49基が集中している。特にこの区の北側には数多くの土坑が集中している。その南北の調査区では分布がまばらで、南の7区は1基、北の9区は4基があるにすぎない。さらに北側の10区には3基、11区では6基があるが、それぞれ狭い範囲に集まっており、その周りには分布しない。そして北側の12区には全く見られない。

これらの土坑は出土遺物も少なく、時期・性格共に不明なものが大部分であるが、第1集では、「覆土により大きく二時期に分けられる。」としている。それによれば、まずひとつは覆土にAs-C・Hr-FAを含む土坑で、基本的に住居跡の覆土と同じであり、年代は古代以降（正確には、6世紀中葉以降）である。住居跡と同じ時期と考えれば、8世紀～10世紀前半である。そしてもうひとつは覆土中にAs-Cを含むもので、それは古墳時代の土坑であると考えられる。しかし向矢部遺跡には、As-C・Hr-FAを含む土坑は数多くあるが、As-Cだけを含むような土坑は存在しない。そして上記2者以外に、向矢部遺跡では覆土にAs-Bを含む土坑が存在する。これらは古代末から中世にかけてのものと考えることができよう。つまり、向矢部遺跡では、覆土にAs-C・Hr-FAを含むもの、As-Bを含むものの2種類が

存在するのである。これらについては「第1表土坑一覧表」の「その他」の欄に、「C・FAを含む」「Bを含む」と注記することにする。ただし覆土に含まれる火山噴出物による年代推定は、あくまでも「推定」である。実際65号土坑はAs-C・Hr-FAを含むが、同時に近世の土器も出土しており、近世以降の土坑であると思われる。ここでは年代推定のひとつとして理解していただきたい。

覆土中軽石を含まないものは、時期の推定がさらに困難であるが、第1集ではこれらも古代以降のものが多いと推測している。本書でもその理解を継承したいが、これもあくまでも推測の範囲である。

なお東今泉鹿島遺跡では、覆土中に焼土粒子・焼土ブロック・炭化物等を含むものが比較的多くあるが、向矢部遺跡ではごく少ない。

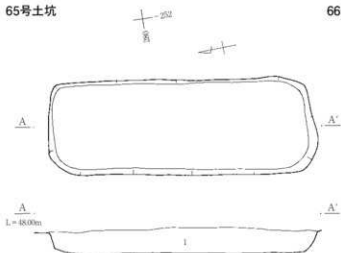
前述の通りほぼ全ての土坑の用途は不明であるが、平面形がほぼ円形のものが多いのが目につく。8区の北半部には直径1.5m程度の円形の土坑が多く見られる。これらはいずれも底面が浅く平坦で、いわば壘状の形態をしている。覆土にAs-Bを含むものが多いので、古代末から中世のものか、あるいはそれ以降のものと考えられる。特に25号掘立柱建物の南には7基集まっており、一定の用途があるものと考えられる。同様なものは8区北東部に5基が集まっている。

第1表 土坑一覧

番号	調査区	位置	重複関係	平面形	長辺・長軸×短辺・短軸 ×深さ(cm) ( )は推定・残存長	出土遺物 (特記以外は小破片)	その他
65	8	278-252		長方形	250×101×26	近世土器1・土師器2・須恵器2	C・FAを含む。遺物から近世以後と推定。
66	8	278-251		不整形長方形	195×99×30	土師器9・須恵器5	C・FAを含む。
67	8	263-255		長方形	171×80×18		C・FAを含む。
68	8	257-265		正方形	105×105×17		C・FAを含む。
69	8	263-263		長方形	117×85×8		C・FAを含む。
70	8	265-266	155・154Pより古い	楕円形	(102)×118×18		C・FAを含む。
71	8	267-253		円形	106×96×13	土師器1・須恵器1	C・FAを含む。
72	8	268-262	26溝より古い	楕円形	73×69×50		C・FAを含む。
76	7	239-278		円形	64×58×23		炭化物の層あり。

番号	調査区	位置	重複関係	平面形	長辺・長軸×短辺・短軸 ×深さ(cm) ( )は測定・残存長	出土遺物 (特記以外は小破片)	その他
177	9	322-215		不整形円形	146×106×22		
185	9	331-218		楕円形	72×51×32		
186	9	330-209		円形	61×58×24		
188	9	348-193		楕円形か	(124)×(58)×52		
193	10	377-173		不整形円形	104×43×38		
194	10	378-173		円形	53×47×32		C・FAを含む。
196	10	378-174		不整形	144×64×20		2基の土坑が重複したような形態。
205	8	312-234		楕円形	106×69×10	土師器1	C・FAを含む。
206	8	319-239	207土坑より新しい	楕円形か	(110)×(70)×22		
207	8	317-239	206土坑より古い	長方形か	(232)×103×34	土師器4・須恵器1	
208	8	310-229		円形か	(118)×(51)×48	須恵器1	柱穴の可能性も。
209	8	308-229		円形	148×134×45	土師器2・須恵器1	
210	8	306-230	252土坑より新しい	円形	137×125×43	土師器1・須恵器1	
211	8	304-230	252土坑より新しい	円形	117×112×48	土師器7・須恵器3	
212	8	315-247	111住居より新しい	長方形	98×78×35	土師器11・須恵器4	須恵器環1图示。
213	8	308-233		長方形	147×81×14		
214	8	305-233	214住居より新しい	円形	113×108×47	土師器25・須恵器3	土師器環1图示。
215	8	314-245	111住居より新しい	長方形	224×120×74	土師器8・陶器1	
216	8	301-245	25掘立より新しい	円形	168×157×31	土師器4・石1	Bを含む。磨石1图示。
217	8	300-239	113住居より新しい	不整形円形	(107)×(103)×30	土師器2・須恵器1	
218	8	289-248		長方形	206×83×14		
219	8	295-250	220土坑と重複	不整形円形	104×89×7		Bを含む。
220	8	294-250	219土坑と重複	円形	150×143×21	須恵器1	
221	8	294-248		円形	160×157×25	土師器3・須恵器1	Bを含む。
222	8	293-246		円形	146×133×30		
223	8	291-247		不整形円形	150×123×20	土師器6	
224	8	292-249		円形	146×139×29	土師器2・須恵器1	Bを含む。
228	8	290-251		不整形円形	173×157×24	土師器2・須恵器1	Bを含む。
229	8	292-242	25掘立P11より新しい	長方形	255×58×22	土師器8・須恵器3	
240	8	302-247		円形か	143× - ×27		
241	8	285-258		円形	130×119×8		Bを含む。
242	8	305-247		長方形	206×62×11		
243	8	283-252		不整形	163×65×11	須恵器1	不整形で浅い。
244	8	302-235	112住居より新しい	楕円形	139×94×46		
245	8	310-245	1道に切られる	長方形に張り出し	181×153×18	土師器2・須恵器1	B・炭化物を含む。
252	8	305-229	210・211土坑より古い	円形か	137× - ×11		
253	8	309-232		長方形	391×68×35	土師器8・須恵器4	
254	8	314-234		長方形	99×48×8	土師器1	
260	11	435-133		不整形	81×63×22		
261	11	431-133		不整形	(133)×86×28		C・FA・Bを含む。
262	11	433-133		楕円形	85×58×20		C・FAを含む。
263	11	434-132		不整形	91×73×15	土師器4	C・FA・炭化物を含む。
264	11	432-132		不整形か	(116)×(55)×35		C・FAを含む。
265	11	435-132		不整形	89×59×49	土師器6	C・FA・炭化物を含む。
277	8	306-231		楕円形	79×53×20	土師器1	
278	8	304-237	112住居より古い	長方形か	(76)×108×34	土師器1	
291	8	322-243		長方形	285×105×21	土師器9・須恵器2	
292	8	319-242		長方形	277×97×27	土師器10	
293	8	317-242		不整形	153×136×46	土師器2	
294	8	317-247		不整形	99×63×35	土師器2・須恵器1	
295	8	318-247	798Pと重複	不整形円形	81×73×9	土師器3	
296	8	319-245		楕円形	112×76×41		
297	8	322-249		不明	(97)×(54)×13	土師器1	
298	8	319-238		楕円形か	(163)×(49)×44		

65号土坑



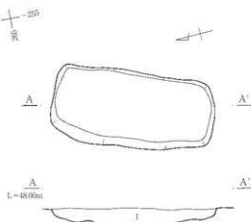
1 暗褐色土：少量のロームブロック・軽石(Hr-FA・AsC)を含む。

66号土坑



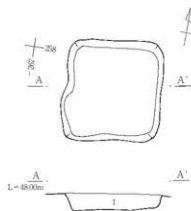
1 黒褐色土：少量の軽石(Hr-FA・AsC)及び微量の焼土粒子を含む。

67号土坑



1 暗褐色土：少量のロームブロック・軽石(Hr-FA・AsC)を含む。

68号土坑



1 暗褐色土：少量のロームブロック・軽石(Hr-FA・AsC)を含む。

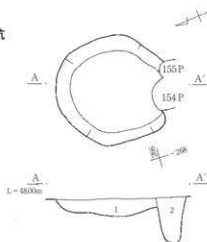
69号土坑



1 暗褐色土：少量のロームブロック・軽石(Hr-FA・AsC)を含む。



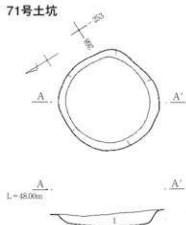
70号土坑



1 暗褐色土：少量のロームブロック・軽石(Hr-FA・AsC)を含む。  
2 黒褐色土：多量のローム粒子を含む。(154号ビット)

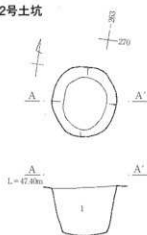
第71図 65～70号土坑

71号土坑



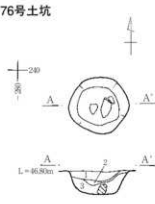
1 暗褐色土：少量のロームブロック・軽石(Hr-FA・As-C)を含む。

72号土坑



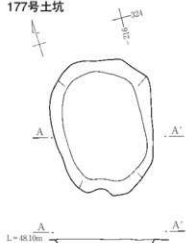
1 暗褐色土：粘性ややあり。少量の軽石(Hr-FA・As-C)を含む。

76号土坑



- 1 暗褐色土：砂質。粘り・粘性弱い。
- 2 黒褐色土：炭化物主体。植物繊維・木炭片を含む。
- 3 暗褐色土：砂質。礫を含む。粘性弱い。

177号土坑



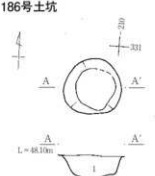
1 暗褐色土：ローム粒子・黒褐色土粒子を含む。

185号土坑



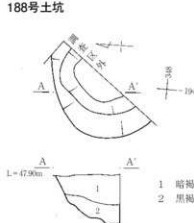
- 1 暗褐色土：微量のローム粒子を含む。
- 2 黒褐色土：少量のローム粒子を含む。

186号土坑



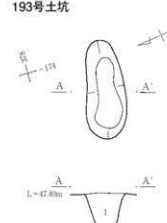
1 黒褐色土：多量のロームブロックを含む。

188号土坑



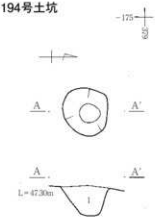
- 1 暗褐色土：多量のローム粒子を含む。
- 2 黒褐色土：微量のローム粒子を含む。

193号土坑



1 褐灰色土：少量の砂粒及び微量の小礫を含む。

194号土坑

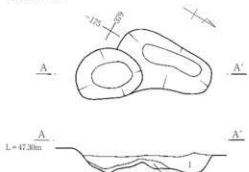


1 灰褐色土：少量のローム粒子及び微量の軽石(Hr-FA・As-C)を含む。



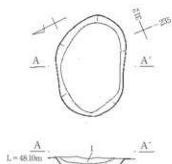
第72図 71・72・76・177・185・186・188・193・194号土坑

195号土坑



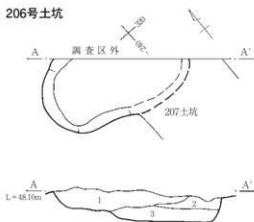
- 1 暗褐色土：少量のロームブロックを含む。
- 2 黄褐色土：ロームブロック主体。

205号土坑



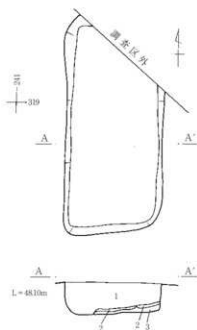
- 1 黒褐色土：少量の軽石(Hr·FA·As·C)と微量のローム粒子を含む。
- 2 黒褐色土：多量のローム粒子を含む。

206号土坑



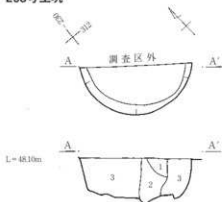
- 1 黒褐色土：少量のローム粒子を含む。(206号土坑)
- 2 黒褐色土：少量のロームブロックを含む。(207号土坑)
- 3 黒褐色土：多量のローム粒子及び少量のロームブロックを含む。(207号土坑)

207号土坑



- 1 黒褐色土：多量のローム粒子・ロームブロックを含む。
- 2 黄褐色土：ローム主体。
- 3 黒褐色土：多量のローム粒子を含む。

208号土坑



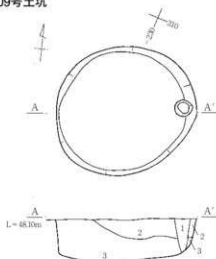
- 1 暗褐色土：多量のローム粒子を含む。(ビット覆土)
- 2 黒褐色土：微量のローム粒子を含む。(ビット覆土)
- 3 黒褐色土：多量のロームブロックを含む。



第73図 195・205～208号土坑

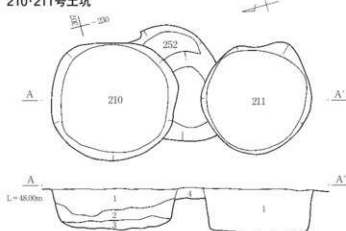


209号土坑



- 1 暗褐色土：多量のローム粒子を含む。(ビット覆土)
- 2 黒褐色土：やや多量のロームブロックを含む。
- 3 黒褐色土：多量のロームブロックを含む。

210・211号土坑

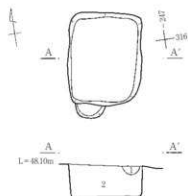


213号土坑



- 1 黒褐色土：多量の軽石(A&B)及び微量のローム粒子を含む。

212号土坑



- 1 黒褐色土：少量のローム粒子を含む。(ビット覆土)
- 2 黒褐色土：少量のローム粒子及び多量のロームブロックを含む。

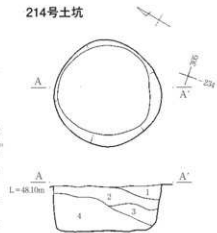
212号土坑出土遺物



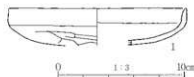
210・211号土坑

- 1 黒褐色土：多量のローム粒子・ロームブロックを含む。(210・211号土坑)
- 2 黒褐色土：微量のローム粒子・ロームブロックを含む。(210号土坑)
- 3 黒褐色土：少量の微量のローム粒子・ロームブロックを含む。(210号土坑)
- 4 252号土坑覆土。

214号土坑

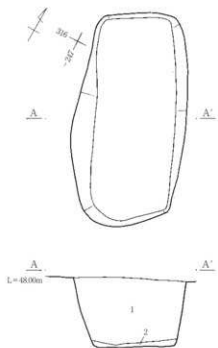


214号土坑出土遺物



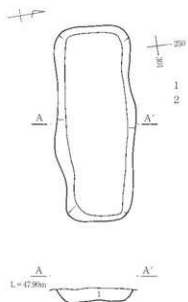
第74図 209～214号土坑、212・214号土坑出土遺物

215号土坑



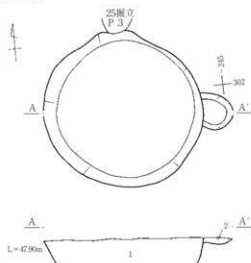
- 1 黒褐色土：多量のローム粒子・ロームブロックを含む。
- 2 暗褐色土：多量のローム粒子・ロームブロックを含む。

218号土坑



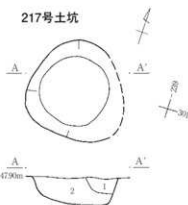
- 1 黒褐色土：少量のローム粒子を含む。

216号土坑



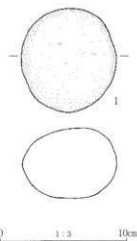
- 1 黒褐色土：多量のローム粒子・ロームブロックを含む。
- 2 黒褐色土：軽石(As-B)及び微量のローム粒子を含む。  
(ピット覆土)

217号土坑

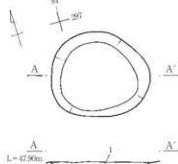


- 1 暗褐色土：多量のローム粒子・ロームブロックを含む。
- 2 黒褐色土：多量のローム粒子・ロームブロックを含む。

216号土坑出土遺物



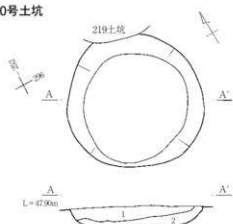
219号土坑



- 1 黒褐色土：砂質。軽石(As-B)及び微量のローム粒子を含む。

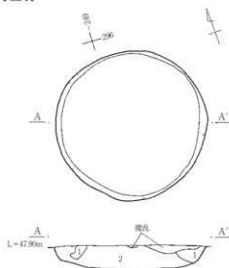
第75図 215～219号土坑、216号土坑出土遺物

220号土坑



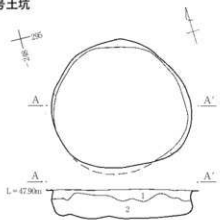
- 1 黒褐色土：多量のローム粒子を含む。
- 2 黒褐色土：少量のローム粒子を含む。

221号土坑



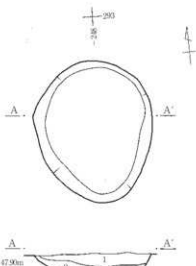
- 1 黒褐色土：軽石 (As-B) 及び微量のローム粒子を含む。
- 2 黒褐色土：多量のローム粒子・ロームブロックを含む。

222号土坑



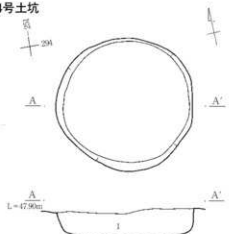
- 1 暗灰色土：微量のローム粒子を含む。
- 2 黒褐色土：多量のローム粒子・ロームブロックを含む。

223号土坑



- 1 黒褐色土：多量のローム粒子・ロームブロックを含む。
- 2 黒褐色土：微量のローム粒子を含む。

224号土坑

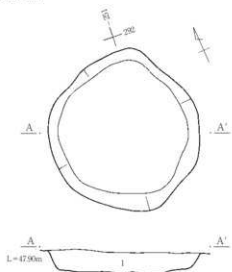


- 1 黒褐色土：やや砂質。軽石 (As-B) 及び少量のローム粒子を含む。

第76図 220～224号土坑

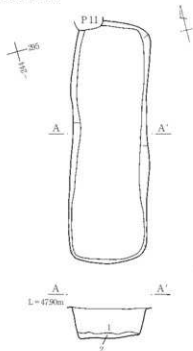
0 1:00 1m

238号土坑



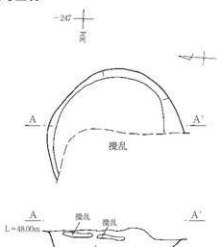
1 黒褐色土：やや砂質。軽石 (As-B) 及び少量のローム粒子を含む。

239号土坑



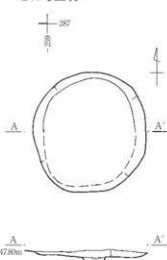
1 黒褐色土：多量のローム粒子・ロームブロックを含む。  
2 黒褐色土：多量のロームブロックを含む。

240号土坑



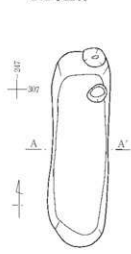
1 黒褐色土：多量のローム粒子・ロームブロックを含む。

241号土坑



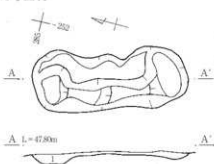
1 黒褐色土：やや砂質。軽石 (As-B) 及び少量のローム粒子を含む。  
2 黒褐色土：少量のロームブロックを含む。(ピット覆土)

242号土坑



1 黒褐色土：多量のローム粒子・ロームブロックを含む。  
2 黒褐色土：少量のローム粒子を含む。

243号土坑

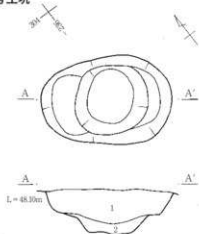


1 黒褐色土：少量のローム粒子・ロームブロックを含む。



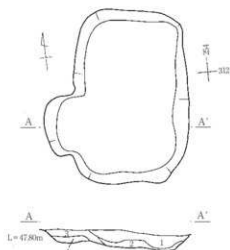
第77図 238~243号土坑

244号土坑



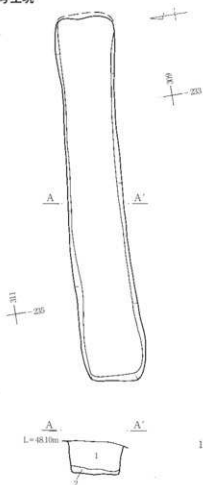
- 1 黒褐色土：多量のローム粒子を含む。
- 2 黒褐色土：少量のロームブロックを含む。

245号土坑



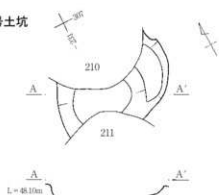
- 1 黒褐色土：多量のローム粒子・ロームブロックを含む。
- 2 黒褐色土：軽石(A&B)及び微量のローム粒子を含む。
- 3 黒褐色土：少量の炭化物・焼土粒子及び微量のローム粒子を含む。
- 4 黄褐色土：薄ったローム。微量の炭化物を含む。

253号土坑

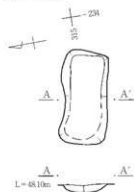


- 1 黒褐色土：多量のローム粒子・ロームブロックを含む。
- 2 黒褐色土：少量のローム粒子を含む。

252号土坑



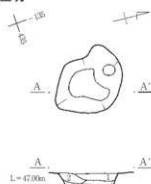
254号土坑



- 1 黒褐色土：やや砂質。少量のローム粒子を含む。

0 1:40 1m

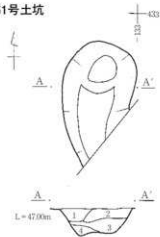
260号土坑



- 1 褐灰色土：少量の炭化物を含む。
- 2 褐灰色土：多量のロームブロックを含む。
- 3 褐灰色土：少量のローム粒子を含む。
- 4 褐灰色土：やや多量のローム粒子を含む。

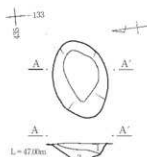
第78図 244・245・252~254・260号土坑

261号土坑



- 1 黒褐色土：軽石(Hr-FA・As-C)及び微量のロームブロックを含む。
- 2 黒褐色土：軽石(Hr-FA・As-C)及び少量のロームブロックを含む。
- 3 褐灰色土：多量のロームブロック及び微量の軽石(As-B)を含む。
- 4 灰黄褐色土：ロームブロック主体。微量の軽石(As-B)を含む。

262号土坑



- 1 黒褐色土：少量の軽石(Hr-FA・As-C)及び微量のローム粒子を含む。
- 2 褐色土：少量のロームブロックを含む。

264号土坑

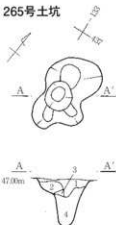


- 1 灰褐色土：少量の軽石(Hr-FA・As-C)・ローム粒子を含む。
- 2 灰褐色土：やや多量のロームブロックを含む。

263号土坑



265号土坑



- 1 褐灰色土：やや多量の炭化物及び少量のロームブロック・軽石(Hr-FA・As-C)を含む。
- 2 灰褐色土：褐色土主体。
- 3 灰褐色土：微量の軽石(Hr-FA・As-C)を含む。
- 4 灰褐色土：やや多量のローム粒子を含む。

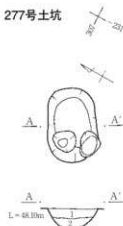
278号土坑



- 1 黒褐色土：少量のローム粒子・ロームブロックを含む。
- 2 112号住居跡覆土

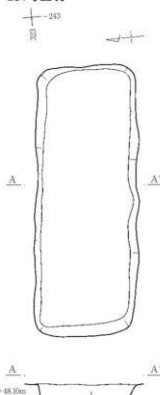
- 1 褐灰色土：少量の軽石(Hr-FA・As-C)及び微量のローム粒子を含む。
- 2 褐色土：やや多量のロームブロックを含む。
- 3 褐灰色土：やや多量の炭化物・焼土・灰を含む。

277号土坑



- 1 褐色土：少量のローム粒子・黒褐色土ブロックを含む。
- 2 黒褐色土：少量のロームブロックを含む。

291号土坑

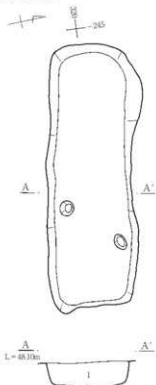


- 1 暗褐色土：ロームブロックを含む。

第79図 261~265・277・278・291号土坑

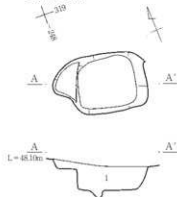
0 1:40 1m

292号土坑



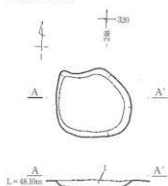
1 暗褐色土：ロームブロックを含む。

294号土坑



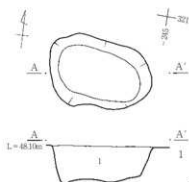
1 暗褐色土：ロームブロックを含む。

295号土坑



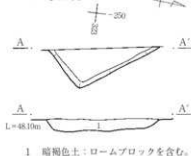
1 暗褐色土：ロームブロックを含む。

296号土坑



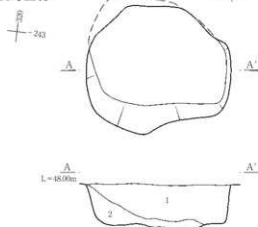
1 暗褐色土：ロームブロックを含む。

297号土坑



1 暗褐色土：ロームブロックを含む。

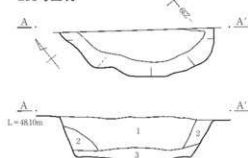
293号土坑



1 暗褐色土：ロームブロックを含む。

2 暗褐色土：ローム混土。

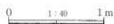
298号土坑



1 暗褐色土：ローム粒子・炭化物を含む。

2 暗褐色土：ローム粒子を含む。

3 暗褐色土：ローム混土。



第80図 292~298号土坑

## 第7節 ビット

ビットは全域から合計175基見つかっている。分布にはかなり偏りが見られ、7区0基、8区90基、9区25基、10区28基、11区12基、12区20基であり、8区が非常に多い。それらのうち、8区ではその南北に集中する部分が顕著に見られる。9区、10区では全体にまばらに分布するが、11区では土坑が集中する付近に、12区では溝の周辺にやや多い傾向がある。

これらのビットの時期・性格は、特定するのが困難なものが多い。第1集では土坑と同様、埋土によって次の3種に分けている。つまり、As-C・Hr-FAを含むもの、As-Cだけを含むもの、軽石が含まれずに洪水層やロームで埋まったものの3者である。しかしながら、向矢部遺跡のビットの調査においては軽石がほとんど把握できず、埋土による分類は不可能に近い。第1集では軽石を含まないものについて

でも、「集落の時期に近いものが多くある」としたが、本遺跡でも同様の傾向にあると考えてよいと思われる。

出土遺物は非常に少ないが、土師器・須恵器の小破片が出土している場合がある。これらは周囲の竪穴住居の遺物が混じり込んだものであろう。

以下、ビットの位置は付図の遺構全体図に示し、それぞれの平面図は第81図以下にあげたとおりである。計測値は第2表に示した。

第2表 ビット一覧

番号	調査区	位置	重複関係	平面形	規模(cm) 長辺・長軸×短辺・短軸×深さ( )は測定長・残存長	出土遺物 (特記以外は小破片)	その他
129	8	279-245		不整形円形	60×51×60		
130	8	279-246		不整形円形	79×77×45	土師器2・須恵器1	
131	8	281-247		円形	70×65×58		
132	8	281-248		円形	35×32×49		
133	8	279-248		円形	39×35×33		
134	8	279-249		円形	26×23×37		
135	8	281-250		不整形円形	61×45×44		
136	8	277-250		楕円形	53×41×32	土師器1	
137	8	274-249		不整形	80×67×40		
138	8	274-252		楕円形	80×55×59		
139	8	275-255		楕円形	71×60×55		
140	8	275-257		円形	52×51×54		
141	8	273-256		楕円形	90×73×47	土師器4	
142	8	273-261		楕円形	60×44×33		
143	8	272-262		不整形円形	50×40×61		
144	8	272-263		円形	40×33×33		
145	8	271-267		楕円形	46×29×36		
146	8	271-268		不整形円形	40×33×31		
147	8	271-262		楕円形	46×34×36		
148	8	271-262		不整形円形	40×25×40		
149	8	261-260		円形	32×27×35		
150	8	258-260		円形	31×27×72		
151	8	258-261		円形	33×32×48		
152	8	258-262		楕円形	45×35×34		
153	8	261-264		不整形円形	46×44×32		
154	8	265-267	互いに重複新旧不明	楕円形か	-×33×50		
155	8	265-267	70土坑より新しい	楕円形か	33×-×27		



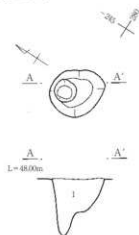
番号	調査区	位置	重複関係	平面形	規模(cm) 長辺・長軸×短辺・短軸×深さ( )は推定長・残存長	出土遺物 (特記以外は小破片)	その他
156	8	263-265		円形	28×26×33		
157	8	261-266		円形	28×23×40		
158	8	262-266		方形	34×24×30		
159	8	261-266		円形	37×34×40		
160	8	263-267		円形	30×29×48		
161	8	262-267	162より古い	楕円形か	(25)×23×18		
162	8	261-266	161より新しい	円形	45×39×29		
163	8	260-267		円形	37×33×42		
164	8	258-267		不整形	55×36×36		
165	8	260-268		方形	30×27×40		
166	8	260-269		不整形円形	40×36×29		
167	8	262-268		方形	27×25×35		
168	8	276-263		楕円形	45×36×45		
169	8	276-262		楕円形	53×41×42		
170	8	277-261		円形	44×40×41		
572	9	320-217		円形	26×25×29		
573	9	327-210		円形	46×43×26		
574	9	322-214		円形	43×38×30	土師器2	
575	9	328-221		円形	45×37×38		
576	9	329-221		円形	44×35×48		
577	9	323-217		不整形円形	33×32×29		
578	9	324-216		円形	26×23×20		
579	9	324-215		円形	27×24×29		
580	9	329-215		不整形円形	46×37×34		
581	9	332-215		楕円形	42×29×38	須恵器1	
582	9	334-214		円形	21×19×19		
583	9	333-205		円形	28×25×25		
584	9	327-210		円形	23×21×32		
585	9	334-210		円形	31×27×40		
586	9	342-201		円形	26×24×38		
587	9	343-201		円形	33×27×45		
588	9	343-200		円形	23×21×30		
589	9	343-200		円形	34×30×17 (25)×24×25	土師器1	2基のビットが重複
590	9	342-199		不整形円形	38×(30)×43	土師器1	2基以上のビットが重複
591	9	344-199		円形	35×30×46		
592	9	348-196		円形	31×28×23		
593	9	349-196		円形	35×30×42	土師器1	
594	9	342-206		不整形	48×33×30		
595	9	342-207		不整形円形	33×25×30	土師器2	
596	9	348-205		円形	23×20×15		
614	10	387-168		円形	35×33×27		
615	10	386-168		楕円形	38×30×46		
616	10	383-169		不整形	43×27×23		
617	10	382-169		不整形	(30)×26×15		
618	10	362-185		楕円形	45×32×34		
619	10	362-186		楕円形	41×34×42		
620	10	367-186		楕円形	33×26×35		
621	10	368-186		楕円形	43×33×46		
622	10	377-178		円形	46×36×43		
624	12	507-095		円形	28×23×33		
625	12	500-092		円形	32×29×35		
626	12	498-094		楕円形	47×38×43		
627	12	499-093		円形	30×24×20		
628	12	496-096		楕円形	45×37×28		
629	12	494-098		円形	47×41×40		
630	12	495-100		楕円形	53×40×55		
631	12	495-103		楕円形	74×55×47		

第3章 調査の結果

番号	調査区	位置	重複関係	平面形	規模(cm) 長辺・長軸×短辺・短軸×深さ( )は推定長・残存長	出土遺物 (特記以外は小破片)	その他
632	12	492-008		円形	48×42×35		
633	12	478-099		円形	35×33×40		
634	12	479-105		円形	38×34×45		
635	12	484-107		円形	46×40×36		
636	12	485-110		円形	32×30×33		
637	12	486-110		円形か	31×(18)×40		
638	12	485-103		楕円形	39×35×34		
639	10	367-186		円形	26×23×61		
640	10	368-189		不整形	35×27×47		
641	10	370-185		円形	33×29×42		
642	10	373-185		円形	37×30×53		
643	10	376-182		円形	(48)×29×39		2基のピットが重複か。
672	11	432-135		楕円形	65×50×31		
673	11	431-135		楕円形	54×46×25		
674	11	430-134		円形か	48×(32)×46		
675	11	434-136		楕円形	35×24×47		
676	11	434-132		円形	44×38×47		
677	11	431-137		不整形円形	36×27×45		
678	8	309-249		円形	33×30×32		
679	8	310-248		円形	37×32×46	土師器1・須恵器1	
680	8	310-247		円形	23×21×25		As-Bを含む。
681	8	313-248		方形	34×29×17		As-Bを含む。
682	8	317-243		円形	24×23×39		
683	8	317-242		円形	37×29×20		2基のピットが重複か。
684	8	314-243		円形	26×21×18		
685	8	313-243		円形	25×21×33		
686	8	312-243		楕円形	32×26×33		
687	8	309-243		円形	32×27×41		
688	8	311-229		方形	26×24×17		
689	8	310-235		楕円形	42×35×52		柱直がある。
690	8	310-233		円形	30×28×37		
691	8	313-234		不整形	76×49×53	須恵器1	
692	8	315-235		楕円形	51×44×63	須恵器1	
693	8	297-245		円形	27×24×14		As-Bを含む。
694	8	297-243		円形	22×19×12		As-Bを含む。
695	8	292-245		円形	27×22×33 32×25×61		2基のピットが重複。
699	11	435-134		楕円形	44×27×34		
700	11	439-133		不整形	54×(33)×42		
701	11	442-131		円形か	40×(24)×20	土師器1	
702	11	456-117		楕円形	52×43×23		As-Bを含む。
703	11	429-153		楕円形	79×65×42		
704	11	450-135		円形か	52×(33)×42		
768	10	378-178		不整形	93×64×58		
769	12	518-083		円形か	45×24×9		
770	12	521-082		楕円形	52×44×9		
771	12	523-082		楕円形	58×44×19		
772	12	523-082		円形	26×22×31		
773	12	525-082		楕円形	35×22×26		
774	8	325-248		円形	31×30×37		
775	8	326-247		円形	25×22×24		
776	8	324-247		円形	31×25×22		
777	8	324-247		円形	37×33×13		
778	8	324-246		円形	27×26×17		
779	8	324-248		円形	23×20×38		
780	8	323-249		円形	20×18×10		
781	8	323-248		円形	37×33×36		
782	8	323-248		円形	21×20×35		

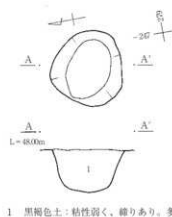
番号	調査区	位置	重複関係	平面形	規模(cm) 長辺・長軸×短辺・短軸×深さ( )は推定長・残存長	出土遺物(特記以外は小破片)	その他
783	8	323-247		円形	26×20×25		
784	8	323-246		円形	26×23×40		
785	8	322-248		不整形	56×46×34		
786	8	322-247		円形	39×37×18	磨石 1	
787	8	321-247		円形	25×21×41		
788	8	321-248		円形	36×29×38		
789	8	320-248		円形	30×25×25		
790	8	320-246		方形	34×30×45		
791	8	320-248		不整形	41×24×15		
792	8	320-248		円形	23×20×40		
793	8	319-248		円形	45×36×22		
794	8	319-248		楕円形	41×33×46		
765	8	318-249	796より古い	楕円形か	(30)×37×24		
796	8	318-248	795より新しい	円形か	(25)×25×21		
797	8	318-247		円形	23×19×23		
798	8	317-247	295土坑と重複	楕円形か	52×(40)×25		
799	8	320-243		円形	28×25×26		
800	8	321-242		長楕円形	(73)×36×6		
801	8	321-242	802より古い	円形か	38×(17)×21		
802	8	321-242	801より新しい	円形か	(35)×27×21		
803	8	320-240		楕円形	47×39×55		
804	10	416-176		円形	36×33×35		
805	10	404-159		方形か	36×30×37		
806	10	405-162		楕円形	45×31×38		
807	10	409-160		円形	36×33×40		
808	10	411-159		円形	30×25×30		
809	10	413-160		楕円形	43×38×32		
810	10	418-179		円形	38×36×34		
811	10	414-171		円形	32×28×40		
812	10	408-152		楕円形	47×40×43		
813	10	400-157		円形	39×34×40		
814	10	401-160		楕円形	55×38×39		
815	10	406-164		楕円形	44×33×30		
816	10	410-154		円形	37×32×28		

129号ビット



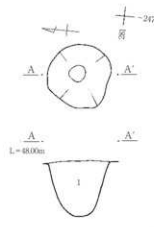
1 黒褐色土：粘性弱く、締りあり。多量のローム小ブロックを含む。

130号ビット



1 黒褐色土：粘性弱く、締りあり。多量のローム小ブロックを含む。

131号ビット

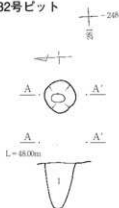


1 黒褐色土：粘性弱く、締りあり。多量のローム小ブロックを含む。

0 1:40 1m

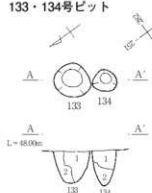
第81図 129～131号ビット

132号ビット



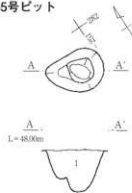
1 暗褐色土：粘性・締り弱い。少量のローム小ブロックを含む。

133・134号ビット



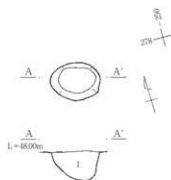
- 1 黒褐色土：粘性弱く、締りあり。多量のローム小ブロックを含む。
- 2 暗褐色土：粘性・締り弱い。少量のローム小ブロックを含む。

135号ビット



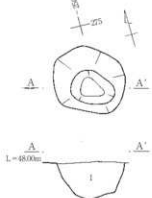
1 黒褐色土：粘性弱く、締りあり。多量のローム小ブロックを含む。

136号ビット



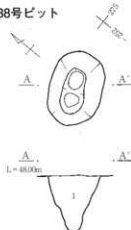
1 黒褐色土：粘性弱く、締りあり。多量のローム小ブロックを含む。

137号ビット



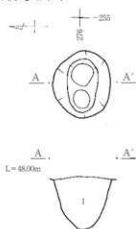
1 黒褐色土：粘性弱く、締りあり。多量のローム小ブロックを含む。

138号ビット



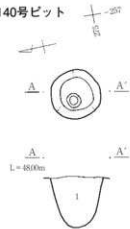
1 暗褐色土：粘性・締り弱い。少量のローム小ブロックを含む。

139号ビット



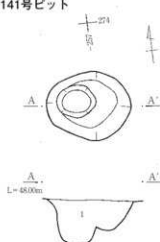
1 暗褐色土：粘性・締り弱い。少量のローム小ブロックを含む。

140号ビット



1 暗褐色土：粘性・締り弱い。少量のローム小ブロック・軽石を含む。

141号ビット

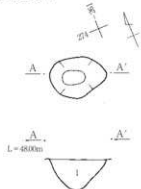


1 暗褐色土：粘性・締り弱い。少量のローム小ブロック・軽石を含む。



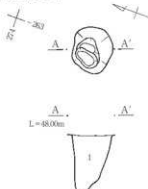
第82図 132～141号ビット

142号ビット



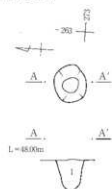
1 黒褐色土：粘性弱く、締りあり。多量のローム小ブロックを含む。

143号ビット



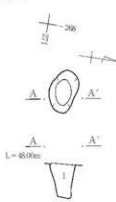
1 暗褐色土：少量の黒褐色土ブロック及び微量のローム小ブロックを含む。

144号ビット



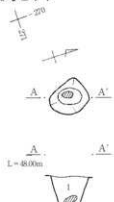
1 暗褐色土：粘性・締り強い。少量のローム小ブロックを含む。

145号ビット



1 暗褐色土：粘性・締り弱い。少量のローム小ブロックを含む。

146号ビット



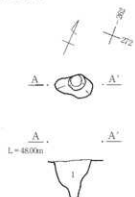
1 暗褐色土：粘性・締り弱い。少量のローム小ブロックを含む。

147号ビット



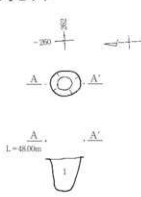
1 暗褐色土：粘性・締り強い。少量のローム小ブロックを含む。

148号ビット



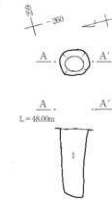
1 黒褐色土：粘性弱く、締りあり。多量のローム小ブロックを含む。

149号ビット

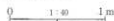


1 黒褐色土：粘性弱く、締りあり。多量のローム小ブロック及び少量の軽石を含む。

150号ビット

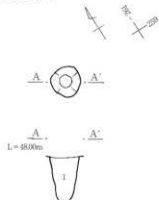


1 黒褐色土：粘性弱く、締りあり。多量のローム小ブロック及び少量の軽石を含む。



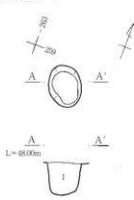
第83図 142～150号ビット

151号ビット



1 暗褐色土：粘性・締り弱い、少量のローム小ブロックを含む。

152号ビット



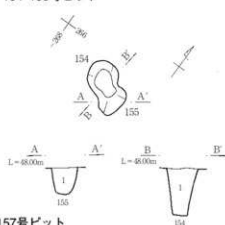
1 黒褐色土：粘性弱く、締りあり。多量のローム小ブロック及び少量の軽石を含む。

153号ビット



1 黒褐色土：粘性弱く、締りあり。多量のローム小ブロック及び少量の軽石を含む。

154・155号ビット



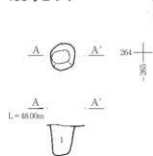
154号ビット

1 黒褐色土：粘性弱く、締りあり。多量のローム小ブロックと少量の軽石を含む。

155号ビット

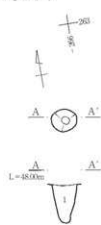
1 黒褐色土：粘性弱く、締りあり。多量のローム小ブロックと少量の軽石を含む。

156号ビット



1 黒褐色土：粘性弱く、締りあり。多量のローム小ブロックと少量の軽石を含む。

157号ビット



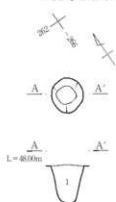
1 黒褐色土：粘性弱く、締りあり。多量のローム小ブロック及び少量の軽石を含む。

158号ビット



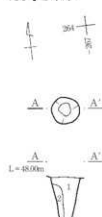
1 黒褐色土：粘性弱く、締りあり。多量のローム小ブロック及び少量の軽石を含む。

159号ビット



1 暗褐色土：粘性・締り弱い。少量のローム小ブロックを含む。

160号ビット

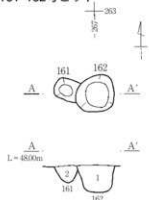


1 黒褐色土：粘性弱く、締りあり。多量のローム小ブロック及び少量の軽石を含む。  
2 黒褐色土：粘性弱く、締りあり。多量のローム小ブロック及び少量の軽石を含む。



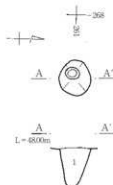
第84図 151～160号ビット

## 161・162号ビット



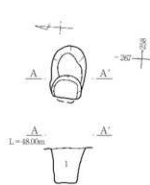
- 1 黒褐色土：粘性弱く、締りあり。多量のローム小ブロック及び少量の軽石を含む。(161号ビット)
- 2 暗褐色土：粘性・締り弱い。少量のローム小ブロックを含む。(162号ビット)

## 163号ビット



- 1 暗褐色土：粘性・締り弱い。多量のローム小ブロック及び少量の軽石を含む。

## 164号ビット



- 1 黒褐色土：粘性弱く、締りあり。多量のローム小ブロック及び少量の軽石を含む。

## 165号ビット



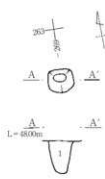
- 1 黒褐色土：粘性弱く、締りあり。多量のローム小ブロック及び少量の軽石を含む。

## 166号ビット



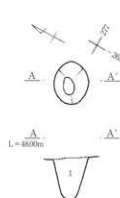
- 1 黒褐色土：粘性弱く、締りあり。多量のローム小ブロック及び少量の軽石を含む。

## 167号ビット



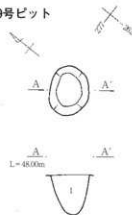
- 1 黒褐色土：粘性弱く、締りあり。多量のローム小ブロック及び少量の軽石を含む。

## 168号ビット



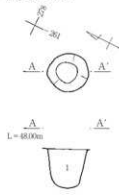
- 1 暗褐色土：粘性・締り弱い。少量のローム小ブロックを含む。

## 169号ビット



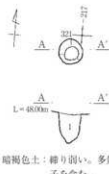
- 1 暗褐色土：粘性・締り弱い。少量のローム小ブロックを含む。

## 170号ビット



- 1 暗褐色土：粘性・締り弱い。少量のローム小ブロックを含む。

## 572号ビット

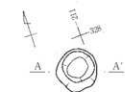


- 1 暗褐色土：締り弱い。多量のローム粒子を含む。



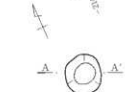
第85図 161～170・572号ビット

573号ビット



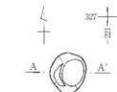
- 1 黒褐色土：少量のローム粒子を含む。
- 2 黒褐色土：多量のローム粒子を含む。

574号ビット



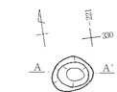
- 1 黒褐色土：少量のローム粒子を含む。
- 2 にぶい黄褐色土：濁ったローム。

575号ビット



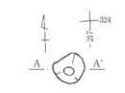
- 1 暗褐色土：少量のローム粒子を含む。
- 2 黒褐色土：少量のローム粒子を含む。

576号ビット



- 1 暗褐色土：少量のローム粒子を含む。
- 2 黒褐色土：微量のローム小ブロックを含む。
- 3 褐色土：多量のローム粒子を含む。

577号ビット



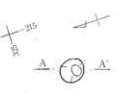
- 1 黒褐色土：少量のローム粒子を含む。

578号ビット



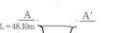
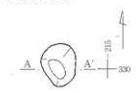
- 1 黒褐色土：少量のローム粒子・ローム小ブロックを含む。

579号ビット



- 1 暗褐色土：多量のローム粒子を含む。
- 2 黒褐色土：少量のローム粒子を含む。

580号ビット



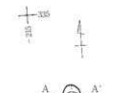
- 1 黒褐色土：少量のローム粒子・ローム小ブロックを含む。

581号ビット



- 1 黒褐色土：多量のローム粒子を含む。
- 2 黒褐色土：少量のローム小ブロックを含む。

582号ビット



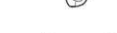
- 1 黒褐色土：少量のローム粒子を含む。
- 2 にぶい黄褐色土：濁ったローム。

583号ビット



- 1 黒褐色土：少量のローム粒子を含む。
- 2 にぶい黄褐色土：濁ったローム。

584号ビット



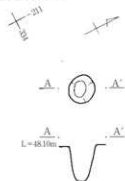
- 1 黒褐色土：少量のローム粒子・ローム小ブロックを含む。



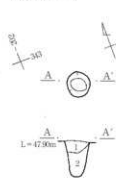
第86図 573～584号ビット



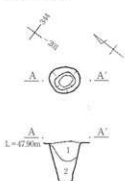
585号ビット



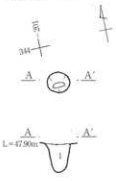
586号ビット



587号ビット

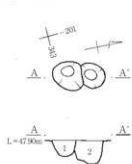


588号ビット



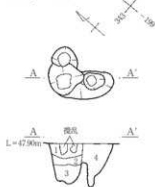
- 1 黒褐色土：少量のローム粒子を含む。  
 2 黒褐色土：多量のローム粒子・ローム小ブロックを含む。
- 1 黒褐色土：少量のローム粒子を含む。  
 2 黒褐色土：少量のローム粒子・ローム小ブロックを含む。
- 1 黒褐色土：多量のローム粒子・ローム小ブロックを含む。

589号ビット



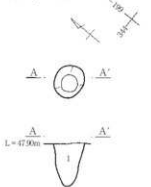
- 1 暗褐色土：多量のローム粒子を含む。  
 2 黒褐色土：少量のローム粒子を含む。

590号ビット



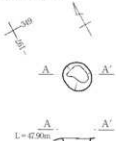
- 1 黒褐色土：少量のローム粒子を含む。  
 2 黒褐色土：多量のローム小ブロックを含む。  
 3 黒褐色土：微量のローム粒子を含む。  
 4 別のビットの覆土

591号ビット



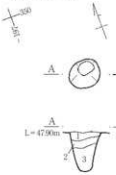
- 1 黒褐色土：少量のローム粒子・ローム小ブロックを含む。

592号ビット



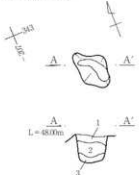
- 1 黒褐色土：少量のローム粒子を含む。

593号ビット



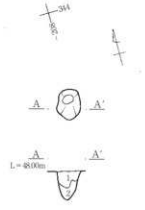
- 1 黒褐色土：多量のローム粒子を含む。  
 2 黒褐色土：微量のローム粒子を含む。  
 3 黒褐色土：ローム粒子を含む。

594号ビット



- 1 褐色土：少量のローム粒子を含む。  
 2 黒褐色土：多量のローム粒子を含む。  
 3 褐色土：多量のローム粒子を含む。

595号ビット



- 1 黒褐色土：粘り弱い。微量のローム粒子を含む。  
 2 黒褐色土：少量のローム小ブロックを含む。



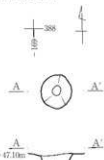
第87図 585～595号ビット

596号ビット



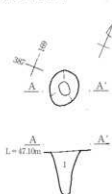
1 黒褐色土：少量のローム粒子を含む。

614号ビット



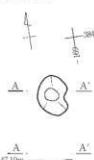
1 褐灰色土：やや粘性あり。微量の砂粒を含む。

615号ビット



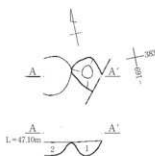
1 褐灰色土：やや粘性あり。微量の砂粒を含む。

616号ビット



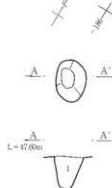
1 褐灰色土：やや粘性あり。ロームブロックと微量の砂粒を含む。

617号ビット



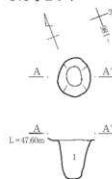
1 褐灰色土：やや粘性あり。微量のローム粒子・砂粒を含む。  
2 別のビット覆土

618号ビット



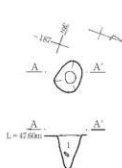
1 褐灰色土：やや多量のロームブロックを含む。

619号ビット



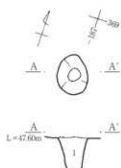
1 褐灰色土：やや多量のロームブロック及び微量の軽石を含む。

620号ビット



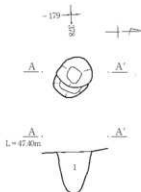
1 褐灰色土：少量のロームブロックを含む。

621号ビット



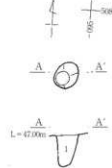
1 褐灰色土：少量のロームブロックを含む。

622号ビット



1 暗褐色土：多量のロームブロック及び微量の軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。

624号ビット

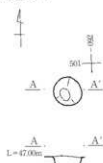


1 黒褐色土：少量のローム粒子を含む。



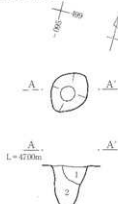
第88図 596・614～622・624号ビット

625号ビット



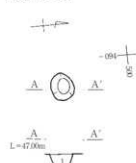
- 1 黒褐色土：少量のローム粒子を含む。

626号ビット



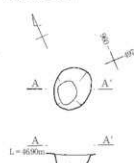
- 1 暗褐色土：少量のローム粒子を含む。  
2 黒褐色土：少量のローム粒子を含む。

627号ビット



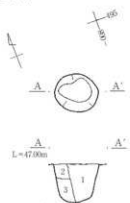
- 1 黒褐色土：少量のローム粒子を含む。

628号ビット



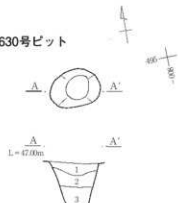
- 1 黒褐色土：少量のローム粒子を含む。

629号ビット



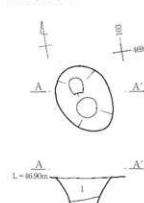
- 1 黒褐色土：微量のローム粒子を含む。  
2 暗褐色土：少量のローム粒子を含む。  
3 黒褐色土：少量のローム粒子を含む。

630号ビット



- 1 黒褐色土：少量のローム粒子を含む。  
2 暗褐色土：少量のロームブロックを含む。  
3 黒褐色土：少量のロームブロックを含む。

631号ビット



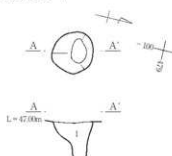
- 1 黒褐色土：少量のローム粒子を含む。  
2 暗褐色土：多量のローム粒子を含む。

632号ビット



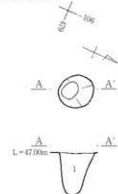
- 1 黒褐色土：微量のローム粒子を含む。  
2 暗褐色土：少量のローム粒子を含む。

633号ビット



- 1 黒褐色土：少量のローム粒子を含む。

634号ビット



- 1 黒褐色土：少量のローム粒子を含む。



第89図 625～634号ビット

635号ビット



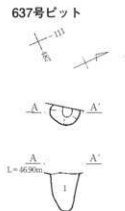
- 1 黒褐色土：微量のローム粒子を含む。
- 2 暗褐色土：多量のローム粒子を含む。

636号ビット



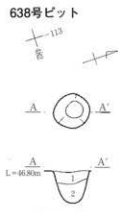
- 1 黒褐色土：少量のローム粒子を含む。

637号ビット



- 1 黒褐色土：少量のロームブロックを含む。

638号ビット



- 1 灰褐色土：多量のローム粒子を含む。
- 2 黒褐色土：少量のローム粒子を含む。

639号ビット



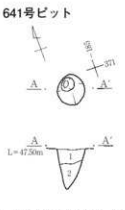
- 1 黒褐色土：少量のローム粒子を含む。

640号ビット



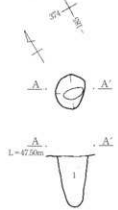
- 1 黒褐色土：微量のローム粒子・ロームブロックを含む。
- 2 黒褐色土：多量のロームブロックを含む。

641号ビット



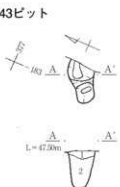
- 1 黒褐色土：多量のローム粒子を含む。
- 2 黒褐色土：微量のローム粒子を含む。

642号ビット



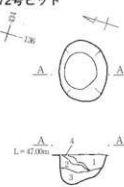
- 1 黄褐色土：多量のローム粒子及び少量の黒褐色土粒子を含む。

643ビット



- 1 黒褐色土：少量のローム粒子を含む。
- 2 黒褐色土：微量のローム粒子を含む。

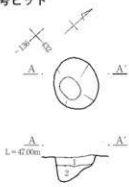
672号ビット



- 1 灰褐色土：シルト質、少量のローム粒子を含む。
- 2 褐灰色土：少量のローム粒子を含む。
- 3 灰黄褐色土：やや多量のロームブロックを含む。
- 4 擾乱：木の根。

0 1:40 1 m

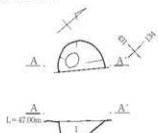
673号ビット



- 1 灰褐色土：多量のローム粒子及び少量の軽石を含む。
- 2 褐灰色土：やや多量のローム粒子及び微量の軽石を含む。

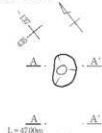
第90図 635~643・672・673号ビット

674号ビット



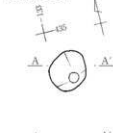
- 1 灰褐色土：やや多量のロームブロック及び微量の軽石を含む。
- 2 灰黄褐色土：ロームブロック主体。

675号ビット



- 1 灰褐色土：少量のローム粒子・軽石を含む。
- 2 灰褐色土：少量のロームブロックを含む。

676号ビット



- 1 褐灰色土：少量のローム粒子を含む。
- 2 灰黄褐色土：多量のロームブロックを含む。

677号ビット



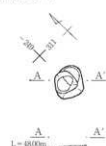
- 1 黒褐色土：締り弱い。少量の炭化物・軽石を含む。
- 2 褐灰色土：締り弱い。少量のロームブロックを含む。

678号ビット



- 1 暗褐色土：少量のローム粒子を含む。
- 2 黒褐色土：少量のローム粒子・ローム小ブロックを含む。
- 3 黒褐色土：多量のローム粒子・ローム小ブロックを含む。

679号ビット



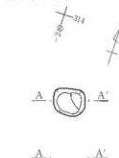
- 1 黒褐色土：多量のローム粒子を含む。
- 2 黄褐色土：ローム小ブロック主体。多量のローム粒子を含む。
- 3 黒褐色土：微量のローム粒子を含む。

680号ビット



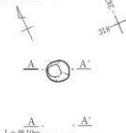
- 1 黒褐色土：軽石(Aa-B)及び微量のローム粒子を含む。

681号ビット



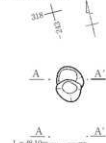
- 1 暗褐色土：少量のローム粒子及び微量の炭化物を含む。
- 2 黒褐色土：軽石(Aa-B)及び微量のローム粒子・ロームブロックを含む。

682号ビット



- 1 暗褐色土：微量のローム粒子を含む。
- 2 黄褐色土：ローム粒子・ロームブロック主体。

683号ビット



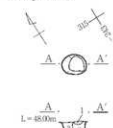
683号ビット

- 1 暗褐色土：少量のローム粒子を含む。
- 2 黒褐色土：少量のローム粒子・ロームブロックを含む。
- 3 黄褐色土：ロームブロック主体。少量のローム粒子を含む。

684号ビット

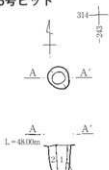
- 1 暗褐色土：少量のローム粒子を含む。
- 2 黒褐色土：少量のローム粒子・ロームブロックを含む。
- 3 黄褐色土：ロームブロック主体。少量のローム粒子を含む。

684号ビット



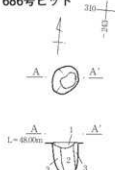
第91図 674～684号ビット

685号ビット



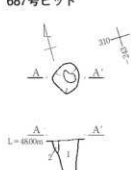
- 1 黒褐色土：少量のローム粒子を含む。
- 2 黒褐色土：少量のローム粒子を含む。

686号ビット



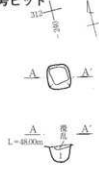
- 1 黒褐色土：少量のローム粒子を含む。
- 2 黒褐色土：少量のローム粒子・ロームブロックを含む。
- 3 黒褐色土：少量のローム粒子・ロームブロックを含む。

687号ビット



- 1 黒褐色土：少量のローム粒子を含む。
- 2 黄褐色土：ローム粒子・ロームブロック主体。

688号ビット



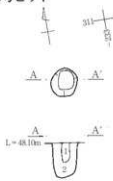
- 1 褐色土：濁ったローム。少量のロームブロックを含む。

689号ビット



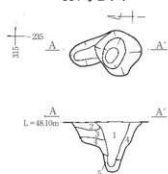
- 1 褐色土：少量のローム粒子を含む。
- 2 黒褐色土：少量のローム粒子・ロームブロックを含む。
- 3 褐色土：少量のローム粒子・ロームブロックを含む。

690号ビット



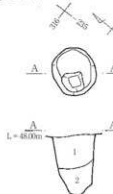
- 1 黒褐色土：少量のローム粒子を含む。
- 2 黄褐色土：ローム粒子・ロームブロック主体。

691号ビット



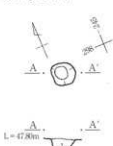
- 1 暗褐色土：少量のローム粒子・ロームブロックを含む。
- 2 褐色土：少量のローム粒子を含む。
- 3 黄褐色土：少量のロームブロックを含む。
- 4 暗褐色土：少量のローム粒子・ロームブロックを含む。
- 5 暗褐色土：少量のローム粒子を含む。

692号ビット



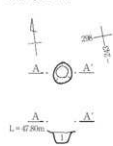
- 1 暗褐色土：少量のローム粒子を含む。
- 2 暗褐色土：締りあり。少量のローム粒子を含む。

693号ビット



- 1 黒褐色土：軽石(As-B)及び少量のローム粒子を含む。

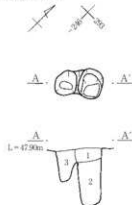
694号ビット



- 1 黒褐色土：(As-B)及び少量のローム粒子を含む。

0 1:40 1m

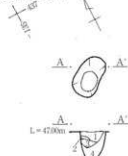
695号ビット



- 1 暗褐色土：少量のローム粒子を含む。
- 2 暗褐色土：締りあり。少量のローム粒子を含む。
- 3 黒褐色土：少量のローム粒子・ロームブロックを含む。

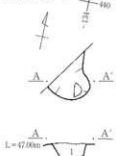
第92図 685～695号ビット

699号ビット



- 1 黒褐色土：やや多量の灰及び少量の軽石を含む。
- 2 灰層
- 3 灰褐色土：少量の軽石を含む。
- 4 黄褐色土：ローム粒子を含む。

700号ビット



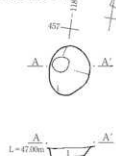
- 1 暗褐色土：少量の灰・軽石を含む。
- 2 灰黄色土：やや多量のロームを含む。

701号ビット



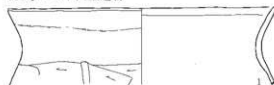
- 1 褐灰色土：少量の灰・軽石を含む。

702号ビット

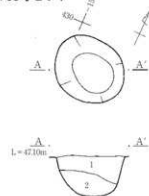


- 1 黒褐色土：微量の軽石(A・B)・ロームブロックを含む。
- 2 灰色土：砂主体。洪水土。

701号ビット出土遺物

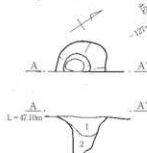


703号ビット



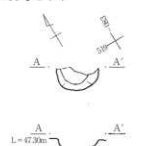
- 1 暗褐色土：微量の炭化物・軽石を含む。
- 2 灰褐色土：少量のローム粒子を含む。

704号ビット

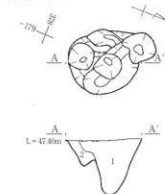


- 1 黒褐色土：少量のローム粒子・軽石を含む。
- 2 黒褐色土：やや多量のロームブロックを含む。

769号ビット

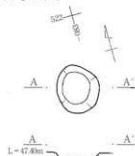


768号ビット

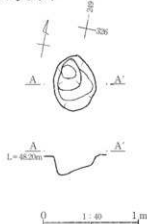


- 1 褐灰色土：やや多量のロームブロックを含む。
- 2 別のビット覆土。

770号ビット

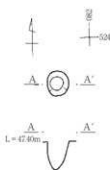


771号ビット

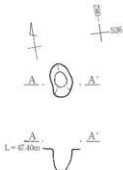


第93図 699~704・768~711号ビット、701号ビット出土遺物

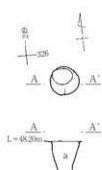
772号ビット



773号ビット



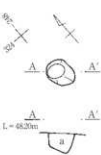
774号ビット



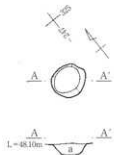
775号ビット



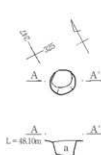
776号ビット



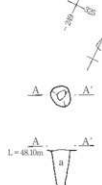
777号ビット



778号ビット



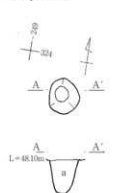
779号ビット



780号ビット



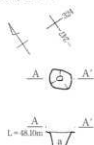
781号ビット



782号ビット



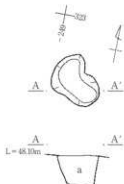
783号ビット



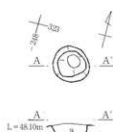
784号ビット



785号ビット



786号ビット



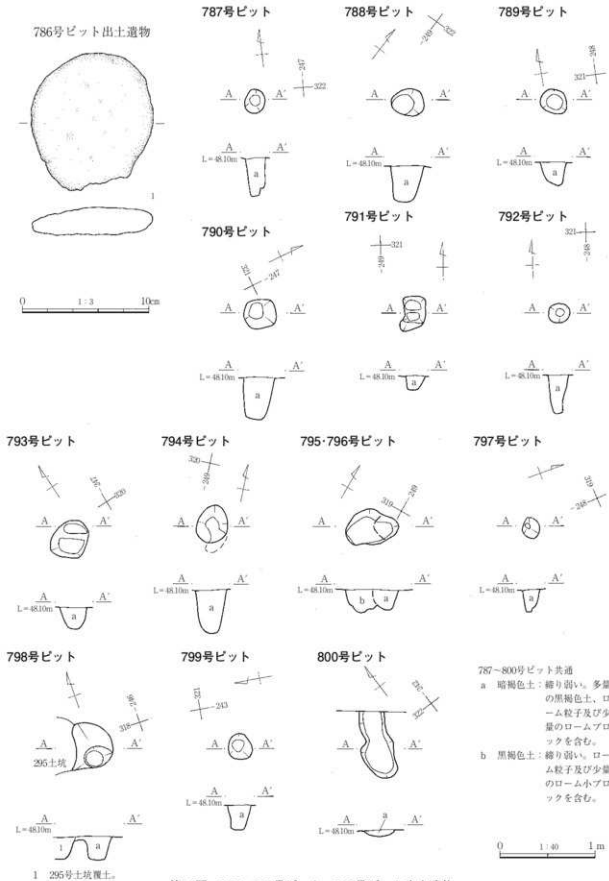
774～786号ビット共通

a 暗褐色土：粘り強い、多量の黒褐色土、ローム粒子及び少量のロームブロックを含む。



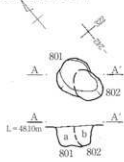
第94図 772～786号ビット



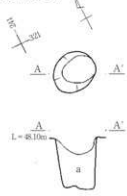


第95図 787～800号ビット、786号ビット出土遺物

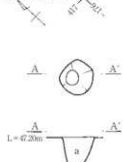
801・802号ビット



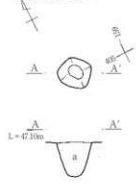
803号ビット



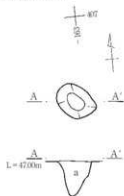
804号ビット



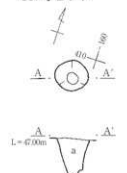
805号ビット



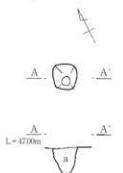
806号ビット



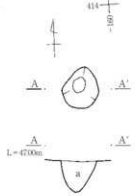
807号ビット



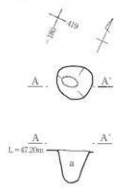
808号ビット



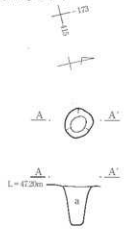
809号ビット



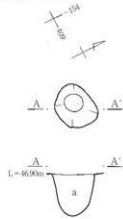
810号ビット



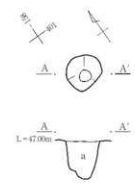
811号ビット



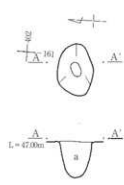
812号ビット



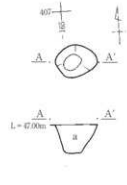
813号ビット



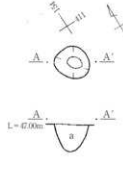
814号ビット



815号ビット



816号ビット



801～816号ビット共通

- a 暗褐色土：締り弱い。多量の黒褐色土、ローム粒子及び少量のロームブロックを含む。
- b 黒褐色土：締り弱い。ローム粒子及び少量のロームブロックを含む。



第96図 801～816号ビット

## 第8節 土器集中部

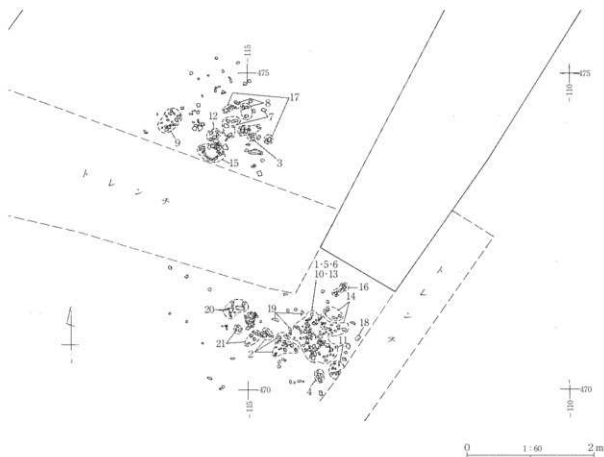
11区北端部付近で土器片が集中して出土する場所があった。周辺部を精査したところ掘り込みなどが見つからず、遺構に伴ったものではないため、土器集中部として報告する。

土器片散布範囲のちょうど中央にあたる部分は、事前のトレンチ調査のために大きく破壊してしまったが、残存部分から見て、その範囲は長さ6m、幅3mの楕円形となるようである。この範囲内に多くの土器片が散布していた。

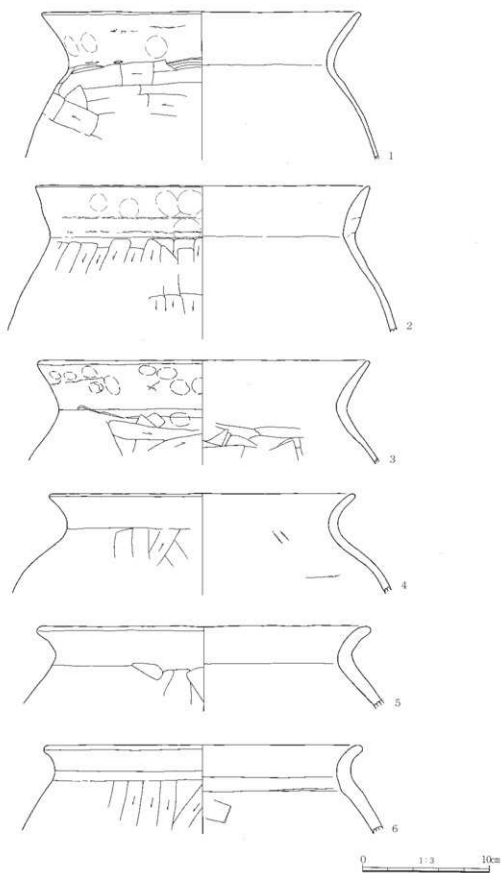
土器片はほぼすべてが土師器甕の破片であり、そのほかの土器はきわめて少ない。須恵器蓋の破片は1点あるが、坏は土師器・須恵器共に見られない。このため図示した遺物は全て土師器甕である。全て

口縁部の破片であるが、これは出土傾向を反映したもので、実際に底部の破片はごく少ない。つまり、この範囲には土師器の甕、しかもその多くは底部を欠いた上半部の土器が集中して分布しているのである。残念ながらその意味は不明であるが、もともとそのような土器が選別されてここに置かれていたと考えられるほかに、倒立されて置かれた甕が、埋没後の耕作等の攪乱により底部のみ打ち欠かれて表土に混じり込んでしまったことも考えられよう。

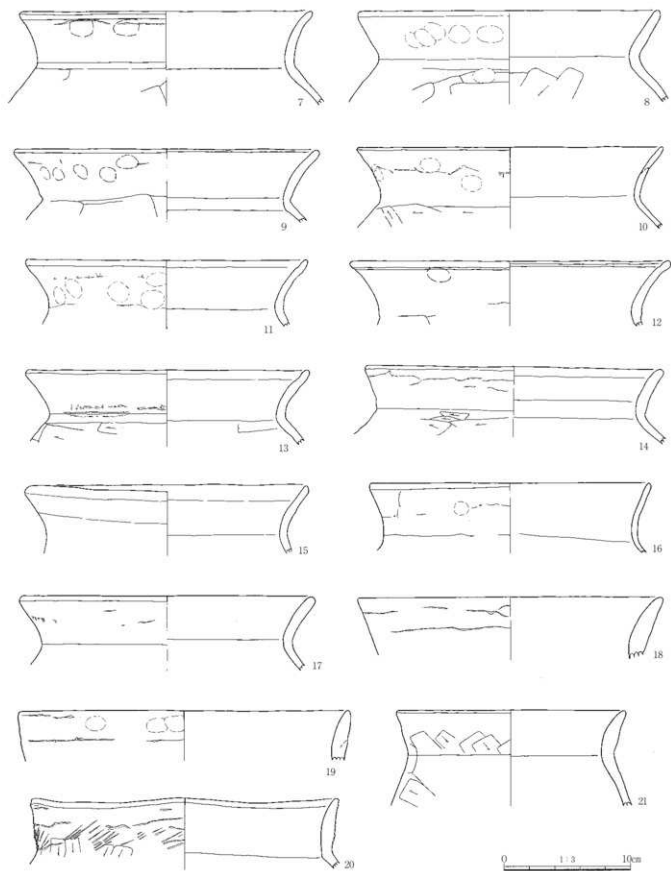
出土した甕には口縁部の形態にいくつかのバリエーションが認められるが、いずれも8世紀前半頃のものである。同時期の住居は近傍に多く、それらとの関連が考えられる。



第97図 11区土器集中部



第98図 土器集中部出土遺物(1)



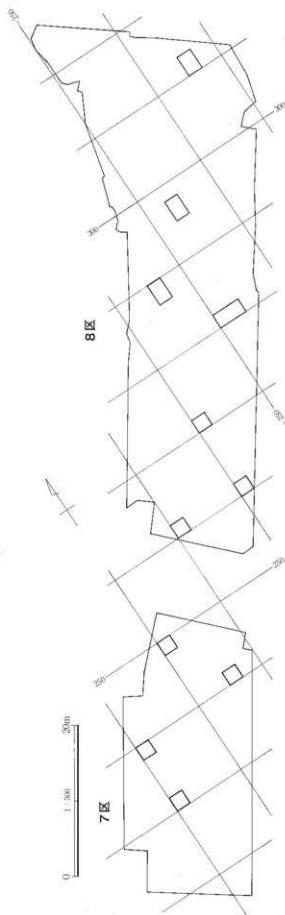
第99図 土器集中部出土遺物(2)

### 第9節 旧石器時代の確認調査

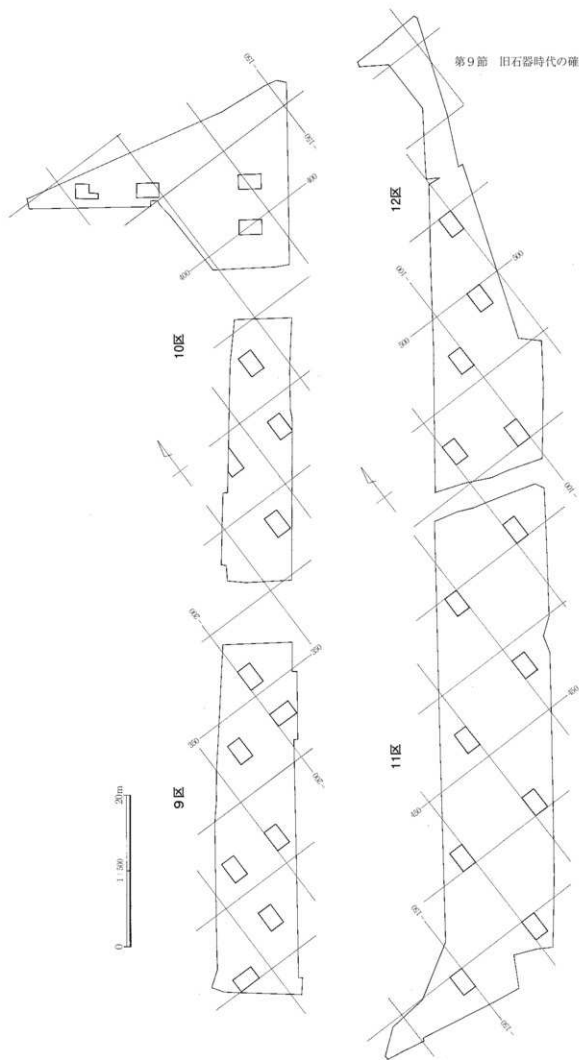
向矢部遺跡の調査範囲全域では、層厚は薄いもののロームが残っていたため、古代の遺構の調査が終了後に旧石器時代の確認調査を行ったが、遺物は全く出土しなかった。

本遺跡の基盤層は渡良瀬川による砂礫層であり、ローム層はその上に薄くのっている状態である。ローム層の厚さは、ごく厚いところでは1.0mあるが、薄いところでは15cm程度しかない。平均して50～60cm程度のところが多いようである。厚いところでも暗色帯は見られない。

確認のためのトレンチの配置は第100図・第101図に見るとおりである。調査区によって適宜2m×2m、2m×3m、2m×4mの大きさのものを設定し、礫層の上面が現れるまで掘り下げて調査を行った。設定したトレンチの数は、7区で4カ所、8区で7カ所、9区で7カ所、10区で8カ所、11区で8カ所、12区で5カ所で、概ね均等な配置となるように設置したが、上面に深い遺構（溝など）があるところではトレンチの間隔をややあけた場合がある。以上のように確認トレンチを設定し、遺物が出土した場合は周囲に拡張して調査を行う方針であったが、上述のように全てのトレンチで遺物が出土しなかったため、それ以上の調査は行っていない。



第100図 旧石器確認トレンチ配置図 7・8区

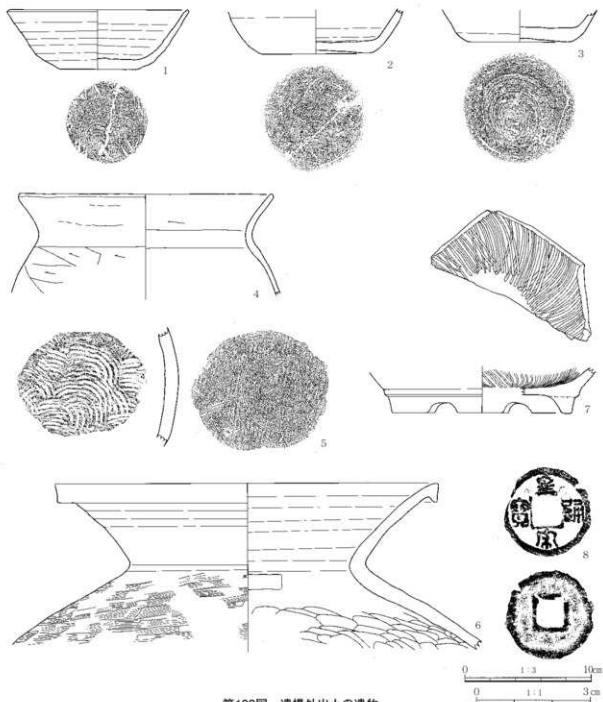


第101図 旧石器確認トレンチ配置図 9~12区

第10節 遺構外出土の遺物

本節では表土などから出土した遺物のうち、残存度が比較的良好なものを一括し「遺構外出土の遺物」として報告する。1～6は古代の遺物で、1～3は須恵器坏、4は土師器甕、5は須恵器瓶、6は須恵器甕である。いずれも周辺の堅穴住居のものである。

う。7・8は中・近世のもので、7は焼締陶器・播磨鉢の底部の小破片である。播磨鉢は9本一組で、櫛状の工具で付けられている。8は北宋銭「皇宋通宝」であり、文字は篆書である。



第102図 遺構外出土の遺物

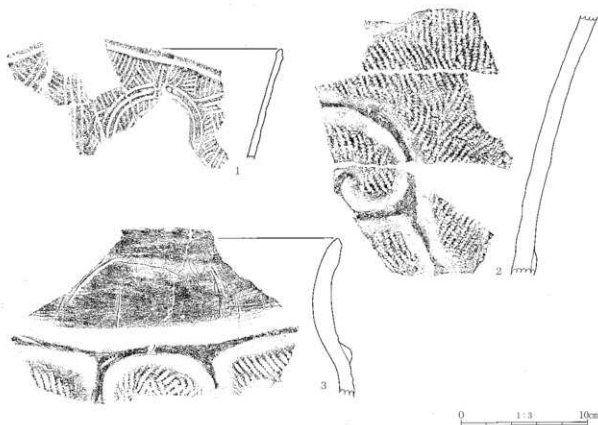


## 第11節 東今泉鹿島遺跡の縄文時代の遺物

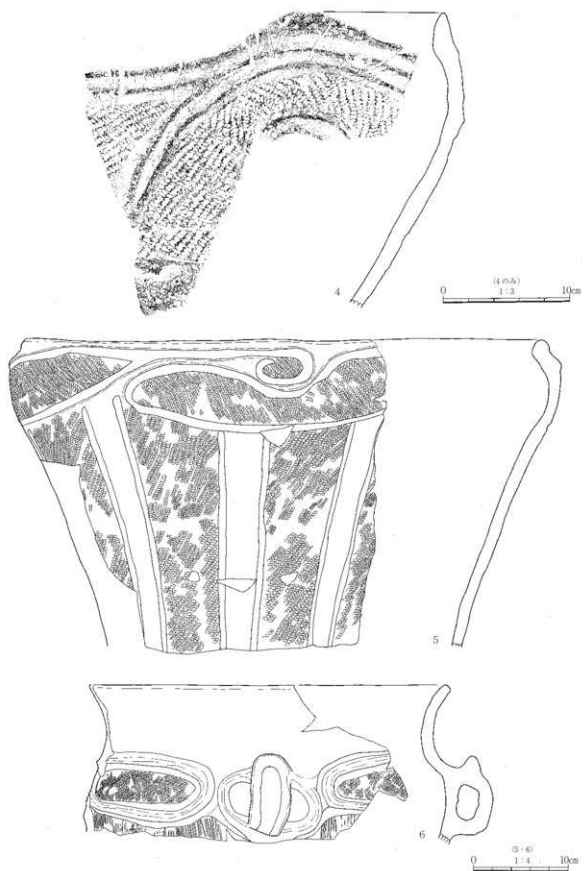
本節では東今泉鹿島遺跡から出土した縄文時代の遺物を取り上げる。東今泉鹿島遺跡の調査成果については既に第1集で報告したところであるが、その整理作業がほぼ終了した段階で、「向矢部遺跡出土」と分類していた遺物の中に東今泉鹿島遺跡から出土した遺物が少なからず混入していることが判明した。しかし、判明した段階では既に第1集の報告書が印刷中であったので、それに掲載することはできなかった。そのため今回本書で取り上げることにしたものである。

以下に掲載するのは縄文土器18点、打製石斧4点、石鏃2点、剥片1点、磨石・叩石3点、凹石1点である。出土地点は、3～5区、18区の縄文包含層と、17区の低地であり、遺構に伴うものはない。遺物の出土傾向は第1集の第2章第9節で述べられている

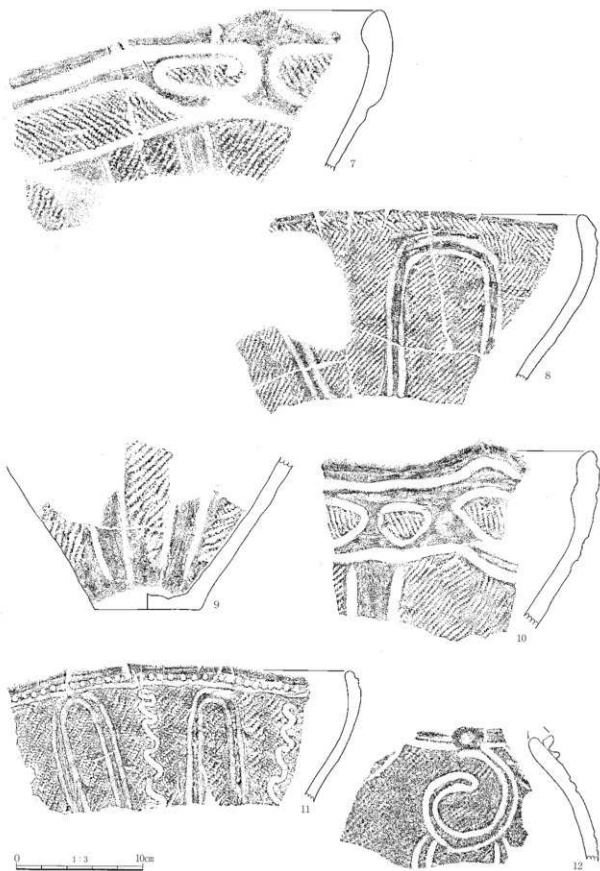
通りで、そこでは、「中期末葉加曾利E3～E4式がほとんどであり、さらに後期前半称名寺式、堀之内式を含めると出土量全体の9割以上を占める」とした。今回報告する資料を見ても、その記述を大きく変更する必要は認められないが、17区で出土した縄ヶ島台式(15)は注目される資料である。出土したのは1個体だけで、比較的多くの破片数があったが、残念ながら残存状態はよくなく、かろうじて外形を把握することができる程度であった。



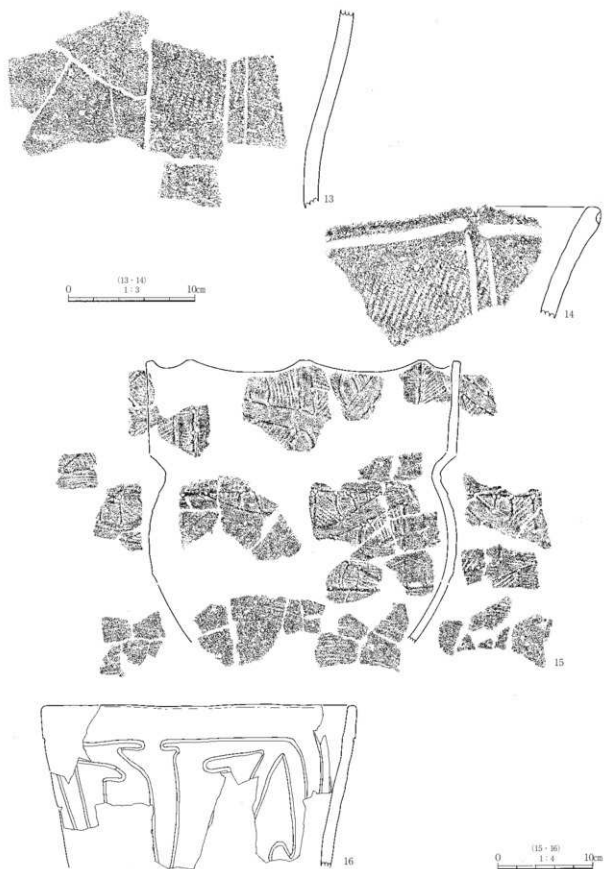
第103図 東今泉鹿島遺跡出土遺物(1)



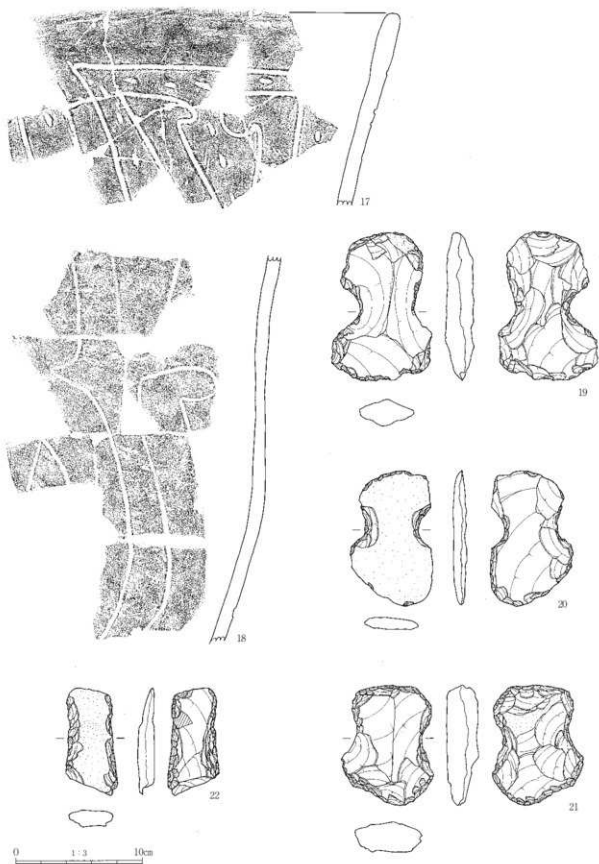
第104図 東今泉鹿島遺跡出土遺物(2)



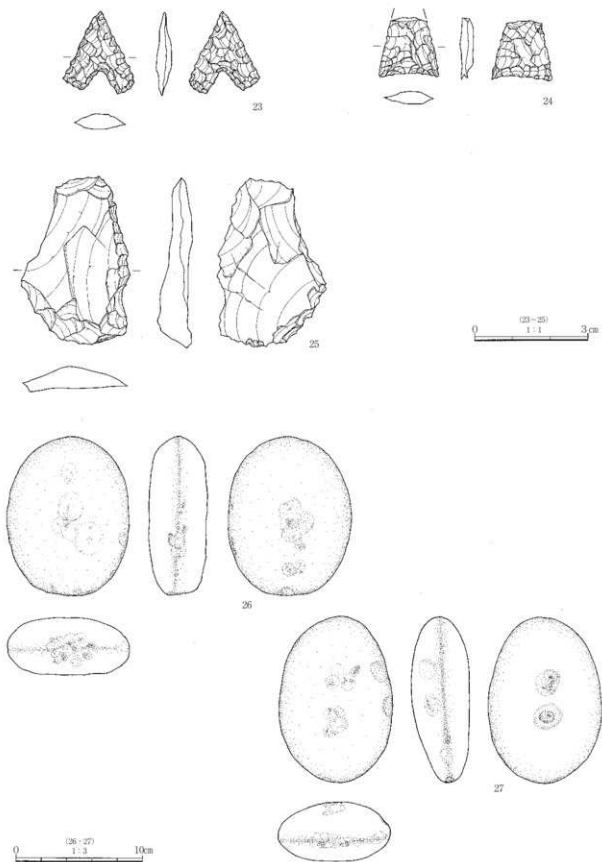
第105図 東今泉鹿島遺跡出土遺物(3)



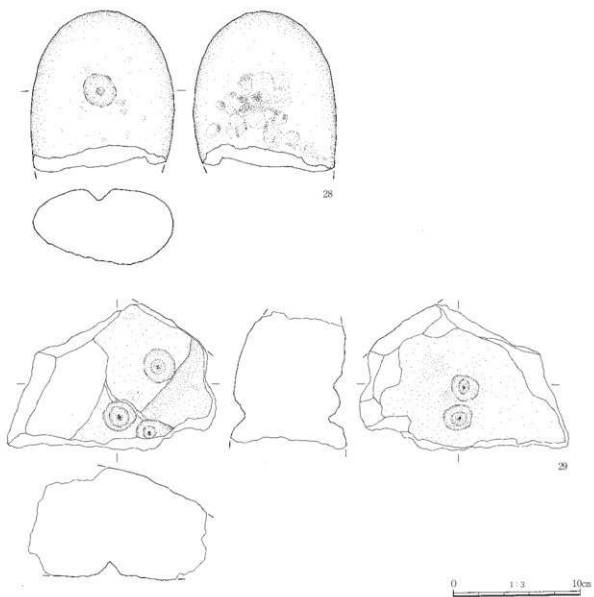
第106図 東今泉鹿島遺跡出土遺物(4)



第107図 東今泉鹿島遺跡出土遺物(5)



第108図 東今泉鹿島遺跡出土遺物(6)



第109図 東今泉鹿島遺跡出土遺物(7)

第3章 調査の成果

遺物観察表

92号住居

遺物番号	種別・器種	出土位置	計測値(mm)・遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他
1 第8区 PL-31	須恵器 杯	中央床面・ 甕	高(31) 口(148) 底- 口縁部1/4	砂粒・白色粒子含む 還元 黄灰 (25Y6/1)	轆轤成形。内外面とも回転撫で。
2 第8区 PL-31	須恵器 高台付甕	覆土	高(14) 口- 底(89) 底部小破片	細砂粒含む 還元 灰白 (25Y8/1)	轆轤成形。外・体部回転撫で。底部回転撫でり後高台貼り付け。内：底部回転撫で。
3 第8区	須恵器 蓋	南壁際覆土	高(13) 口- 挿径34 挿のみ遺存	砂粒・小石・白色粒子含む 還元 灰白 (25Y7/1)	轆轤成形。内外面とも回転撫で。
4 第8区 PL-31	土師器 甕	甕	高(95) 口(216) 底- 口縁部-胴部上半1/5	砂粒・赤色粒子含む 酸化 にぶい赤褐 (5YR5/4)	外：口縁部横撫で、指頭痕残る。胴部蹴削り。 内：口縁部-胴部横撫で。
5 第8区 PL-31	土師器 甕	甕	高(35) 口(197) 底- 口縁部1/4	砂粒含む 酸化 明赤褐 (5YR5/6)	口縁部内外面とも横撫で。

93号住居

遺物番号	種別・器種	出土位置	計測値(mm)・遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他
1 第10区 PL-31	土師器 杯	覆土	高(32) 口(120) 底- 口縁部-底部上半1/4	砂・白色炭物含む 酸化 にぶい黄橙 (10YR7/3)	丸底。外：口縁部横撫で、体部-底部上半蹴削り。 内：口縁部横撫で、体部-底部上半撫で。
2 第10区	土師器 杯	覆土	高(25) 口(110) 口縁部-体部小破片	砂粒含む 酸化 にぶい黄橙 (10YR7/4)	丸底。外：口縁部横撫で。体部蹴削り。内：口縁部-体部横撫で。底部撫で。
3 第10区 PL-31	須恵器 杯	甕左袖・ 甕・覆土	高35 口(128) 底87 口縁部-体部1/2-底部 定形	砂粒含む 還元 灰青 (25Y7/2)	轆轤成形。外：口縁部-体部回転撫で。底部回転 糸切り後外周蹴削り。内：口縁部-体部回転撫で。
4 第10区 PL-31	須恵器 蓋	覆土	高39 口(127) 口縁部-天井部1/2	砂粒・白色粒子含む 還元 黄灰 (25Y6/1)	轆轤成形。外：口縁部-体部回転撫で。天井部蹴 削り。内：口縁部-天井部回転撫で。
5 第10区	須恵器 蓋	覆土	高36 口- 天井部-口縁部小破片	砂粒含む 還元 灰白 (10YR8/1)	轆轤成形。外：口縁部-天井部下端回転撫で。天 井部蹴削り。内：口縁部-天井部回転撫で。
6 第10区	須恵器 長頸瓶	甕	高(47) 口- 底- 頸部小破片	砂粒・白色粒子含む 還元 灰 (N5/0)	轆轤成形か。外：回転撫での後粗い縦撫で。内： 回転撫で。

96号住居

遺物番号	種別・器種	出土位置	計測値(mm)・遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他
1 第12区 PL-31	土師器 杯	覆土	高38 口(122) 口縁部1/3欠	砂粒含む 酸化 褐灰 (10YR4/1)	丸底。外：口縁部横撫で。底部蹴削り。内：口縁 部-底部横撫で。黒色処理。
2 第12区 PL-31	土師器 杯	南壁際床面 ・覆土	高37 口123 口縁部-底部3/4	砂粒含む 酸化 黄灰 (25Y4/1)	丸底。外：口縁部横撫で。底部蹴削り。内：口縁 部-底部横撫で。粗い放射状暗文。
3 第12区	須恵器 甕	覆土	高(50) 口(238) 底- 口縁部小破片	砂粒含む 還元 灰青 (25Y7/2)	轆轤成形。外：口縁部回転撫で。下半に粗い波状 文。内：口縁部回転撫で。
4 第12区 PL-31	須恵器 甕	床面	高(90) 口- 底90 底部-胴部下半1/4	砂粒含む 酸化 にぶい橙 (5YR6/4)	外：胴部-底部蹴削り。内：胴部-底部横撫で。
5 第12区 PL-31	土師器 瓶	南壁際床面	高(100) 口- 底(119) 胴部下端1/4	砂粒含む 酸化 橙 (7.5YR6/6)	外：胴部蹴削り。内：縦撫で。

107号住居

遺物番号	種別・器種	出土位置	計測値(mm)・遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他
1 第14区	土師器 杯	東壁際床面 ・覆土	高(28) 口(118) 口縁部-底部小破片	砂粒含む 酸化 褐灰 (7.5YR4/1)	丸底。外：口縁部横撫で。底部蹴削り。内：口縁 部-底部横撫で。粗い放射状暗文。
2 第14区	土師器 杯	東壁際床面	高(38) 口(136) 口縁部小破片	細砂粒含む 酸化 黒褐 (10YR3/1)	丸底か。外：口縁部横撫で。内：口縁部横撫で。



## 107号住居(続き)

遺物番号	種別・器種	出土位置	計測値(mm)・遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他
3 第148 PL-31	土師器 甕	南壁階覆土	高(25) 口- 底100 底部付置1/4	砂粒多い 酸化 橙(5YR6/6)	外:胴部~底部施削り。大きな黒斑。内:撫で。

## 108号住居

遺物番号	種別・器種	出土位置	計測値(mm)・遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他
1 第168 PL-31	須恵器 坏	竈	高(50) 口- 底100 底部~底部1/2	細砂粒含む 還元 橙(5YR6/6) 内面黒陶(10YR2/1)	轆轤成形。外:体部やや粗い磨き。底部施削り。内:体部~底部やや粗い磨き。黒色処理。
2 第178 PL-31	土師器 甕	竈	高(237) 口210 底- 底部欠	砂粒含む 酸化 橙(5YR6/6)	外:口縁部横撫で。胴部上半横、下半斜め施削り。内:口縁部横撫で。胴部横撫で。口縁部内外面に指頭痕、胴部内面に輪積み痕が残る。
3 第178 PL-31	土師器 甕	竈	高(245) 口209 底- 底部欠	砂粒含む 酸化 橙(2.5YR6/6)	外:口縁部横撫で。胴部上半斜め、下半縦施削り。内:口縁部横撫で。胴部横方向施削り。口縁部内外面に指頭痕が残る。
4 第178 PL-32	土師器 甕	竈	高(176) 口(208) 底- 口縁部~胴部上半1/4	砂粒含む 酸化 赤褐(5YR4/6)	薄い作り。外:口縁部横撫で。胴部斜め、上端は横施削り。内:口縁部~体部横撫で。
5 第178 PL-32	土師器 甕	竈	高(82) 口(237) 底- 口縁部1/4	砂粒含む 酸化 にぶい黄橙(10YR6/4)	外:口縁部横撫で。指頭痕が残る。胴部横施削り。外:口縁部~胴部横撫で。

## 109号住居

遺物番号	種別・器種	出土位置	計測値(mm)・遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他
1 第198 PL-32	須恵器 坏	覆土	高(14) 口- 底(79) 底部1/2	砂粒・小石含む やや酸化 灰黄(2.5Y7/2)	外:体部下端~底部回転施削り。内:底部回転撫で。
2 第198 PL-32	土師器 甕	南西隅床面 ・竈	高(87) 口(214) 底- 口縁部1/2	砂粒含む 酸化 明赤褐(5YR5/6)	外:口縁部横撫で。胴部横施削り。口縁部に指頭痕が多数残る。内:口縁部~胴部横撫で。肩部に指頭痕が残る。
3 第198 PL-32	土師器 甕	南西隅床面 ・竈	高(137) 口- 底45 胴部下半~底部破片	砂粒含む 酸化 にぶい赤褐(5YR4/3)	外:胴部縦施削り。底部施削り。内:胴部~底部横撫で。
4 第198 PL-32	土師器 甕	竈	高(107) 口- 底38 胴部下半~底部破片	砂粒含む 酸化 にぶい褐(7.5YR6/3)	外:胴部縦施削り。底部施削り。内:胴部~底部横撫で。
5 第198 PL-32	土師器 甕	南西隅床面 ・竈	高(180) 口- 底- 胴部破片	砂粒含む 酸化 にぶい橙(7.5YR6/4)	外:胴部上半斜め、下半縦施削り。煤・炭化物付着。内:胴部横撫で。
6 第208 PL-32	土師器 台付甕	竈	高178 口124 底94 胴部一部欠	砂粒含む 酸化 にぶい赤褐(5YR5/4)	台部は貼り付け。外:口縁部横撫で。胴部斜め施削り。台部横撫で。内:口縁部~底部横撫で。台部横撫で。
7 第208 PL-32	鉄製品 刀子	覆土	長さ193 幅13 厚さ3 ほぼ定形 先端ごく一 部欠		目釘孔。
8 第208 PL-32	鉄製品	覆土	長さ(50) 幅(24) 厚さ(4) 小破片か		用途不明鉄製品。ごく一部の破片か。

## 111号住居

遺物番号	種別・器種	出土位置	計測値(mm)・遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他
1 第238 PL-32	須恵器 坏	竈	高38 口128 底92 定形	砂・白色鉱物含む 還元 灰白	轆轤成形。左回転。底部回転施削り。外:口縁部~胴部回転撫で。底部回転施削り。内:口縁部~底部回転撫で。
2 第238 PL-32	土師器 甕	貯蔵穴床面	高140 口110 口縁部一部欠	砂・白色鉱物含む 酸化 にぶい黄橙(10YR7/2)	底部丸底。外:口縁部横撫で。胴部~底部施削り。内:口縁部~胴部横撫で。肩部施削り。
3 第238 PL-32	土師器 台坏	貯蔵穴埋土 上	高(128) 口1123 最大径142 台部欠	砂・白色鉱物含む 酸化 にぶい橙(5YR6/3)	外:口縁部横撫で。胴部~台部斜め・縦施削り。内:口縁部~胴部横撫で。
4 第238 PL-33	土師器 鉢	竈	高(136) 口(305) 底- 口縁部~体部1/2	粗砂粒多い 酸化 明赤褐(5YR5/6)	外:口縁部~体部横撫で。内:口縁部~体部横撫で。

### 第3章 調査の成果

#### 112号住居

遺物番号	種類・器種	出土位置	計測値(mm)・遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴
1 第27区 PL-33	土師器 坏	北西部床面	高38 □132 底- 完形	砂・白色紙物・雲母含む 酸化 橙 (5YR6/6)	丸底。外：口縁部横撫で、底部-底部削り。 内：口縁部横撫で、底部-底部横撫で、底部一部削 頭。
2 第27区 PL-33	土師器 坏	覆土	高(27) □(129) 口縁部1/4	砂・小石含む 酸化 灰白赤褐 (5YR5/6)	表面摩滅のため調整不明瞭。外：口縁部横撫で。 底部削り。内：横撫で。
3 第27区 PL-33	土師器 坏	覆土	高(32) □(128) 口縁部1/4	砂粒含む 酸化 にふい赤褐 (5YR5/4)	外：口縁部横撫で。底部横撫で。内：口縁部- 底部横撫で。
4 第27区 PL-33	土師器 坏	覆土	高(26) □(117) 口縁部1/4	砂粒含む 酸化 にふい赤褐 (5YR5/4)	外：口縁部横撫で。底部削り。内：口縁部- 底部横撫で。
5 第27区 PL-33	土師器 坏	南壁際床面 ・覆土	高(30) □(163) 口縁部1/5	砂粒含む 酸化 橙 (5YR6/6)	外：口縁部横撫で。底部削り。内：横撫で。
6 第27区 PL-33	須恵器 坏	甕前床面	高34 □(130) 底(80) 口縁部-底部2/5	砂・小石・白色紙物含む 還元 灰 (10Y6/1)	輪襷整形、左回転。外：口縁部-底部回転撫で、 底部回転削り。内：口縁部-底部回転撫で。
7 第27区 PL-33	須恵器 坏	覆土	高(32) □(148) 底(90) 口縁部-底部1/3	砂・小石含む 還元 灰白 (2.5Y8/1)	輪襷整形、左回転。外：口縁部-底部回転撫で、 底部回転削り。外周同回転削り。内：口縁部- 底部回転撫で。内外面口縁部油煙付着。
8 第27区	須恵器 坏	覆土	高(32) □(138) 底- 口縁部-底部小破片	砂粒多い 還元 灰黄 (2.5Y6/2)	輪襷成形。内外面とも回転撫で。
9 第27区 PL-33	土師器 蓋	覆土	高(16) □(178) 柄- 小破片	砂・赤色粒子含む 酸化 橙 (7.5YR7/6)	輪襷成形。内外面とも回転撫で。カネリは貼り付 け。
10 第27区 PL-33	須恵器 蓋	南内溝埋土 上	高34 □169 柄53 完形	砂・小石・白色紙物含む 還元 灰白 (2.5Y7/1)	輪襷整形、右回転。柄部貼付。外：天井部上半 回転削り。天井部下半-口縁部回転撫で。内：天 井部-口縁部回転撫で。外面一部油煙付着。
11 第27区 PL-33	須恵器 蓋	甕前覆土	高27 □162 柄42 ほぼ完形	砂・小石・白色紙物含む 還元 灰白(2.5Y7/1) 外面黒褐(2.5Y3/1)	輪襷整形、左回転。柄部貼付。外：天井部上半 回転削り。天井部下半-口縁部回転撫で。内：天 井部-口縁部回転撫で。外面焼し。
12 第27区 PL-33	須恵器 蓋	甕前床面	高29 □158 柄40 口縁部1.5欠	砂・小石・白色紙物含む 還元 灰白(2.5Y7/1) 外面黒褐(2.5Y3/1)	輪襷整形、左回転。柄部貼付。外：天井部上半 回転削り。天井部下半-口縁部回転撫で。内：天 井部-口縁部回転撫で。外面焼し。
13 第27区	須恵器 蓋	覆土	高(16) □(163) 柄- 小破片	砂・黒色紙物含む 還元 灰白 (2.5Y7/1)	輪襷成形。外：天井部上半回転削り。天井部下 半-口縁部回転撫で。内：回転撫で。
14 第27区 PL-33	土師器 甕	甕	高(190) □(233) 底- 口縁部-底部上半1/4	砂粒多い 酸化 にふい黄橙 (10YR6/4)	外：口縁部横撫で、甕先端の押痕・指頭痕列。 胴部削め削り。内：口縁部-胴部横撫で。胴部 に指痕が残る。
15 土師器 第27区 PL-34	甕	南壁際床面 ・南内溝埋 土上	高(78) □(230) 底- 口縁部1/2	砂粒含む 酸化 橙 (5YR6/6)	外：口縁部横撫で。胴部削り。内：口縁部横撫 で。胴部横撫で。
16 第27区 PL-34	土師器 甕	甕	高(38) □(217) 底- 口縁部小破片	砂粒・雲母含む 酸化 明赤褐 (2.5YR5/6)	外：口縁部横撫で。胴部削り。内：口縁部横 撫で。
17 第27区 PL-34	土師器 甕	甕前方	高(48) □1- 底(50) 底部付近小破片	砂粒含む 酸化 にふい橙 (5YR6/4)	外：胴部下端-底部削り。内：撫で。
18 第28区 PL-33	須恵器 平皿	貯炭穴埋土 上・113往 覆土	高184 □(136) 底205 最大径291 口縁部3/4-底部一部欠	細砂粒含む 還元 灰 (N6/0)	輪襷成形。外：底部下端-底部削り。上面に薄 く自然。胴部に波状文。内：胴部回転撫で。底 部横撫で。天井部中央に孔をふいだ跡。

#### 113号住居

遺物番号	種類・器種	出土位置	計測値(mm)・遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴
1 第31区 PL-34	土師器 坏	覆土	高(39) □(139) 底- 口縁部-底部1/4	砂・小石含む 酸化 にふい黄橙 (10YR6/4)	表面摩滅のため調整不明瞭。外：口縁部-底部横 撫で。底部削り。内：口縁部-底部横撫で。
2 第31区 PL-34	土師器 坏	東中部覆土	高(42) □(145) 底- 口縁部-底部1/5	砂・小石含む 酸化 にふい黄橙 (10YR6/3)	表面摩滅のため調整不明瞭。外：口縁部-底部上 半横撫で。底部下半-底部削り。内：口縁部- 底部横撫で。
3 第31区 PL-34	土師器 坏	東中部覆土	高(27) □(179) 底- 小破片	砂粒含む 酸化 にふい橙 (5YR6/4)	外：口縁部横撫で。底部削り。内：口縁部- 底部横撫で。

## 113号住居(続き)

遺物番号	種別・器種	出土位置	計測値(mm)・遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他
4 第31図 PL-34	須臾器 蓋	甕前床面	高33 口132 底一 はば完形	砂・小石・白色灰物含む 還元 灰(N6-0)	轆轤成形、左回転。外：口縁部～天井部上端回転 撫で、天井部回転削り。内：口縁部～天井部回 転撫で。
5 第31図 PL-34	須臾器 鉢	覆土・25 掘立 ピット	高86 口(199)底(84) 口縁部～底部1/3	砂・黒色灰物含む 還元 灰白(2.5Y7/1)	轆轤成形。外：口縁部～底部回転撫で、底部下 端～底部回転削り。内面：口縁部～底部回転撫 で。
6 第32図 PL-34	土師器 甕	甕左袖・甕・ 覆土	高176 口140 ほぼ完形	砂粒・小石多い 酸化 黄灰(2.5Y5/1)	底部平底に近い丸底。外：口縁部上端横撫で。口 縁部～胴部縦刷毛目。底部摩擦。内：口縁部横刷 毛目。胴部横撫で。
7 第32図 PL-34	土師器 甕	甕	高313 口228 底(43) ほぼ完形	砂・白色粒子含む 酸化 明赤褐(5YR5/6)	外：口縁部横撫で。胴部上端横、下半斜め・縦 削り。内：口縁部～底部横撫で。
8 第32図 PL-34	土師器 甕	甕	高(305) 口235 底一 はば完形 口縁部一 部・底部欠	砂粒多い 酸化 橙(5YR6/6)	外：口縁部横撫で。胴部削り。内：口縁部横 撫で。胴部横撫で。
9 第32図 PL-35	土師器 甕	西半部床 面・覆土	高(253) 口(214) 底一 口縁部1/4～胴部上 半1/3	砂・白色粒子含む 酸化 橙(5YR6/6)	外：口縁部横撫で。胴部削り。内：口縁部横 撫で。胴部横撫で。
10 第32図 PL-35	土師器 甕	甕左袖	高(182) 口228 底一 上部1/2	砂粒多い 酸化 黄灰(5YR6/6)	外：口縁部横撫で。胴部上端斜め・下半縦削り。 内：口縁部横撫で。胴部横撫で。口縁部から肩 部の内外面に指頭痕が残る。
11 第33図 PL-34	土師器 甕	東半部覆土	高(65) 口(196) 底一 口縁部1/5	砂・白色粒子含む 酸化 明赤褐(2.5YR5/6)	外：口縁部横撫で。胴部削り。内：口縁部～胴 部横撫で。
12 第33図 PL-35	石製品 磨礪み石	南西部床面	長さ97 幅42 厚さ37 重さ238g	ホルンフェルス	自然石を使用
13 第33図 PL-35	石製品 磨礪み石	南壁部床面	長さ96 幅31 厚さ22 重さ113.5g	チャート	自然石を使用
14 第33図 PL-35	石製品 磨礪み石	南壁部床面	長さ90 幅52 厚さ22 重さ191.5g	粗粒輝石安山岩	自然石を使用
15 第33図 PL-35	石製品 磨礪み石	南壁部ピット埋土上	長さ102 幅41 厚さ31 重さ203.8g	ホルンフェルス	自然石を使用
16 第33図 PL-35	石製品 磨礪み石	南壁部ピット埋土上	長さ105 幅39 厚さ29 重さ172.8g	砂質頁岩	自然石を使用
17 第33図 PL-35	石製品 磨礪み石	南壁部ピット埋土上	長さ118 幅44 厚さ26 重さ230.7g	チャート	自然石を使用
18 第33図 PL-35	石製品 磨礪み石	南壁部ピット埋土上	長さ96 幅35 厚さ31 重さ143.1g	黒色頁岩	自然石を使用
19 第33図 PL-35	石製品 磨礪み石	南壁部ピット埋土上	長さ101 幅45 厚さ33 重さ222.5g	溶結凝灰岩	自然石を使用
20 第33図 PL-35	石製品 磨礪み石	東半部床面	長さ93 幅32 厚さ22 重さ106.2g	砂岩	自然石を使用
21 第33図 PL-35	石製品 磨礪み石	東半部床面	長さ118 幅35 厚さ36 重さ227.2g	黒色頁岩	自然石を使用
22 第33図 PL-35	石製品 磨礪み石	覆土	長さ87 幅40 厚さ30 重さ145.5g	ホルンフェルス	自然石を使用

## 114号住居

遺物番号	種別・器種	出土位置	計測値(mm)・遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他
1 第37図 PL-35	土師器 坏	覆土	高(31) 口(120) 底一 口縁部～底部1/4	砂・白色灰物含む 酸化 土に赤い橙(5YR6/6)	丸底。外：口縁部横撫で、底部～底部削り。 内：口縁部横撫で、底部～底部撫で。内外面一部 塗層付着。
2 第37図 PL-35	土師器 坏	覆土	高(27) 口(119) 底一 口縁部1/4	細砂粒含む 酸化 橙(5YR6/6)	丸底。外：口縁部横撫で。底部削り。内：口縁 部～底部横撫で。

第3章 調査の成果

114号住居(続き)

遺物番号	種別・器種	出土位置	計測値(mm)・遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴
3 第37区 PL-35	土師器 坏	掘方	高(35) □(136) 底- 口縁部-体部1/4	砂・小石・雲母含む 酸化 橙 (5YR6/6)	丸底。外:口縁部横撫で、体部磨削り。内:口縁部-体部横撫で。
4 第37区 PL-35	土師器 坏	甕右掘方・ 掘方	高(38) □(140) 底- 口縁部-底部2/5	砂・白色鉱物・雲母含む 酸化 橙 (5YR6/6)	丸底。外:口縁部横撫で、体部-底部磨削り。内:口縁部横撫で、体部-底部磨削り。底部一部指頭撫で。
5 第37区 PL-35	土師器 坏	掘方	高(36) □(138) 底- 口縁部-体部1/5	砂粒含む 酸化 土よみ赤褐 (5YR5/4)	丸底。外:口縁部横撫で、体部磨削り。内:口縁部-体部横撫で。
6 第37区 PL-35	土師器 坏	掘方・甕	高(35) □(137) 底- 口縁部-体部1/5	砂粒含む 酸化 橙 (2.5YR6/6)	丸底。外:口縁部横撫で、体部磨削り。内:口縁部-体部横撫で。
7 第37区 PL-35	土師器 坏	北東隅覆土・ 甕右覆土・ 覆土	高(33) □(160) 底- 口縁部-底部1/6	砂・白色鉱物含む 酸化 橙 (5YR6/6)	丸底。外:口縁部横撫で、体部-底部磨削り。内:口縁部-底部横撫で。
8 第37区 PL-35	須恵器 高台付甕	掘方	高38 □(134) 底(90) 口縁部-底部小破片	砂粒・小石含む 酸化 浅黄褐 (10YR8/4)	轆轤成形。底部切り離し不明。高台貼り付け。口縁部-体部内外面とも回転撫で。
9 第37区 PL-36	須恵器 甕	覆土	高(22) □1157 口縁部-天井部1/4	細砂粒含む 還元 灰(5Y6/1) 外面暗灰(N3/0)	轆轤成形。外:天井部上半回転磨削り、天井部下半-口縁部回転撫で。内:天井部-口縁部回転撫で、外面磨し。
10 第38区 PL-96	土師器 不明	P 3上覆土・ 甕	高26 □133 底- 口径19×21 ほぼ完形 口縁一部欠	砂粒多い 酸化 浅黄褐 (10YR8/3)	用途不明。天井部中央に穿孔。外:口縁部横撫で、天井部磨削り。内:撫で。爪先状の刺突痕。
11 第38区 PL-36	土師器 甕	甕左床面・ 甕・覆土	高357 □254 底70 ほぼ完形	砂・小石多い 酸化 土よみ橙 (7.5YR6/4)	外:口縁部横撫で、胴部磨削り。口縁部-胴部上半輪縁み直が残る。内:口縁部横撫で、胴部やや不整な横撫で。
12 第38区 PL-36	土師器 甕	甕	高392 □263 底58 ほぼ完形	砂・小石多い 酸化 橙 (5YR6/6)	外:口縁部横撫で、指頭痕が残る。胴部磨削り。内:口縁部横撫で。胴部横撫で。
13 第38区 PL-36	土師器 甕	甕	高402 □243 底63 ほぼ完形	砂・小石多い 酸化 橙 (5YR6/6)	外:口縁部上半横撫で。口縁部下半-胴部磨削り。口縁部に輪縁み直が残る。内:口縁部上半横撫で。口縁部下半-胴部横撫で。
14 第39区 PL-37	土師器 甕	甕	高(300) □1223 底- ほぼ完形 底部欠	砂粒含む 酸化 土よみ橙 (7.5Y7/4)	外:口縁部横撫で。胴部磨削り。内:口縁部横撫で。胴部横撫で。
15 第39区 PL-37	土師器 甕	甕	高314 □1222 底61 ほぼ完形	砂粒・白色粒子含む 酸化 明赤褐 (2.5Y5/6)	外:口縁部横撫で。胴部磨削り。内:口縁部横撫で。胴部横撫で。胴部に指頭痕が残る。
16 第39区 PL-37	土師器 甕	甕左床面・ 覆土	高(177) □(246) 底- 口縁部1/4	砂粒・白色粒子含む 酸化 土よみ橙 (5YR6/4)	外:口縁部横撫で、指頭痕が残る。胴部斜め磨削り。内:口縁部横撫で。胴部やや細かい横撫で。
17 第39区 PL-37	土師器 甕	覆土	高(80) □(192) 底- 口縁部1/4	砂粒含む 酸化 土よみ赤褐 (5YR5/4)	外:口縁部横撫で。指頭痕が残る。胴部磨削り。内:口縁部横撫で。胴部横撫で。
18 第39区 PL-37	土師器 甕	P 3 輪床面	高(70) □- 底109 底部のみ	砂粒・礫石含む 酸化 灰褐 (7.5YR4/2)	外:胴部-底部磨削り。内:胴部-底部粗い撫で。
19 第39区 PL-36	須恵器 甕	覆土	高(47) □- 底- 胴部小破片	砂粒・白色粒子含む 還元 灰 (N6/0)	轆轤成形 肩部に3本の沈線。
20 第39区 PL-36	須恵器 甕	北西隅覆土	高(62) □(237) 底- 口縁部小破片	砂粒・白色粒子含む 還元 灰 (N6/0)	轆轤成形。

9号井戸

遺物番号	種別・器種	出土位置	計測値(mm)・遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴
1 第52区 PL-37	青磁 甕	埋土	高(20) □- 底- 底部付近小破片	砂粒少ない 灰白 (2.5Y8/2) 輪はオリ ゾ黄 (5Y6/3)	底部内面に陰刻あり。
2 第52区 PL-37	軟質陶器 甕	埋土	高(24) □- 底145 底部・高台小破片	砂粒・白色粒子多い 還元 灰黄褐 (10YR5/2)	轆轤成形。外:底部回転磨削り後高台貼り付け。内:回転撫で。

## 10号井戸

遺物番号	種別・器種	出土位置	計測値(mm)・遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他
1 #5216 PL-37	青磁 壺	埋土	高32 □- 底- 小破片	細砂粒含む 灰白(25Y7/1) 釉は灰オリーブ(5Y6/2)	口縁付近の小破片。内面に捺指あり。

## 31号溝

遺物番号	種別・器種	出土位置	計測値(mm)・遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他
1 #5516 PL-38	土師器 坏	埋土	高(36) □(93) 底-	砂粒含む 酸化 にふい橙(7.5YR7/4)	丸底。外:口縁部横撫で。底部蹴削り。内:口縁部-底部横撫で。
2 #5516 PL-38	須恵器 蓋	埋土	高37 □(120) 1/4	砂粒・白色鉱物含む 還元 黄灰(2.5Y6/1)	轆轤成形。右回転。外:天井部回転蹴削り。口縁部回転撫で。内:全面回転撫で。
3 #5516	須恵器 蓋	埋土	高(29) □- 天井部破片	砂粒含む 還元 黄灰(2.5Y6/1)	轆轤成形。外:天井部回転蹴削り。口縁部回転撫で。内:口縁部回転撫で。天井部撫で。
4 #5516 PL-38	須恵器 甕	埋土	高(157) □- 底(151) 胴部下平-底部破片	砂粒・白色粒子含む 還元 灰(N6/0)	外:胴部平行叩き目を横撫でで軽く滑す。底部粗い蹴削り。内:胴部縦撫で。底部不整方向の指撫で。
5 #5516 PL-38	須恵器 長頸壺	埋土	高(99) □- 底- 最大径(144) 胴部2/3	砂粒含む 還元 灰(N6/0)	轆轤成形か。胴部は中心からはずれた位置に付く。外:胴部中央上半回転蹴削り。内:胴部内面細かい当て具痕。
6 #5516	須恵器 甕	埋土	高(290) □- 底- 胴部下破片	砂粒・白色粒子含む 還元 灰(N4/0)	外:平行叩き目。内:青海波当て具痕。

## 32号溝

遺物番号	種別・器種	出土位置	計測値(mm)・遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他
1 #5816 PL-38	かわらけ	埋土	高20 □R2 完形	砂粒・黒色粒子含む 酸化 灰白(10YR8/1)	成形は手捏ねか。底部丸底。厚い作り。内外面とも全面撫で。

## 81号溝

遺物番号	種別・器種	出土位置	計測値(mm)・遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他
1 #6116 PL-38	土師器 甕	埋土	高(84) □197 底- 口縁部1/4	砂粒含む 酸化 にふい黄橙(10YR6/4)	外:口縁部横撫で。胴部横撫削り。内:口縁部横撫で。胴部撫で。
2 #6116	土師器 甕	埋土	高(68) □(140) 底- 口縁部-胴部上半小破片	砂粒含む 酸化 にふい橙(7.5YR5/4)	外:口縁部横撫で。胴部蹴削り。内:口縁部-胴部横撫で。
3 #6216 PL-38	平瓦	埋土	長さ(94) 幅(80) 厚さ20 側面小破片	砂粒含む 還元 灰白(2.5Y7/1) 断面黒褐(2.5Y3/1)	一枚作り。凹面布目。側面面取り状の削り。凸面は表面磨成。

## 83号溝

遺物番号	種別・器種	出土位置	計測値(mm)・遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他
1 #6316 PL-38	白磁 蓋	11区の部分 -底面付近	高14 □(49) 1/2	夾雑物少ない	外面と内面天井部に施釉。釉はやや青みのある灰白色。

## 91号溝

遺物番号	種別・器種	出土位置	計測値(mm)・遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他
1 #6716 PL-38	羽口	埋土	長さ179 最大径72 先端部一部欠	砂粒含む	先端部は融解。
2 #6716 PL-38	羽口	埋土	長さ(57) 長径71 短径65 先端部破片	小礫・砂粒含む 内面にふい橙(7.5YR7/4)	先端部のみ。先端外面は融解。
3 #6716 PL-38	鉄滓	埋土	長さ71 幅54 厚さ24 重さ139.4g 破片		碗形滓の破片か。

### 第3章 調査の成果

#### 91号溝 (続き)

遺物番号	種別・器種	出土位置	計測値(mm)・遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他
4 第67図 PL-38	鉄滓	埋土	長さ58 幅52 厚さ30 重さ97.5g 定形か		塊形滓か。

#### 108号溝

遺物番号	種別・器種	出土位置	計測値(mm)・遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他
1 第70図 PL-38	須恵器 蓋	埋土	高37 口168 横径48 ほぼ定形	砂粒・黒色粒子含む 還元 灰 (N5/0)	輪軸成形。外：天井部上半回転施削り後、横貼り付け。天井部下半～口縁部回転施削り。内：全面回転施削り。

#### 212号土坑

遺物番号	種別・器種	出土位置	計測値(mm)・遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他
1 第74図	須恵器 坏	埋土	高(35) 口(137) 底- 口縁部-体部小破片	砂粒含む 還元 灰 (N5/0)	口縁部～体部内外面とも回転施削り。

#### 214号土坑

遺物番号	種別・器種	出土位置	計測値(mm)・遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他
1 第74図 PL-38	土師器 坏	埋土	高(29) 口(140)	細砂粒含む 酸化 にぶい赤褐色 (5YR5/4)	丸底。外：口縁部横撫で。底部施削り。内：口縁部～底部横撫で。

#### 216号土坑

遺物番号	種別・器種	出土位置	計測値(mm)・遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他
1 第75図 PL-38	石製品 磨石・叩石	埋土	長さ82 幅74 厚さ54 重さ445.6g	粗粒輝石安山岩	上下面とも使用で摩滅。

#### 701号ピット

遺物番号	種別・器種	出土位置	計測値(mm)・遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他
1 第93図 PL-38	土師器 甕	埋土	高(60) 口(208) 底- 口縁部 1/4	砂粒含む 酸化 にぶい黄褐色 (10YR6/3)	外：口縁部横撫で。胴部横撫削り。内：口縁部～胴部横撫で。

#### 786号ピット

遺物番号	種別・器種	出土位置	計測値(mm)・遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他
1 第95図 PL-38	石製品	埋土	長さ(108) 幅 96 厚さ 22 重さ 231.1g	粗粒輝石安山岩	

#### 111区土器集中

遺物番号	種別・器種	出土位置	計測値(mm)・遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他
1 第98図 PL-39	土師器 甕	土器集中南 部	高(116) 口(247) 底- 口縁部 1/4	砂粒やや多い 酸化 にぶい橙 (5YR6/4)	外：口縁部横撫で。指頭痕が残る。胴部横撫削り。内：口縁部横撫で。胴部横撫で。
2 第98図 PL-39	土師器	土器集中南 部	高(115) 口(260) 底- 口縁部 1/4	砂粒多い 酸化 にぶい橙 (7.5YR6/4)	外：口縁部横撫で。指頭痕と輪積み痕残る。胴部横撫削り。内：口縁部横撫で。胴部横撫で。
3 第98図 PL-39	土師器 甕	土器集中北 部	高(84) 口(255) 底- 口縁部 1/4	砂粒含む 酸化 にぶい赤褐色 (5YR5/4)	外：口縁部横撫で。指頭痕残る。胴部横撫削り。内：口縁部横撫で。胴部横撫で。
4 第98図 PL-39	土師器 甕	土器集中南 部	高(78) 口(235) 底- 口縁部破片	砂粒含む 酸化 にぶい橙 (7.5YR6/4)	外：口縁部横撫で。胴部縦施削り。内：口縁部横撫で。胴部横撫で。
5 第98図 PL-39	土師器 甕	土器集中南 部	高(64) 口(252) 底- 口縁部1/3	砂粒多い 酸化 にぶい褐 (7.5YR5/4)	厚い作り。外：口縁部横撫で。胴部上端施削り。内：口縁部～胴部上半横撫で。
6 第98図 PL-39	土師器 甕	土器集中南 部	高(70) 口(244) 底- 口縁部1/4	砂粒やや多い 酸化 灰褐(7.5YR4/2)	厚い作り。外：口縁部横撫で。胴部縦施削り。内：口縁部横撫で。胴部横撫で。

## 11区土器集中(続き)

遺物番号	種別・器種	出土位置	計測値(mm)・遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴
7 第999回 PL-39	土師器 甕	土器集中北 部	高(75) 口(227) 底- 口縁部1/3	砂粒多い 酸化 橙 (5YR6/6)	外:口縁部横線で、指頭痕残る。胴部横溝削り。内: 口縁部~胴部横線で。
8 第999回 PL-39	土師器 甕	土器集中北 部	高(72) 口(232) 底- 口縁部1/4	砂粒含む 酸化 にょい濁 (7.5YR6/3)	外:口縁部横線で、指頭痕残る。胴部削り。内: 口縁部横線で、胴部横線で。
9 第999回 PL-39	土師器 甕	土器集中北 部	高(57) 口(234) 底- 口縁部1/3	砂粒含む 酸化 橙 (5YR6/6)	外:口縁部横線で、指頭痕残る。胴部横溝削り。内: 口縁部横線で、胴部横線で。
10 第999回 PL-39	土師器 甕	土器集中南 部	高(64) 口(236) 底- 口縁部1/3	砂粒含む 酸化 にょい赤濁 (5YR5/4)	外:口縁部横線で、指頭痕と輪積み痕残る。胴部 横溝削り。内:口縁部~胴部横線で。
11 第999回 PL-39	土師器 甕	土器集中南 部	高(53) 口(218) 底- 口縁部1/4	砂粒含む 酸化 橙 (5YR6/6)	外:口縁部横線で、指頭痕残る。胴部横溝削り。内: 口縁部横線で。
12 第999回 PL-39	土師器 甕	土器集中北 部	高(50) 口(250) 底- 口縁部破片	砂粒・赤色粒子多い 酸化 橙 (7.5YR6/6)	外:口縁部横線で、指頭痕残る。胴部削り。内: 口縁部横線で。
13 第999回 PL-39	土師器 甕	土器集中北 部・南部	高(59) 口(218) 底- 口縁部1/3	砂粒多い 酸化 橙 (5YR6/6)	外:口縁部横線で、輪積み痕残る。胴部上端横削 り。内:口縁部横線で、胴部横線で。
14 第999回 PL-39	土師器 甕	土器集中南 部	高(54) 口(230) 底- 口縁部のみ	砂粒含む 酸化 橙 (5YR6/6)	外:口縁部横線で、胴部上端横削り。内:口縁部 ~胴部横線で。
15 第999回 PL-39	土師器 甕	土器集中北 部	高(54) 口(215) 底- 口縁部のみ	砂粒含む 酸化 にょい橙 (7.5YR6/4)	口縁部内外面とも横線で。上端は強く撫でる。
16 第999回 PL-40	土師器 甕	土器集中南 部	高(55) 口(218) 底- 口縁部1/4	砂粒・赤色粒子多い 酸化 灰青 (2.5Y6/2)	表面薄。外:口縁部横線で、胴部削り。内: 口縁部~胴部横線で。
17 第999回 PL-40	土師器 甕	土器集中北 部	高(59) 口(226) 底- 口縁部破片	砂粒含む 酸化 にょい濁 (7.5YR5/4)	厚い作り。口縁部内外面とも横線で。
18 第999回 PL-40	土師器 甕	土器集中南 部	高(48) 口(235) 底- 口縁部破片	砂粒多い 酸化 にょい濁 (7.5YR5/3)	厚い作り。砂が多い胎土を用いる。口縁部内外面 とも横線で。
19 第999回 PL-40	土師器 甕	土器集中南 部	高(38) 口(255) 底- 口縁部破片	砂粒多い 酸化 にょい橙 (7.5YR6/4)	口縁部内外面とも横線で。外面に指頭痕、輪積み 痕が残る。
20 第999回 PL-40	土師器 甕	土器集中南 部	高(56) 口(236) 底- 口縁部のみ1/2	砂粒含む 酸化 にょい橙 (7.5YR6/4)	外:口縁部横線で、底先端の指頭痕残る。胴部上端 横溝削り。内:口縁部横線で、胴部上端横溝でか。
21 第999回 PL-40	土師器 甕	土器集中南 部	高(75) 口(176) 底- 口縁部破片	砂粒多い 酸化 にょい濁 (7.5YR6/3)	外:口縁部横線で、口縁部下半~胴部斜め削り。 内:口縁部~胴部横線で。

## 遺構外

遺物番号	種別・器種	出土位置	計測値(mm)・遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴
1 第1028回 PL-40	須恵器 坏	7区表土	高47 口40 底62 体部一部欠	砂粒含む 還元 灰 (N6/0)	轆轤成形。右回転。やや深い器形。口縁反しな い。外:口縁部~体部回転線で。底部回転糸切り。 内:口縁部~底部回転線で。
2 第1028回 PL-40	須恵器 坏	12区黒色土	高(33) 口- 底82 底部のみ	粗砂粒多い 還元 灰白(2.5Y8/1) 底部黄灰(2.5Y5/1)	轆轤成形。右回転。外:胴部回転線で。底部回転 糸切り後、外周回転削り。内:体部~底部回転 線で。
3 第1028回 PL-40	須恵器 坏	11区表土	高(25) 口- 底80 底部のみ	砂粒・小礫・赤色粒子含む 酸化 にょい橙 (7.5Y7/3)	轆轤成形。右回転。厚く重い。外:体部回転線で。 底部回転糸切り後、外周回転削り。内:体部~ 底部回転線で。
4 第1028回 PL-40	土師器 甕	11区表土	高(81) 口(197) 底- 口縁部1/4	砂粒含む 酸化 にょい橙 (7.5YR6/4)	外:口縁部横線で、胴部横溝削り。内:口縁部~ 胴部横線で。
5 第1028回 PL-40	須恵器 瓶	7区表土	胴部小破片	砂粒含む 還元 灰 (N6/1)	外:平行叩きの長筒巻き状の刷毛目。内:当て具 痕(青濁流)。
6 第1028回 PL-40	須恵器 甕	7区表土	高(132) 口(298) 底- 口縁部1/4	砂粒含む 還元 灰白 (2.5Y7/1)	轆轤成形か。外:口縁部横線で、胴部細かい並行 叩き痕。内:口縁部横線で、胴部当て具痕。

### 第3章 調査の成果

#### 遺構外(続き)

遺構番号	種別・器種	出土位置	計測値(mm)・遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他
7 第1029 PL-40	陶器 深鉢	7区表土	高(37) 口- 底(140)	夾雑物少ない 地味 灰黄緑 (10YR4/2)	轆轤成形か。高台に半円形の凹みが付く(数は不明)。磨り目は9本一組の輪状工具で付けている。よく焼締まり硬い。
8 第1029 PL-40	陶器 深鉢	11区表土	径24		「泉末通宝」北宋 初铸 1038年

#### 東今泉鹿島道跡縄文時代遺物

遺構番号	種別・器種	出土位置	計測値(mm)・遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他
1 第1039 PL-40	縄文土器 深鉢	3区縄文包 含層	口縁部片	細雑・白色粒含む 普通 にふい黄橙	波状口縁。口縁に沿って1条の沈線。波頂部から沈線を垂下。弧状モチーフを描き、沈線を充填施文。堀之内1式。
2 第1039 PL-41	縄文土器 深鉢	4区縄文包 含層	胴部片	細雑含む 普通 にふい黄橙	淡色伏隆線とR.L施文。加曽利E 3式。
3 第1039 PL-40	縄文土器 深鉢	4区縄文包 含層	口縁部片	白色粒含む 普通 にふい黄橙	口縁部に無文帯。隆線による楕円文とR.L施文。加曽利E 3式。
4 第1049 PL-41	縄文土器 深鉢	4区縄文包 含層	口縁部片	細雑含む 普通 にふい黄橙	弧状隆線とR.L施文。加曽利E 4式
5 第1049 PL-41	縄文土器 深鉢	5区縄文包 含層	口縁部片	細雑・白色粒含む 普通 にふい黄橙	口縁部に楕円文。垂下沈線とR.L施文。加曽利E 3式。
6 第1049 PL-41	縄文土器 深鉢	5区縄文包 含層	口縁部片	細雑含む 良好 にふい黄橙	2単位の横状把手。口縁部に無文帯。隆線による楕円文。縦位集合沈線。加曽利E 3式。
7 第1059 PL-41	縄文土器 深鉢	5区縄文包 含層	口縁部片	細雑含む 良好 にふい褐色	小突起を付す波状口縁。口縁部に渦巻文。垂下沈線とR.L施文。加曽利E 3式。
8 第1059 PL-42	縄文土器 深鉢	5区縄文包 含層	口縁部片	細雑・白色粒含む 普通 洗青	縦く内湾する口縁部。進U字状沈線とR.L施文。加曽利E 4式。
9 第1059 PL-42	縄文土器 深鉢	5区縄文包 含層	底部片	細雑含む 普通 明赤褐色	垂下沈線とR.L縦位施文。加曽利E 3式。
10 第1059 PL-42	縄文土器 深鉢	5区縄文包 含層	口縁部片	細雑含む 普通 にふい黄橙	波状口縁。口縁部に楕円文。垂下沈線とR.L施文。加曽利E 3式。
11 第1059 PL-42	縄文土器 深鉢	5区縄文包 含層	口縁部片	細雑・白色粒含む 良好 にふい黄橙	縦く内湾する口縁部。口縁下に刺突列。進U字状沈線。波状垂下沈線とR.L施文。加曽利E 4式。
12 第1059 PL-42	縄文土器 深鉢	17区低地	胴部片	細雑・白色粒含む 普通 にふい黄橙	頸部屈曲部下の部位。ワラビ手状沈線とL.R施文。頸部に円形貼付。堀之内1式。
13 第1069 PL-42	縄文土器 深鉢	17区低地	胴部片	細雑含む 普通 にふい黄橙	垂下沈線と縦位R.L施文。加曽利E 3式。
14 第1069 PL-42	縄文土器 深鉢	17区低地	口縁部片	細雑・白色粒含む 普通 洗青	小波状口縁で、波頂部下に円形刺突。刺突を基点に口縁に沿って沈線。垂下沈線とL.R施文。堀之内1式。
15 第1069 PL-42	縄文土器 深鉢	17区低地	口縁部・胴部片	細雑含む 普通 にふい黄橙	波状口縁。胴部上手で短曲。隆線による楕円文。区割りに沈線を充填施文し、交点に円形刺突。口縁部に胴部に2帯の文様帯をもつ。紋様帯下、内面に貝殻条直施文。堀之内1式。
16 第1069 PL-43	縄文土器 深鉢	18区縄文包 含層	口縁部片	細雑含む 普通 にふい橙	沈線によるモチーフ。称名寺Ⅱ式。
17 第1079 PL-43	縄文土器 深鉢	18区縄文包 含層	口縁部片	細雑・白色粒含む 普通 にふい黄橙	沈線によるモチーフと列点。称名寺Ⅱ式。
18 第1079 PL-42	縄文土器 深鉢	18区縄文包 含層	胴部片	細雑・白色粒含む 普通 にふい黄橙	沈線によるモチーフ。称名寺Ⅱ式。



東今泉鹿島遺跡縄文時代遺物 (続き)

遺物番号	種別・器種	出土位置	計測値(mm)・遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他
19 第107図 PL-43	石器 打製石斧	4区縄文包 含層	長さ117 幅77 厚さ2.1 重さ199.5g 完形	ホルンフェルス	分銅形。
20 第107図 PL-43	石器 打製石斧	5区縄文包 含層	長さ107 幅65 厚さ1.1 重さ90.2g 完形	ホルンフェルス	分銅形。表面に自然面を残す。
21 第107図 PL-43	石器 打製石斧	5区縄文包 含層	長さ(94) 幅71 厚さ2.3 重さ190.1g 上部一部欠	珪質頁岩	分銅形。
22 第107図 PL-43	石器 打製石斧	18区縄文包 含層	長さ(84) 幅41 厚さ1.3 重さ54.4g 刃部欠	ホルンフェルス	楕形。両側面を直線的に整える。刃部を欠損している。
23 第108図 PL-43	石器 石鏃	3区縄文包 含層	長さ2.2 幅1.9 厚さ0.4 重さ0.8g 完形	黒曜石	有脚鏃。
24 第108図 PL-43	石器 石鏃	3区縄文包 含層	長さ(1.6) 幅1.6 厚さ0.3 重さ0.8g 先端欠	チャート	
25 第108図 PL-43	石器 網片	3区縄文包 含層	長さ4.4 幅28 厚さ0.6 重さ8.6g	チャート	
26 第108図 PL-43	石製品 凹・磨・敲石	4区縄文包 含層	長さ124 幅96 厚さ4.5 重さ906.5g 完形	粗粒輝石安山岩	表裏の中央にわずかに凹みがある。表裏全面に磨痕。下面・側面に敲痕。
27 第108図 PL-43	石製品 凹・磨・敲石	5区縄文包 含層	長さ1.03 幅8.9 厚さ4.6 重さ701.6g 完形	粗粒輝石安山岩	表裏の中央にわずかに凹みがある。表面に磨痕。上下面・側面に敲痕。
28 第109図 PL-43	石製品 凹石	18区縄文包 含層	長さ126 幅11.2 厚さ5.9 重さ1036.4g 1/3欠	粗粒輝石安山岩	表面に深い凹み。表面はわずかな凹みが多数ある。
29 第109図 PL-43	石製品 凹石	4区縄文包 含層	長さ(11.5) 幅(16.4) 厚さ8.5 重さ1917.1g 遺存度不明	粗粒輝石安山岩	表裏両面に深い凹み。

## 第4章 まとめ

向矢部遺跡で調査した遺構の数は、堅穴住居11軒、掘立柱建物4棟、柱穴列1条、溝23条、井戸6基、土坑6基、ピット175基、道跡1条等である。今回の調査区は国道122号線の西側に沿った狭く長い範囲となるが、比較的面積が狭い割には多様な遺構が調査できたといえる。

堅穴住居は1軒が時期を確定できないが、その他の10軒には7世紀前半から9世紀前半までのものがある。これらのうち7世紀前半のものは2軒であり、その後若干の空白期間があって、8世紀前半3軒、8世紀後半2軒、9世紀初頭から前半3軒と続いている。もちろん、調査範囲が狭いので、これのみで本遺跡の全体傾向を確定できるわけではない。

第1集で報告した東今泉鹿島遺跡を見てみると、8世紀後半から9世紀にかけての堅穴住居が多い傾向にある。同時期の住居は同じ第1集で指摘しているように、隣接する鹿島浦遺跡、楽前遺跡、大道東遺跡でも数多く調査されていて、この地域の広い範囲に分布している。おそらくこれら広い範囲にわたって一大集落が形成されていたものと思われる。本遺跡の8世紀後半から9世紀代の住居もその集落の一端を構成していたものであろう。もちろん、本遺跡では8世紀前半のものが3軒とやや多いので、周辺の遺跡よりも古い堅穴住居が多く見られる傾向にあるが、調査面積の狭さを考えれば、それが本遺跡の特徴といえるかどうかは明らかではない。これらの8世紀前半の住居は、8区北部のみに集中して分布することが注目される。

7世紀前半の住居は東今泉鹿島遺跡では見つからない時期のものである。9区中央と10区南部とにあるので、これもやや集まる傾向にある。8世紀から形成される大集落の前史として、これらの住居の存在にも注目すべきである。

また、本遺跡で特に注目すべき遺構は8区北部にある25号掘立柱建物である。この建物は桁行7間、

梁間4間で四面に庇をもつ大型のものである。各柱穴の大きさが小さいので、上部構造はさほど大規模なものであったとは思えないが、床面積は約101㎡あり、非常に大きな建物である。瓦は出土していないので、瓦葺きではない。時期は遺物が出土しないので確定できないが、堅穴住居を埋めた洪水層の上に建設されていることと柱穴の形態から、平安時代以降のものであると考えられる。周囲の遺構にはこの建物に確実に伴うものが見つからず、そのため、この建物の性格は明らかではないが、きわめて大きな建物であり、特別な用途をもったものであることは間違いない。北関東自動車道の調査区の成果なども含めて、今後更に検討する必要がある建物である。

溝跡についても性格不明のものが多く、直線的に伸びるものがあるが注目される。それらのうち、10区から11区にかけてのびる83号溝は、幅2.4~3.4m、深さ1.06~1.15mの規模で、遺物から中世以降のものと考えられる。本遺跡の南には矢部城跡が存在するため、それとの関連も考えられる。その他、80号溝は時期不明であるが、26、31、81、91、108号溝は古代にまで遡る可能性があり、一部は集落の時期に重なる可能性もある。その用途は明らかにはしたが、流水のあったことを示すものもあるので、用水路などの用途が考えられよう。

以上のように本遺跡では、7世紀前半から中・近世までの遺構が見られるが、中心はやはり古代の集落である。本遺跡の西には山田郡衙推定地があり、この周辺の8世紀から9世紀にかけての大集落は、それとの密接な関連が考えられる。ただし、本遺跡からは郡衙との関係を直接示すものは見つからない。平安時代以降には大型の掘立柱建物が見られる時期があるが、これについては現状では不明な点が多いと言わざるを得ない。周辺の遺跡との総合的な検討が今後必要であろう。

## 報告書抄録

書名ふりがな	むかいやべいせき
書名	向矢部遺跡
副書名	国道122号道路改築事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	2
シリーズ名	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	417
編著者名	井川達雄／高井佳弘
編集機関	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行機関	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行年月日	20071130
作成法人ID	21005
郵便番号	377-8555
電話番号	0279-52-2511
住所	群馬県渋川市北橋町下箱田784番地2
遺跡名ふりがな	むかいやべいせき
遺跡名	向矢部遺跡
所在地ふりがな	ぐんまけんおおたしただかりまち
遺跡所在地	群馬県太田市以上町
市町村コード	10205
遺跡番号	
北緯（日本測地系）	361937
東経（日本測地系）	1392348
北緯（世界測地系）	361948
東経（世界測地系）	1392336
調査期間	20030401-20050531
調査面積	6183
調査原因	道路建設工事
種別	集落
主な時代	古墳／奈良／平安／中近世
遺跡概要	集落-古墳-堅穴住居2-土師器+須恵器/集落-奈良+平安-堅穴住居9+掘立柱建物4+溝+土坑-土師器+須恵器/集落-中近世-溝+土坑+井戸
特記事項	山田郡衛推定地近傍の集落跡。大型の掘立柱建物。
要約	<p>本遺跡は太田市の北東、渡良瀬川によって形成された扇状地にある。遺構の中心は古代の集落跡であり、7世紀前半から9世紀にかけての堅穴住居11軒を調査した。8世紀から9世紀の堅穴住居は周辺の遺跡でも数多く調査されており、この付近が同時期の大集落であったことが判明している。本遺跡はその一部を構成しているものである。本遺跡の西には山田郡衛推定地があり、この集落はそれとの関連が深いと考えられる。その後平安時代には大型の掘立柱建物が建設される時期があるが、その性格は明らかではない。中世には遺跡の南に矢部城があり、一部の溝はそれと関連する可能性がある。</p>

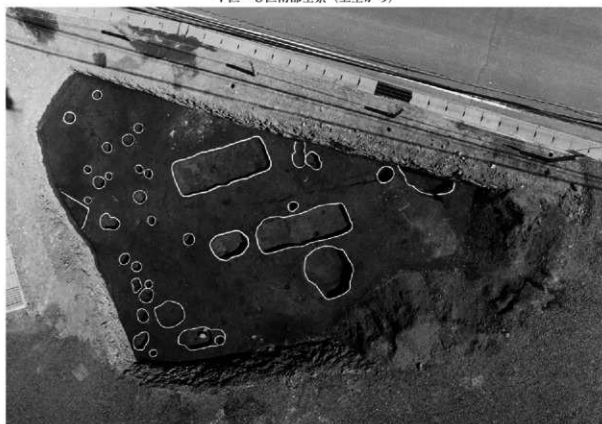


# 写真図版





7区・8区南部全景（上空から）



8区北西端全景（上空から）



8区北部上面全景（上空から）



8区北部下面全景（南西から）





9区全景（上空から）



10区南半部全景（上空から）



10区北半部全景（上空から）



11区南半部全景（上空から）



12区南半部下面全景 (南西から)



12区南半部上面全景 (南西から)



12区北半部全景 (北から)



8区調査風景



8区調査風景



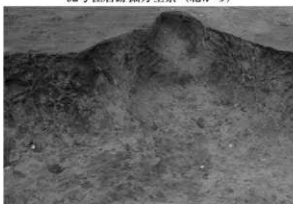
92号住居跡全景（北から）



92号住居跡掘方全景（北から）



92号住居跡竈（南から）



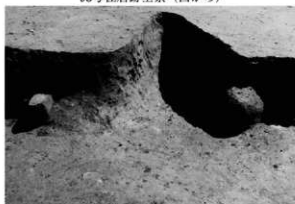
92号住居跡竈掘方（南から）



93号住居跡全景（西から）



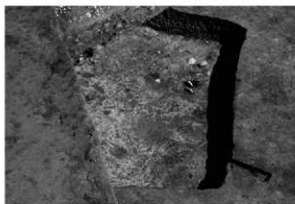
93号住居跡掘方全景（西から）



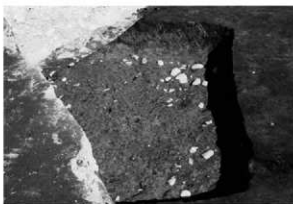
93号住居跡竈（西から）



93号住居跡竈掘方（西から）



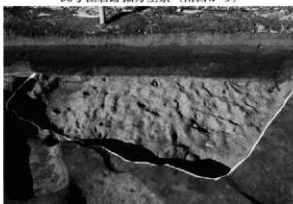
96号住居跡全景 (南西から)



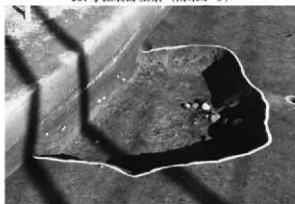
96号住居跡掘方全景 (南西から)



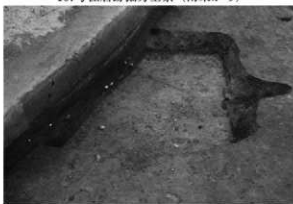
107号住居跡全景 (南東から)



107号住居跡掘方全景 (南東から)



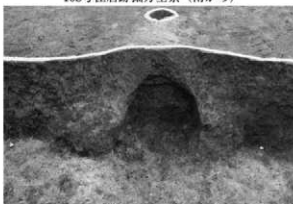
108号住居跡全景 (南から)



108号住居跡掘方全景 (南から)



108号住居跡竈遺物出土状態 (西から)



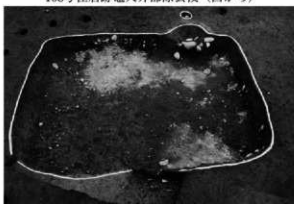
108号住居跡竈 (西から)



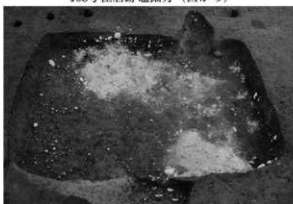
108号住居跡竈天井部除去後（西から）



108号住居跡竈掘方（西から）



109号住居跡全景（西から）



109号住居跡掘方全景（西から）



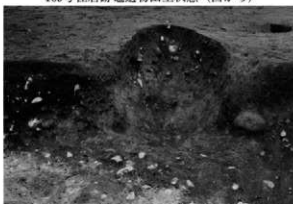
109号住居跡竈遺物出土状態（西から）



109号住居跡竈遺物出土状態（西から）



109号住居跡竈（西から）



109号住居跡竈掘方（西から）



111号住居跡全景（南東から）



111号住居跡掘方全景（南東から）



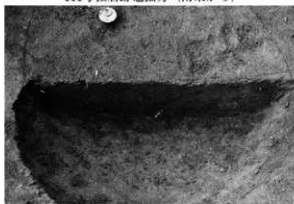
111号住居跡竈（南東から）



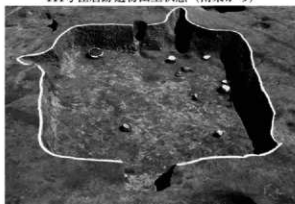
111号住居跡竈掘方（南東から）



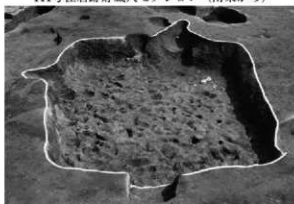
111号住居跡遺物出土状態（南東から）



111号住居跡貯蔵穴セクション（南東から）



112号住居跡全景（西から）



112号住居跡掘方全景（西から）



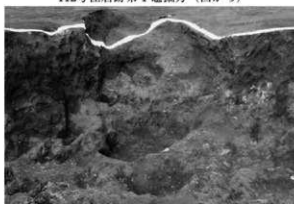
112号住居跡第1竈 (西から)



112号住居跡第1竈掘方 (西から)



112号住居跡第2竈 (南から)



112号住居跡第2竈掘方 (南から)



112号住居跡遺物出土状態 (南西から)



112号住居跡遺物出土状態 (西から)



113号住居跡遺物出土状態 (南から)



113号住居跡全景 (南から)





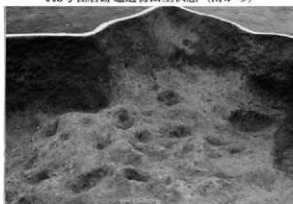
113号住居跡掘方全景（南から）



113号住居跡竈遺物出土状態（南から）



113号住居跡竈（南から）



113号住居跡竈掘方（南から）



114号住居跡全景（南東から）



114号住居跡掘方全景（南東から）



114号住居跡竈遺物出土状態（南東から）



114号住居跡竈（南東から）



114号住居跡発掘方 (南東から)



115号住居全景 (南から)



22・23号掘立柱建物全景 (北から)



22号掘立柱建物P2セクション (南から)



22号掘立柱建物P3セクション (西から)



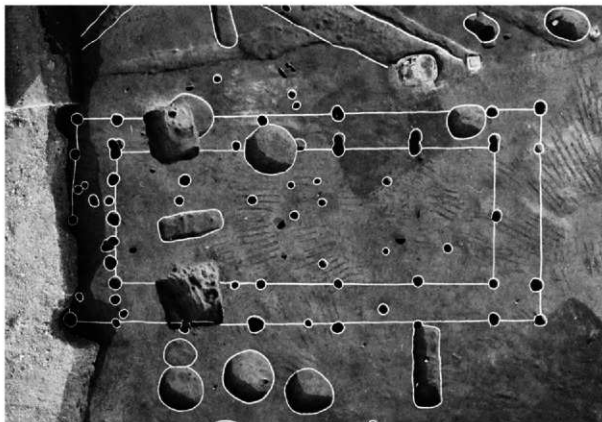
22号掘立柱建物P5セクション (南から)



23号掘立柱建物P2セクション (西から)



23号掘立柱建物P3セクション (南から)



25号掘立柱建物全景（上空から）



25号掘立柱建物全景（西上空から）



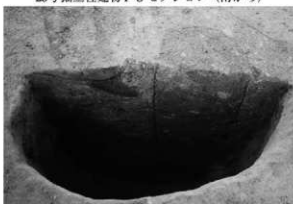
25号掘立柱建物全景 (東から)



25号掘立柱建物P5セクション (南から)



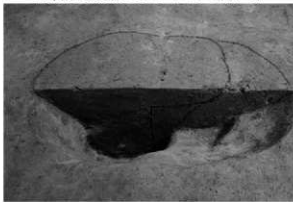
25号掘立柱建物P11セクション (南から)



25号掘立柱建物P12セクション (南から)



26号掘立柱建物全景 (北から)



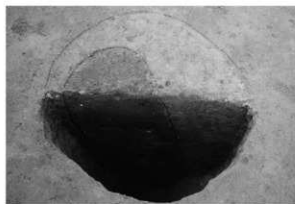
26号掘立柱建物P4セクション (西から)



1号柱穴列全景 (東から)



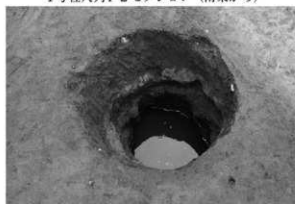
1号柱穴列P1セクション (南東から)



1号柱穴列P2セクション (南東から)



1号柱穴列P5セクション (南東から)



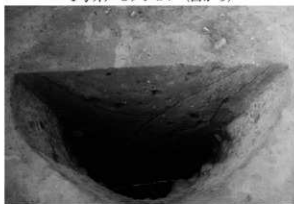
1号井戸全景 (東から)



1号井戸セクション (西から)



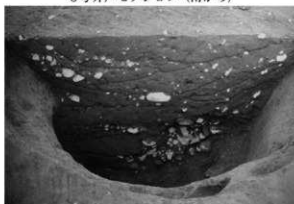
6号井戸全景 (南から)



6号井戸セクション (南から)



7号井戸全景 (北から)



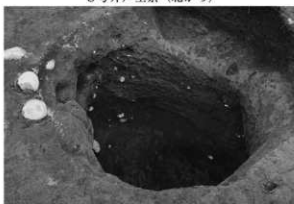
7号井戸セクション (南から)



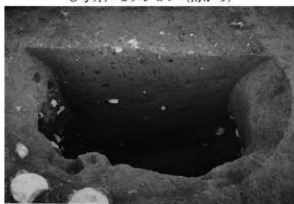
8号井戸全景 (北から)



8号井戸セクション (南から)



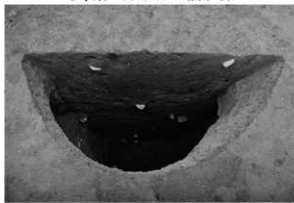
9号井戸全景 (南から)



9号井戸セクション (西から)



10号井戸全景 (南から)



10号井戸セクション (南から)



26号溝全景 (北東から)



26号溝A-A'セクション (西から)



26号溝 B-B'セクション (西から)



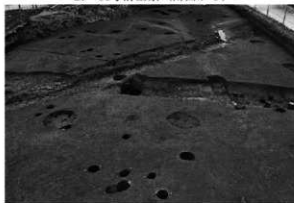
26号溝 C-C'セクション (北西から)



26・31号溝全景 (南西から)



31号溝全景 (東から)



31号溝全景 (南から)



31号溝 D-D'セクション (南東から)



左から27~30号溝 (南東から)



27号溝セクション (南東から)



28号溝セクション (南から)



29号溝セクション (南から)



30号溝全景 (南東から)



30号溝セクション (南から)



32・33号溝全景 (東から)



80号溝全景 (南から)



80号溝セクション (南から)



81号溝全景 (東から)





81号溝全景 (上空から)



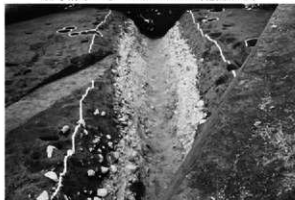
81号溝A-A'セクション (東から)



81号溝B-B'セクション (東から)



81号溝C-C'セクション (北西から)



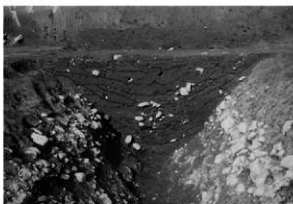
10区南部・83号溝全景 (南から)



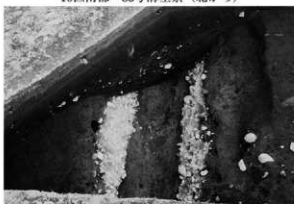
10区北部・83・112号溝全景 (上空から)



10区南部・83号溝全景 (北から)



10区南部・83号溝B-B'セクション (南から)



11区・83号溝全景 (南から)



86号溝全景 (南西から)



86号溝セクション (南西から)



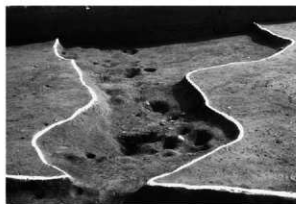
87号溝全景 (南西から)



87号溝A-A'セクション (南西から)



87号溝B-B'セクション (南西から)



89号溝全景 (北西から)



89号溝 A-A'セクション (北西から)



90号溝全景 (北西から)



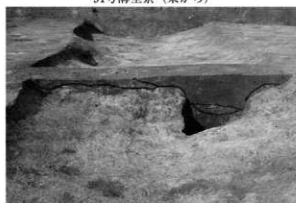
90号溝 A-A'セクション (西から)



91号溝全景 (東から)



91号溝羽口出土状態 (西から)



91号溝 A-A'セクション (南東から)



91号溝 B-B'セクション (西から)



96号溝全景 (南から)



96号溝セクション (南から)



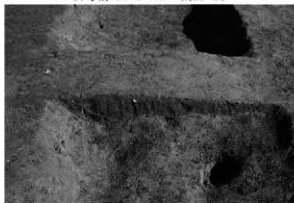
97号溝全景 (東から)



97号溝セクション (東から)



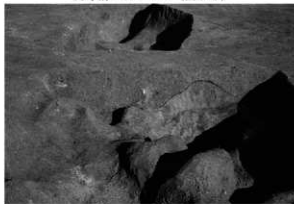
98号溝全景 (東から)



98号溝セクション (西から)



100号溝全景 (南から)



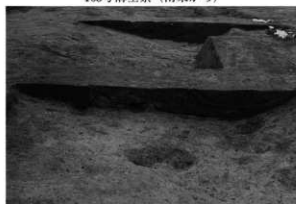
100号溝セクション (南から)



105号溝全景 (南東から)



105号溝A-A'セクション (南東から)



105号溝B-B'セクション (南東から)



108号溝全景 (南から)



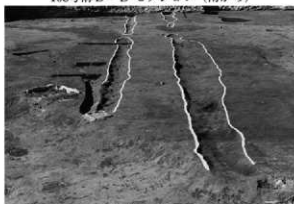
108号溝A-A'セクション (南から)



108号溝B-B'セクション (南から)



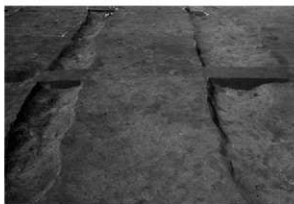
108号溝C-C'セクション (南から)



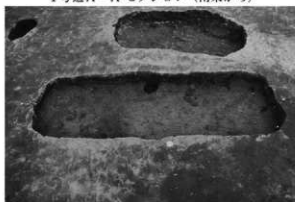
1号道全景 (南東から)



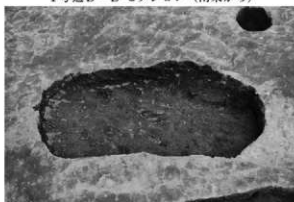
1号道A-A'セクション (南東から)



1号道B-B'セクション (南東から)



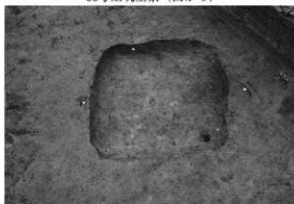
65号土坑全景 (西から)



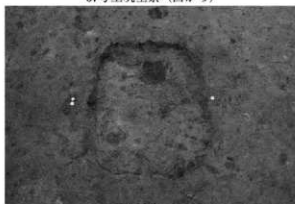
66号土坑全景 (西から)



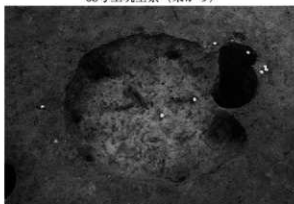
67号土坑全景 (西から)



68号土坑全景 (東から)



69号土坑全景 (南から)



70号土坑全景 (西から)



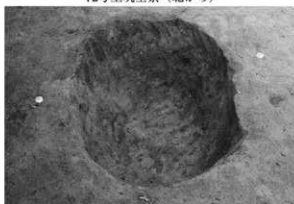
71号土坑セクション (西から)



72号土坑全景 (北から)



76号土坑セクション (南から)



185号土坑全景 (南から)



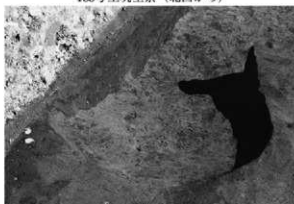
186号土坑全景 (南から)



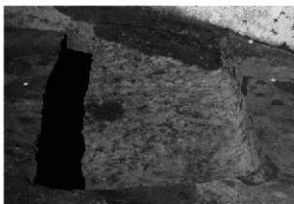
188号土坑全景 (北西から)



195号土坑全景 (南東から)



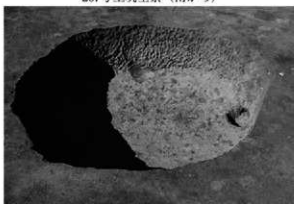
206号土坑全景 (西から)



207号土坑全景 (南から)



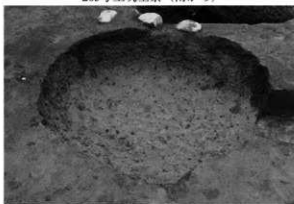
208号土坑全景 (南から)



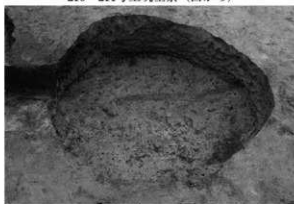
209号土坑全景 (南から)



210・211号土坑全景 (西から)



210号土坑全景 (西から)



211号土坑全景 (西から)

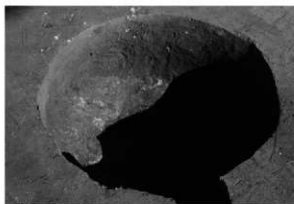


212号土坑全景 (南から)



213号土坑全景 (南西から)

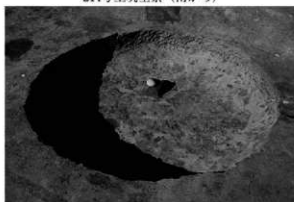




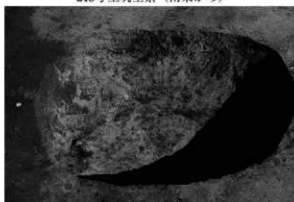
214号土坑全景 (南から)



215号土坑全景 (南東から)



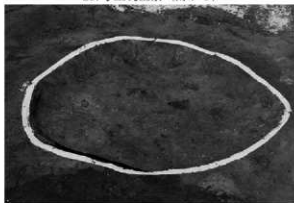
216号土坑全景 (南から)



217号土坑全景 (南から)



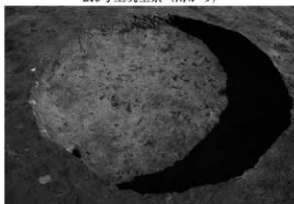
218号土坑全景 (東から)



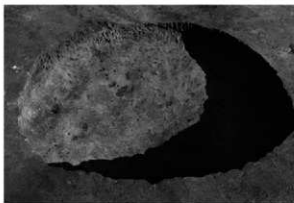
219号土坑全景 (南から)



220号土坑全景 (南から)



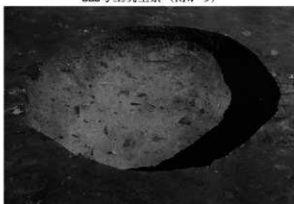
221号土坑全景 (南から)



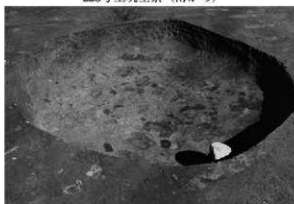
222号土坑全景 (南から)



223号土坑全景 (南から)



224号土坑全景 (南から)



238号土坑全景 (南から)



239号土坑全景 (南から)



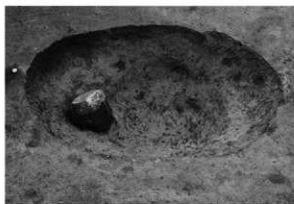
241号土坑全景 (南から)



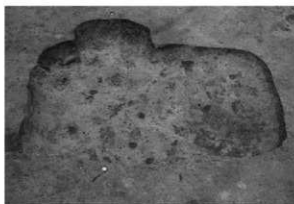
242号土坑全景 (南から)



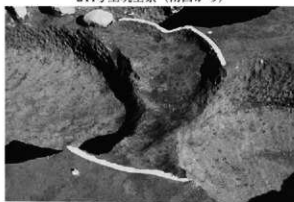
243号土坑全景 (南から)



244号土坑全景 (南西から)



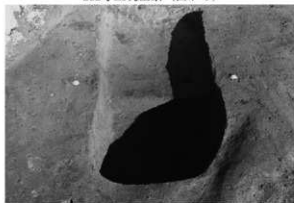
245号土坑全景 (東から)



252号土坑全景 (西から)



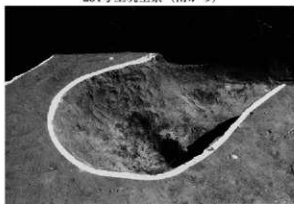
253号土坑全景 (南から)



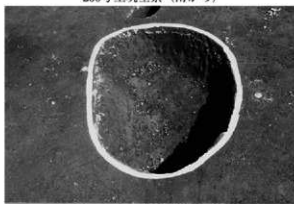
254号土坑全景 (南から)



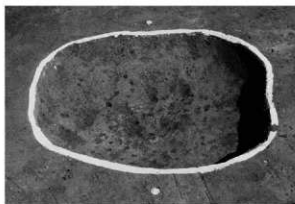
260号土坑全景 (南から)



261号土坑全景 (西から)



262号土坑全景 (南から)



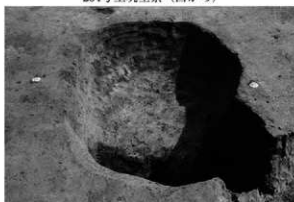
263号土坑全景 (西から)



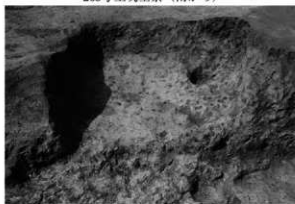
264号土坑全景 (西から)



265号土坑全景 (南から)



277号土坑全景 (南から)



278号土坑全景 (東から)



11区土器集中部 (西から)

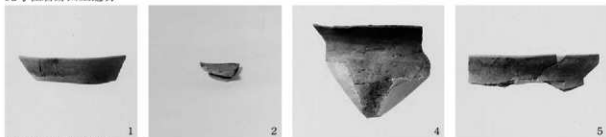


11区土器集中部北側 (西から)



11区土器集中部南側 (西から)

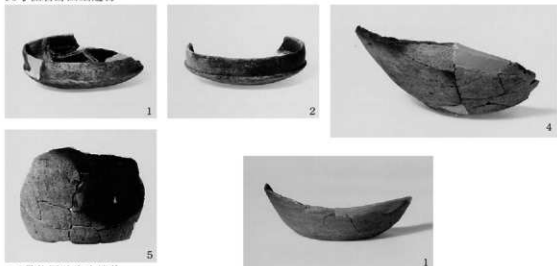
92号住居跡出土遺物



93号住居跡出土遺物



96号住居跡出土遺物



108号住居跡出土遺物





4



5

109号住居跡出土遺物



2



3



4



5



6



8

111号住居跡出土遺物



7



1



2

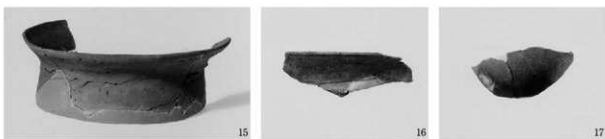


3

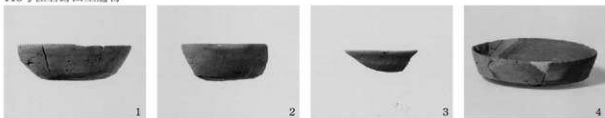


112号住居跡出土遺物





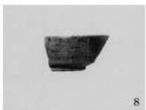
113号住居跡出土遺物







114号住居跡出土遺物

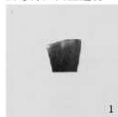






9号井戸出土遺物

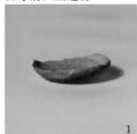
10号井戸出土遺物



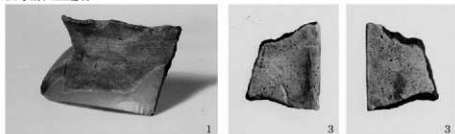
31号溝出土遺物



32号溝出土遺物



81号溝出土遺物



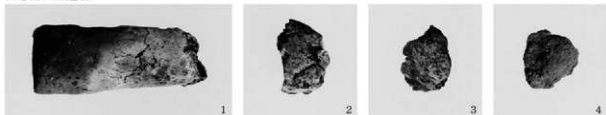
83号溝出土遺物



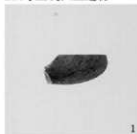
108号溝出土遺物



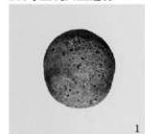
91号溝出土遺物



214号土坑出土遺物



216号土坑出土遺物



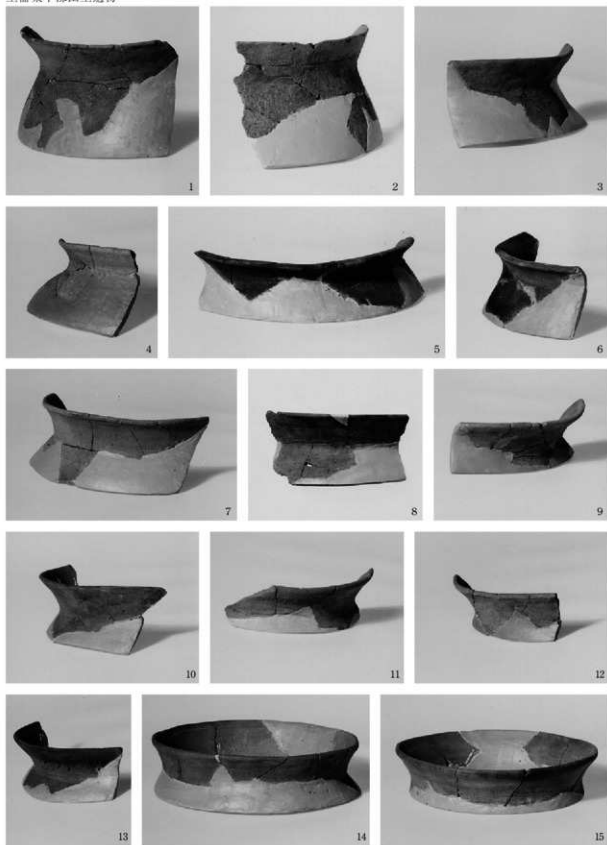
701号ピット出土遺物



786号ピット出土遺物

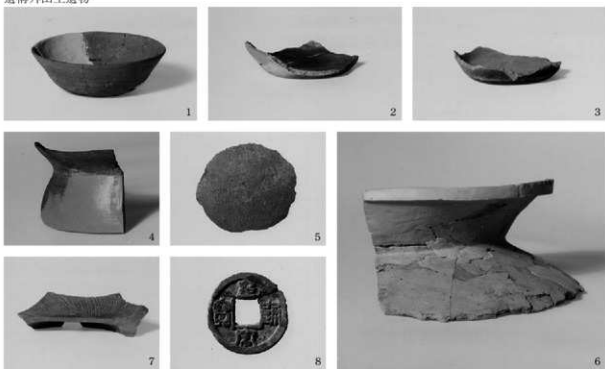


## 土器集中部出土遺物





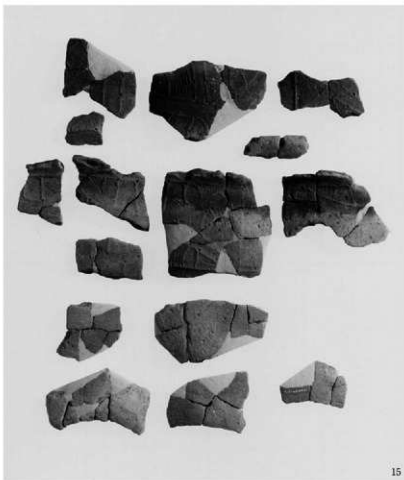
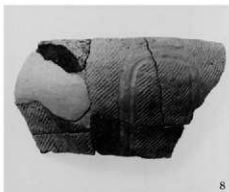
遺構外出土遺物



東今泉鹿島遺跡の縄文時代出土遺物











16



17



19



19



20



20



27



21



21



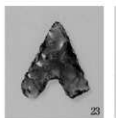
22



22



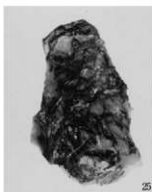
26



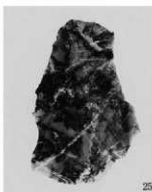
23



24



25



25



28



29



29



財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第417集

## 向 矢 部 遺 跡

国道122号道路改築事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第2集

平成19年11月30日印刷

平成19年11月30日発行

編集・発行／財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

〒377-8555 群馬県渋川市北碓町下箱田784番地の2

電話 (0279)52-2511 (代表)

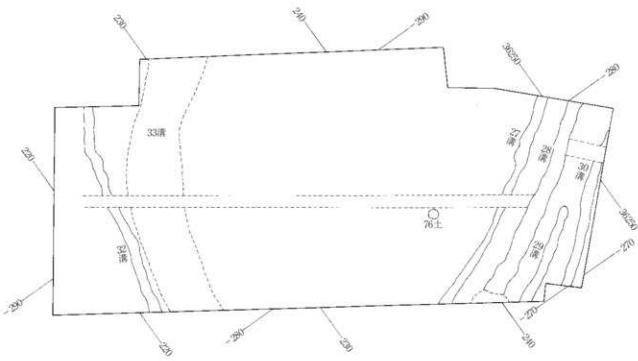
ホームページアドレス <http://www.gunmaibun.org/>

印刷／株式会社 関文社印刷所

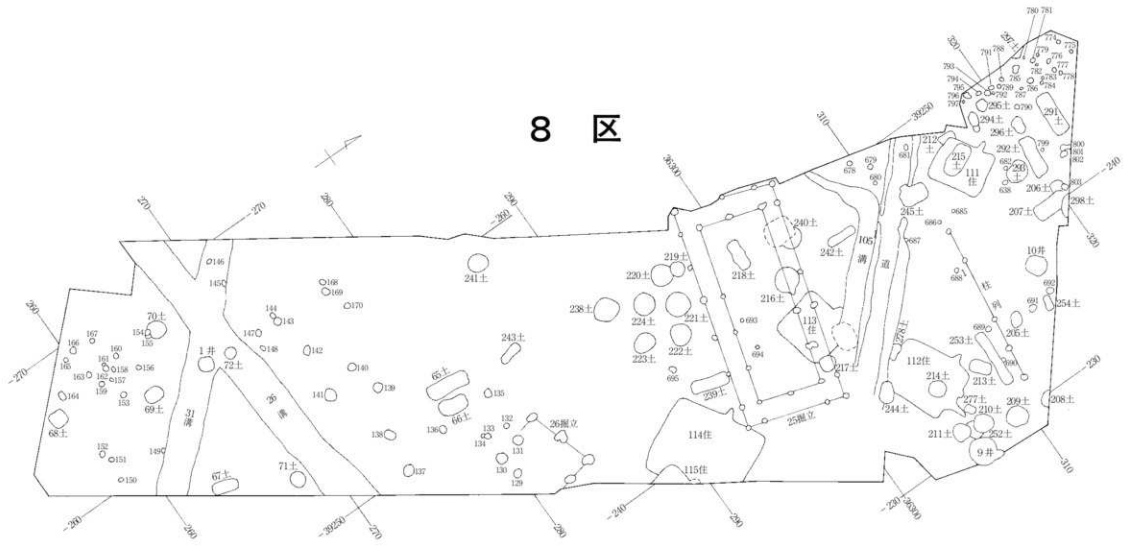


# 付図 向矢部遺跡全体図 (1/250)

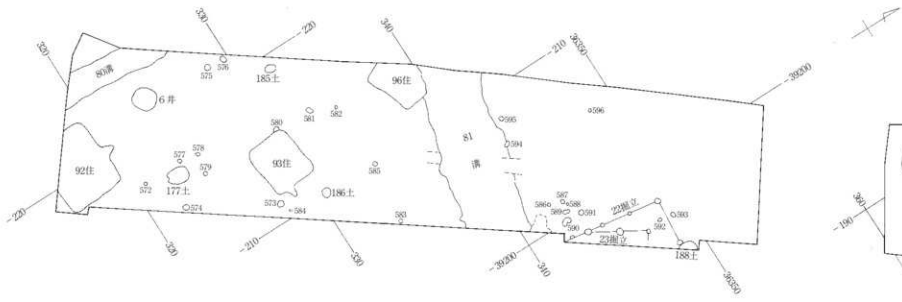
7 区



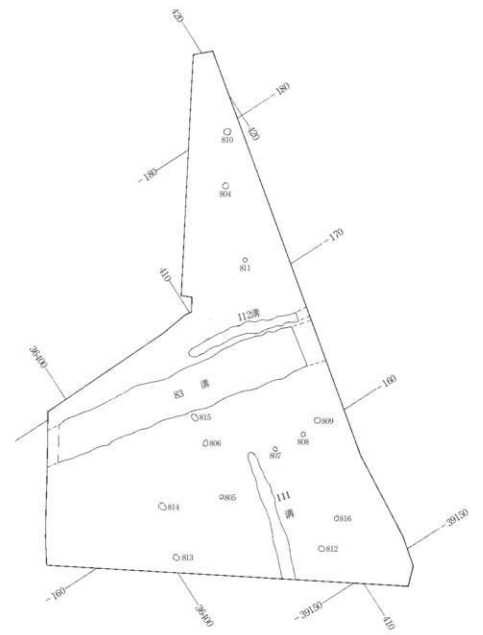
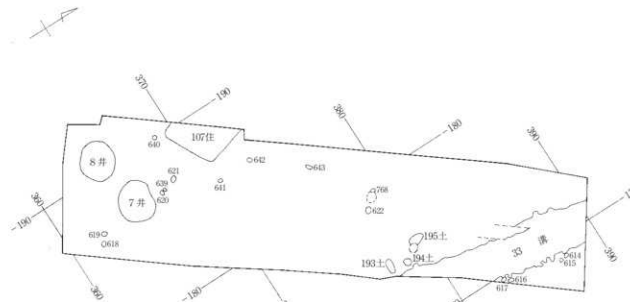
8 区



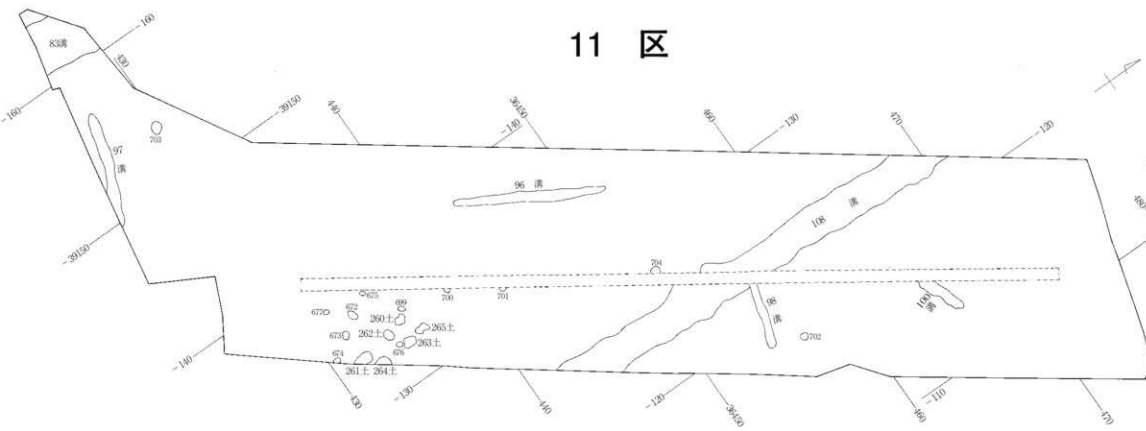
9 区



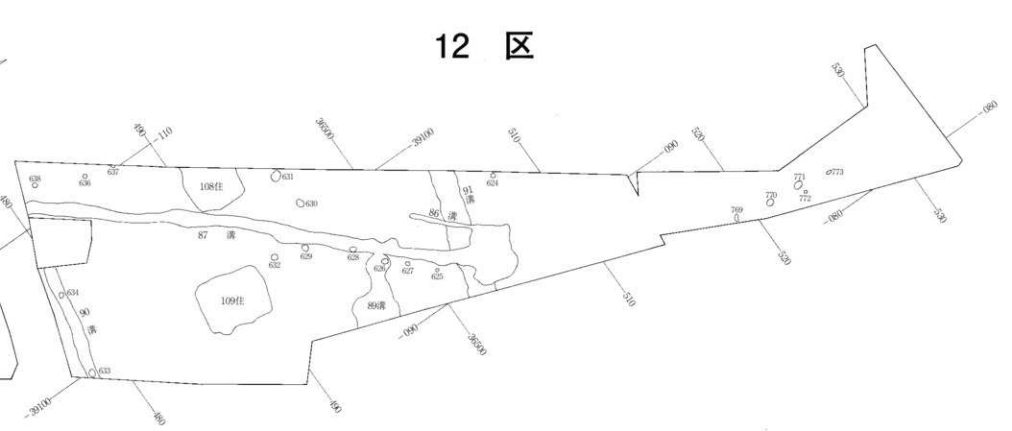
10 区



11 区



12 区



0 1:250 20m